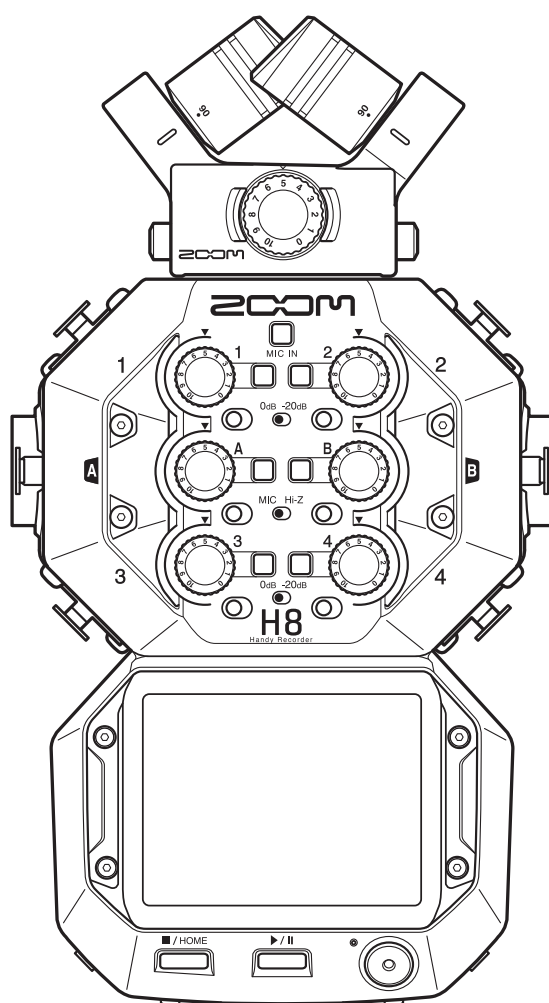


H8

Handy Recorder



オペレーションマニュアル

ご使用になる前に「安全上の注意／使用上の注意」を必ずお読みください

© 2021 ZOOM CORPORATION

本マニュアルの一部または全部を無断で複製／転載することを禁じます。
 文中の製品名、登録商標、会社名は、それぞれの会社に帰属します。文中のすべての商標および登録商標は、
 それらの識別のみを目的として記載されており、各所有者の著作権を侵害する意図はありません。
 白黒端末では正しく表示できません。

オペレーションマニュアルについて

このマニュアルは将来必要となることがありますので、必ず参照しやすいところに保管してください。
本書の内容および製品の仕様は予告なしに変更されることがあります。
本書では、タッチスクリーンで表示される項目名はグレーの帯で表示しています。(例：決定、オン)

- ◎ Windows® は、Microsoft® 社の商標または登録商標です。
- ◎ macOS、iPadOS は、Apple Inc. の商標または登録商標です。
- ◎ SD ロゴ、SDHC ロゴ、SDXC ロゴは商標です。
- ◎ Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、株式会社ズームはこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- ◎ 文中のその他の製品名、登録商標、会社名は、それぞれの会社に帰属します。
- * 文中のすべての商標および登録商標は、それらの識別のみを目的として記載されており、各所有者の著作権を侵害する意図はありません。
- * 他の者が著作権を保有する CD、レコード、テープ、実演、映像作品、放送などから録音する場合、私的使用の場合を除き、権利者に無断での使用は法律で禁止されています。著作権法違反に対する処置に関して、株式会社ズームは一切の責任を負いません。
- ◎ Google Spatial Audio HRIRs
Copyright 2016 Google Inc. All Rights Reserved.
This product includes HRTFs (Head Related Impulse Responses) developed by Google Inc.
Google Spatial Audio is released under Apache License 2.0.
<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

THESE HRTFs WERE MODIFIED BY ZOOM.
length: first 64 samples
filter: low shelf

はじめに

このたびは、ZOOM H8 Handy Recorder をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

H8 は、プロジェクトに応じて選べる3つのアプリ（フィールド、ミュージック、ポッドキャスト）と、バリエーション豊富な入力回路を搭載し、タッチスクリーンによる直感的な操作が可能な、あらゆるレコーディングに対応するハンディーレコーダーです。未永くご愛用下さい。

H8 の主な特長

フィールドアプリ

環境音や映画／ドラマ制作などの音声録音に向けた、最大12トラックの録音が可能なフィールドレコーディング用アプリです。各トラックのレベルチェックが容易に行える大型メーター表示に加え、ローカット、コンプレッサー、リミッター、ノイズゲートなどの信号処理や、カメラの動画との同期に便利なサウンドマーカー機能も使用できます。

ミュージックアプリ

最大10入力のMTRとして、大編成バンドのレコーディングも可能なアプリです（オプションのEXH-8使用時）。

レベルメーターやフェーダーといった音楽制作に重要なものをホーム画面に配置しました。

各チャンネルにはEQとコンプレッサーなどのダイナミクス系の信号処理を装備し、パンチイン／パンチアウトによる部分的な録り直しも可能な本格的な録音アプリです。また、ZOOMのエフェクター製品と同等のエフェクトが搭載されており、USB経由でGuitar Labに接続すれば、アンプ／キャビネットモデルやエフェクトの膨大なライブラリにアクセスできます。

ポッドキャストアプリ

H8をハンディーなポッドキャストレコーダーにするアプリです。ホーム画面上に配置された4つのサウンドパッドをタップすれば、効果音やジングルを鳴らして番組を盛り上げることができます（トラック3/4やステレオミックスにも記録）。サウンドパッドには13種類のプリセットサウンドの他に、SDカードの中の好みのサンプルを割り当てることも可能です。ステレオミックスファイルと同時に記録する機能を使えば、H8だけでポッドキャストファイルを作ることが可能です。

オプションのマイクカプセル

H8はZOOM独自のマイクカプセル端子を搭載し、用途に応じてマイクカプセルを取り替えることができます。

奥行きのある音像で録音できる付属のXYステレオマイク(XYH-6)の他、MSマイク(MSH-6)など既存オプションマイクカプセルが使用可能です。さらにH8は、XY-AB方式を切り換えられるマイク(XAH-8)、360°の音を記録できるAmbisonicマイク(VRH-8)、4つのXLR端子アタッチメント(EXH-8)といった新しい世代のマイクにも対応します。

バリエーション豊富な入力回路

マイクカプセル端子(MIC IN)の他に、XLR端子(インプット1-4)と、TRS/XLRコンボ端子(インプットA,B)を搭載。インプット1-4は、-20dB PADを使用して業務用ミキサーの出力に対応します。また、インプットA、BはHi-Zにも対応しているのでギターやベースを直接入力することができます。

iOS/iPadOS デバイスでリモート操作

オプションの無線アダプター(BTA-1)とiOS/iPadOSアプリ『H8 Control』を使用すれば、本体操作のタッチノイズを気にせずに離れた場所からH8を操作できます。

パソコンやiOS/iPadOS デバイスのオーディオインターフェースとして

パソコンやiOS/iPadOS デバイスにUSB経由で接続すれば、最大12トラックのオーディオインターフェースとしてDAWでの音楽制作やWEB会議に使用することができます。

用語について

エフェクト

音を歪ませたり（ディストーション）、揺らしたり（コーラス）、響かせたり（リバーブ）様々な効果（エフェクト）を加えることができます。エフェクトのパラメーターを調整して、自分だけの音作りを行えます。

パッチメモリー

使用エフェクトの ON/OFF やパラメーターの設定値を記録したものを“パッチメモリー”と呼び、簡単に呼び出すことができます。エフェクトの呼び出しや保存はパッチメモリー単位で行います。1つのパッチメモリーには最大3エフェクトが登録でき、50個まで保存できます。

オートセーブ

パッチメモリーやエフェクトの設定変更を自動的に保存する機能です。

サウンドパッド

オーディオファイルを割り当て、押されるとそのファイルを再生するパッドです。あらかじめ録音したインタビューを再生したり、オープニングやクロージング用の曲、ジングルを再生したいときに便利です。

プロジェクト

H8では録音、再生するデータをプロジェクトという単位で管理します。

トラックに割り当てるオーディオファイルや、パン、フェーダー、マークなどの設定はプロジェクトファイルに保存されます。プロジェクトは最大999個まで作成できます。

目次

オペレーションマニュアルについて	2	エフェクトを使う	68
はじめに	3	メトロノームを使用する	69
用語について	4	トラックに割り当てるファイルを設定する	74
H8 の概要	7	追加録音する	78
H8 の構成	7	プロジェクトをミキシングする	80
各部の役割	8	ポッドキャストアプリで録音する	83
マイクカプセルについて	12	ディスプレイ表示	83
タッチスクリーンの操作について	13	録音する	85
準備する	16	再生する	86
SD カードをセットする	16	サウンドパッドを使う	88
電源をセットする	17	録音の設定	91
電源を ON/OFF する	18	エフェクトを使う	95
誤操作を防止する (HOLD 機能)	18	エフェクトを使用するトラックと	
表示言語を設定する (初回起動時)	19	パッチメモリーを選択する	95
日付/時刻の設定 (初回起動時)	19	エフェクトパラメーターを調節する	100
接続する	20	パッチメモリーを設定する	101
接続例	20	プロジェクトを操作する	106
マイクカプセルを取り付ける/取り外す	21	フォルダー・ファイル構成	106
マイク/楽器/ミキサーなどを接続する	23	プロジェクトを操作する	107
入出力を設定する	25	オーディオインターフェースとして使用する	112
各入力トラックを設定する	25	H8 とパソコンまたは iOS/iPad OS デバイスを	
ヘッドフォン出力レベルを設定する	42	接続する	112
外部機器とのレベル調整をする		H8 からパソコンまたは iOS/iPad OS デバイスを	
(テストトーンを再生する)	43	取り外す	114
フィールドアプリで録音する	45	オーディオインターフェースとして設定する	115
ディスプレイ表示	45	SD カードを管理する	117
録音する	47	SD カードの情報を確認する	117
再生する	49	SD カードの性能をテストする	118
自動で録音する	50	SD カードを初期化する	121
時間をさかのぼって録音する (プリ録音)	54	カードリーダーとして使用する	122
サウンドマーカーを設定する	56	H8 とパソコンを接続する	122
L/R トラックを録音する	57	H8 からパソコンを取り外す	123
ミュージックアプリで録音する	59	チューナーを使用する	124
ディスプレイ表示	59	ギターをチューニングする	124
新規プロジェクトを作成する	61	チューナーのタイプを変更する	125
既存のプロジェクトを開く	63	チューナーの基準ピッチを設定する	126
録音する	65	フラットチューニングを使用する	128
再生する	67		

Guitar Lab を使用する	130
Guitar Lab を接続する	130
Guitar Lab を切断する	130
日時を設定する	131
日時を設定する	131
日付の形式を設定する	132
電池の種類を設定する	134
録音中／再生中のマークの付け方を設定する	135
LCD を設定する	136
LCD の明るさを設定する	136
LCD のバックライトを設定する	137
電源の自動 OFF 機能を設定する (オートパワーオフ)	139
iOS/iPad OS デバイスから操作する	141
iOS/iPad OS デバイスと接続する	141
iOS/iPad OS デバイスとの接続を解除する	143
表示言語を設定する	144
設定を初期値に戻す	145
ファームウェアを管理する	146
ファームウェアのバージョンを確認する	146
ファームウェアをアップデートする	146
オプションのマイクカプセルを使用する	147
XAH-8 を使用する	147
EXH-8 を使用する	150
VRH-8 を使用する	154
付録	160
故障かな？と思われる前に	160
仕様	162

H8 の概要

H8 の構成

H8 は目的に応じた3つのアプリを搭載しており、ホーム画面から起動することができます。

フィールドアプリ

フィールドレコーディングする時に使います。
自然の中で聴こえる音を録音してオリジナルの
効果音を手に入れることができます。



ポッドキャストアプリ

ポッドキャスト用の配信音源の制作や
ライブストリーミングに適したアプリ
です。スマートフォンやパソコンなど
で気軽に聴くことができるコンテンツ
を作成できます。



ホーム画面



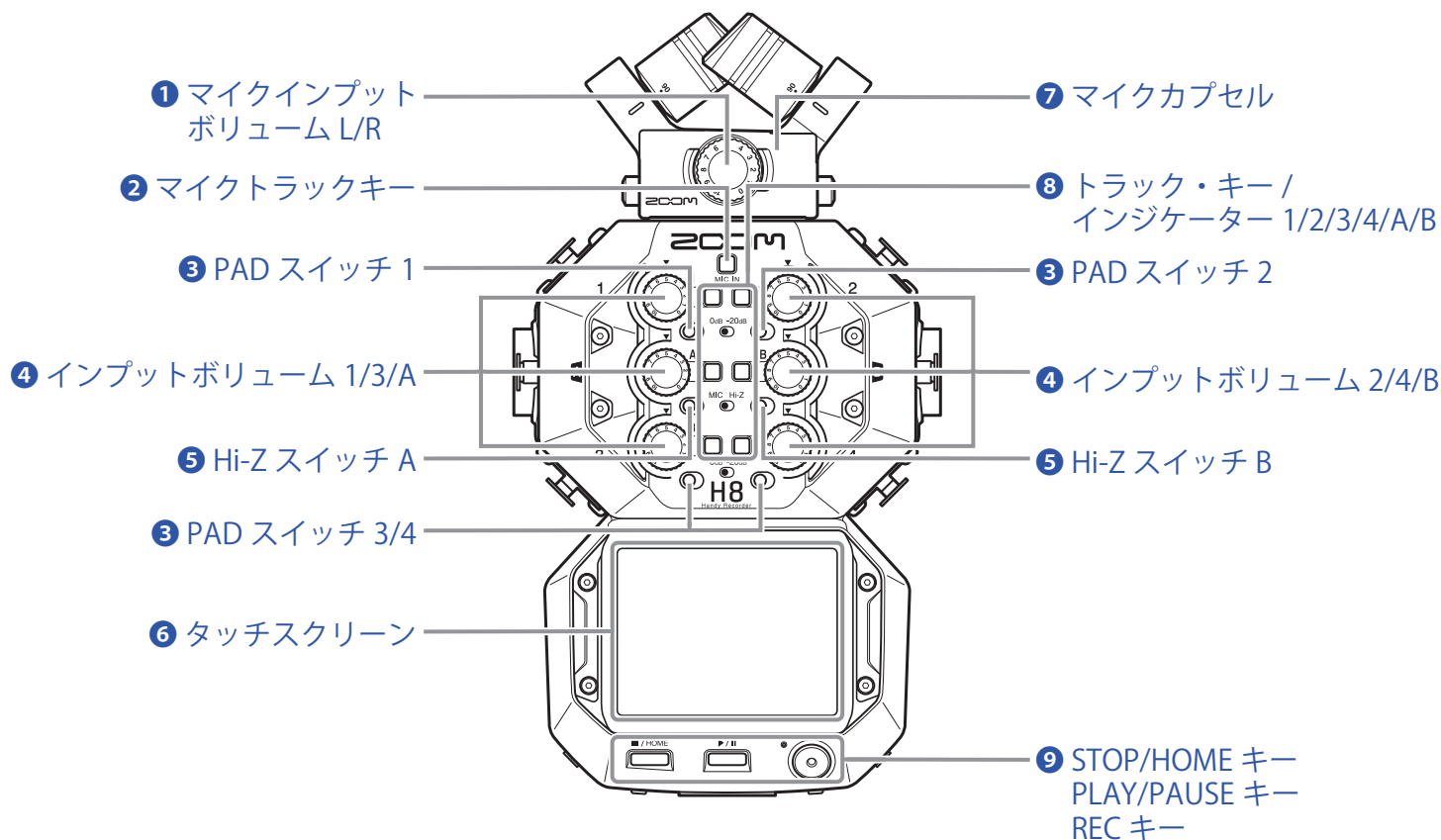
ミュージックアプリ

音楽制作するときに使います。
録音したドラムの音を聴きなが
らギターを重ねて録音した
り納得のいくまで何度もボーカ
ルを録り直すこともできます。



各部の役割

■ 上面



① マイク入力ボリューム L/R

マイクの入力ボリュームを調節します。

② マイクトラックキー

マイクトラックのオン/オフをします。

③ PAD スイッチ 1～4

インプット 1～4 に接続した機器の入力信号を 20 dB 減衰させます。
ラインレベルの機器を接続するときに PAD スイッチを [-20dB] 側にします。

④ インプットボリューム 1/2/3/4/A/B

インプットボリュームを調節します。

⑤ Hi-Z スイッチ A/B

インプット A/B のインピーダンスを切り替えます。
ギターやベースギターを接続するときに Hi-Z スイッチを [Hi-Z] 側にします。

⑥ タッチスクリーン

各種情報が表示され、本体の設定などをタッチ操作で行えます。

7 マイクカプセル

目的に応じて付け替えることができます。

8 トラック・キー / インジケータ 1/2/3/4/A/B

インプットトラックをオン / オフします。

赤、緑に点灯しトラックの状態を表示します。入力された音声が大きな場合に高速点滅します。

9 STOP/HOME キー

プロジェクトの録音、再生を終了したり、ホーム画面またはアプリのトップ画面を表示したりします。

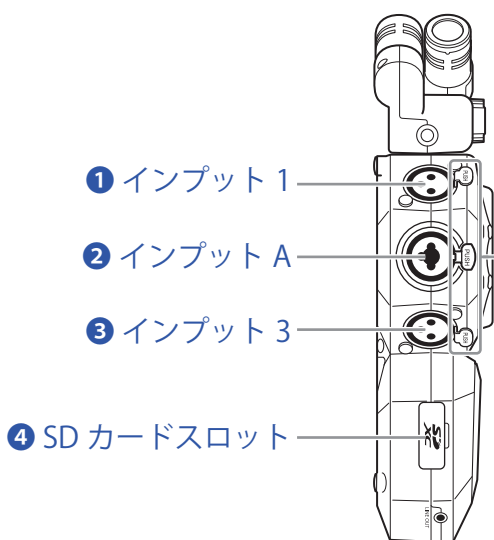
PLAY/PAUSE キー

録音したプロジェクトを再生 / 一時停止します。

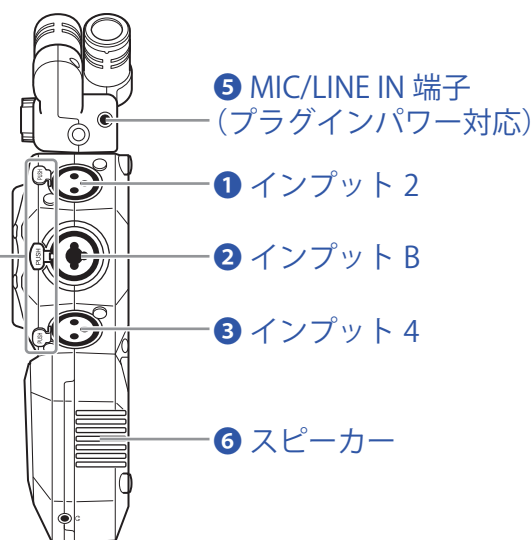
REC キー

録音を開始します。

■ 左側面



■ 右側面



1 インプット 1/2

マイクやキーボードを接続します。XLR プラグに対応します。

2 インプット A/B

マイクやキーボード、ギターを接続します。XLR、1/4 フォン（アンバランス）プラグに対応します。

3 インプット 3/4

マイクやキーボードを接続します。XLR プラグに対応します。

4 SD カードスロット

H8 は、SD/SDHC/SDXC 規格対応カードに対応します。

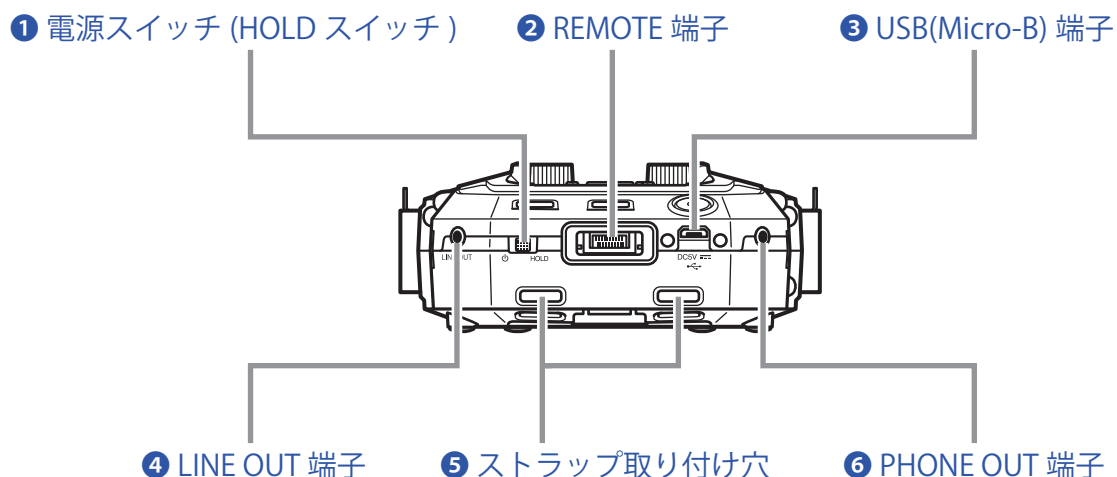
5 MIC/LINE IN 入力端子（プラグインパワー対応）

外部マイクを使用して録音できます。プラグインパワー方式のマイクを使用することができます。

6 スピーカー

プロジェクトを再生すると、ここから音声が出力されます。

■ 前面



① 電源スイッチ (HOLD スイッチ)

電源を ON/OFF したり、キー操作を無効にしたりします。

② REMOTE 端子

専用無線アダプター (BTA-1 など) を接続します。専用コントローラーアプリケーションを使って、iOS/iPad OS デバイスから H8 を操作できます。

③ USB(Micro-B) 端子

パソコンや iOS/iPad OS デバイスと接続して、H8 をオーディオ I/F やカードリーダーとして使用します。また、Guitar Lab を使用すると、パソコン上でパッチ管理やエフェクトの編集・追加などができます。専用の AC アダプター (ZOOM AD-17) を接続して、AC 電源で使用することもできます。

④ LINE OUT 端子

外部機器に音声を出力できます。

⑤ ストラップ取り付け穴

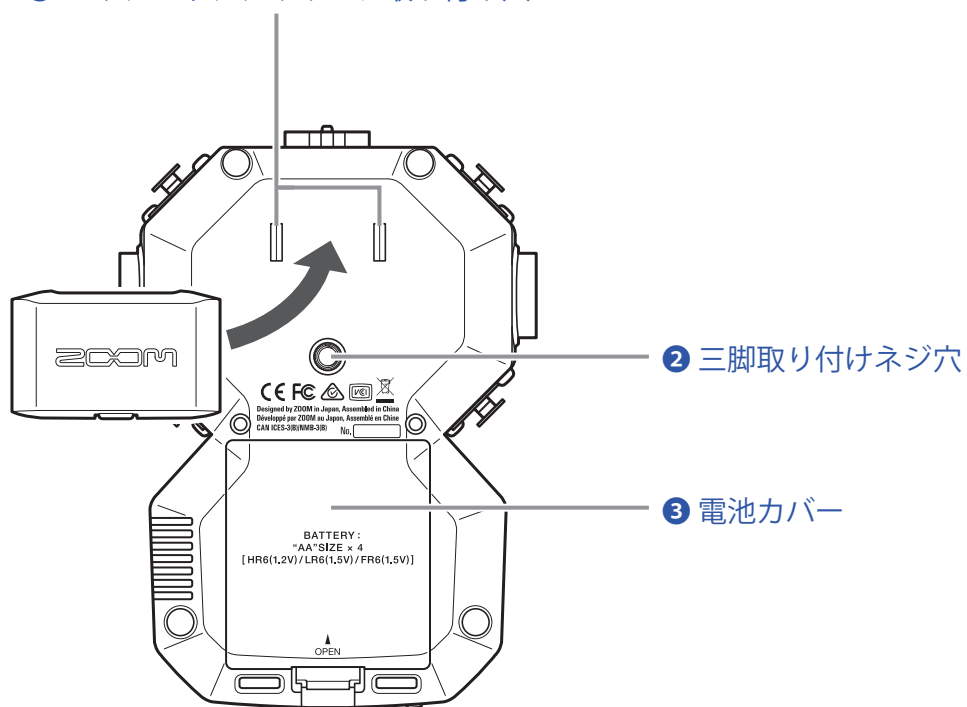
ストラップを取り付けるときに使用します。

⑥ PHONE OUT 端子

ヘッドフォンに音声を出力できます。

■ 底面

① マイクコネクタキャップ取り付け穴



① マイクコネクタキャップ取り付け穴

マイクコネクタキャップを取り付けるときに使用します。

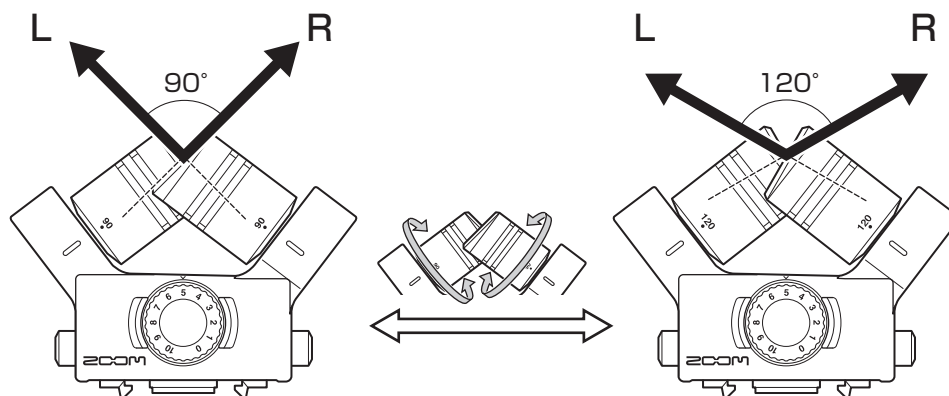
② 三脚取り付けネジ穴

市販の三脚を取り付けるためのネジ穴です。

③ 電池カバー

電池の取り付け／取り外しをするときに外します。

マイクカプセルについて



H8には、マイクカプセル（XYマイク）が付属しています。

XYマイクは、指向性マイクを交差させて配置したマイクです。マイクを回転させることにより集音角度を90°、120°に切り替えることができます。

特長：

大口径ダイヤフラムの搭載により、センターの音をしっかりとらえつつ、低域から高域まで左右の分離の良い録音ができます。

自然な奥行きと広がりをもった立体的なサウンドで、特定の音源を狙った近～中距離の録音に最適です。

例：ソロ演奏、室内楽、ライブラリハーサル、フィールドレコーディング

NOTE

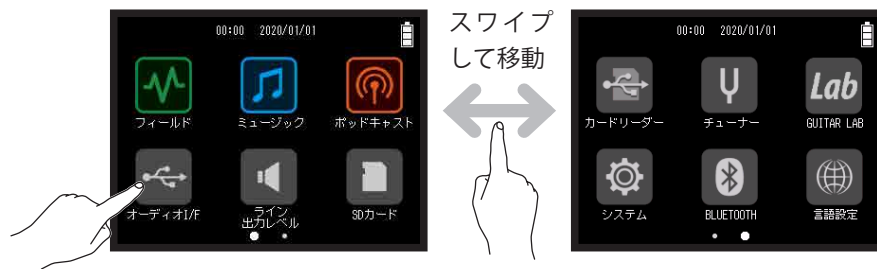
XYマイクには、外部マイクやライン機器を接続できるMIC/LINE IN入力端子が用意されています。プラグインパワー対応のマイクに電源を供給することもできます。（→ [28ページ](#)）

タッチスクリーンの操作について

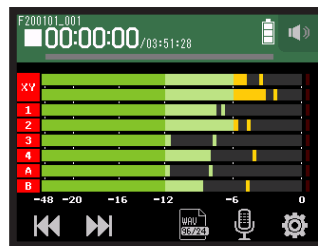
H8では、タッチスクリーン画面をタップ／スワイプ／スライドすることによって設定／調節したい機能を選択することができます。


ホーム画面

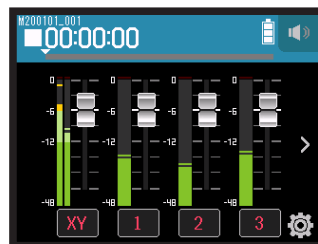
H8の電源を入れたときにタッチスクリーンに表示される画面です。
ホーム画面からは、3つの録音アプリや各種の設定画面などを起動できます。



-  アイコンをタップすると、フィールドアプリが起動します。



-  アイコンをタップすると、ミュージックアプリが起動します。



-  アイコンをタップすると、ポッドキャストアプリが起動します。



- その他のアイコンをタップすると、各種の設定画面などが起動します。

HINT

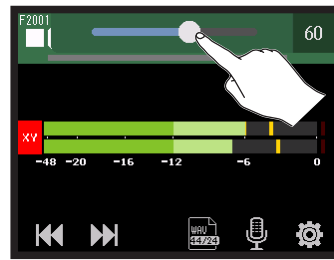
ホーム画面に戻るには、 を押します。

各画面での操作

タッチスクリーン画面をタップ/スライド/スワイプすることによって操作を行います。



タップ
(選択項目にタッチする)



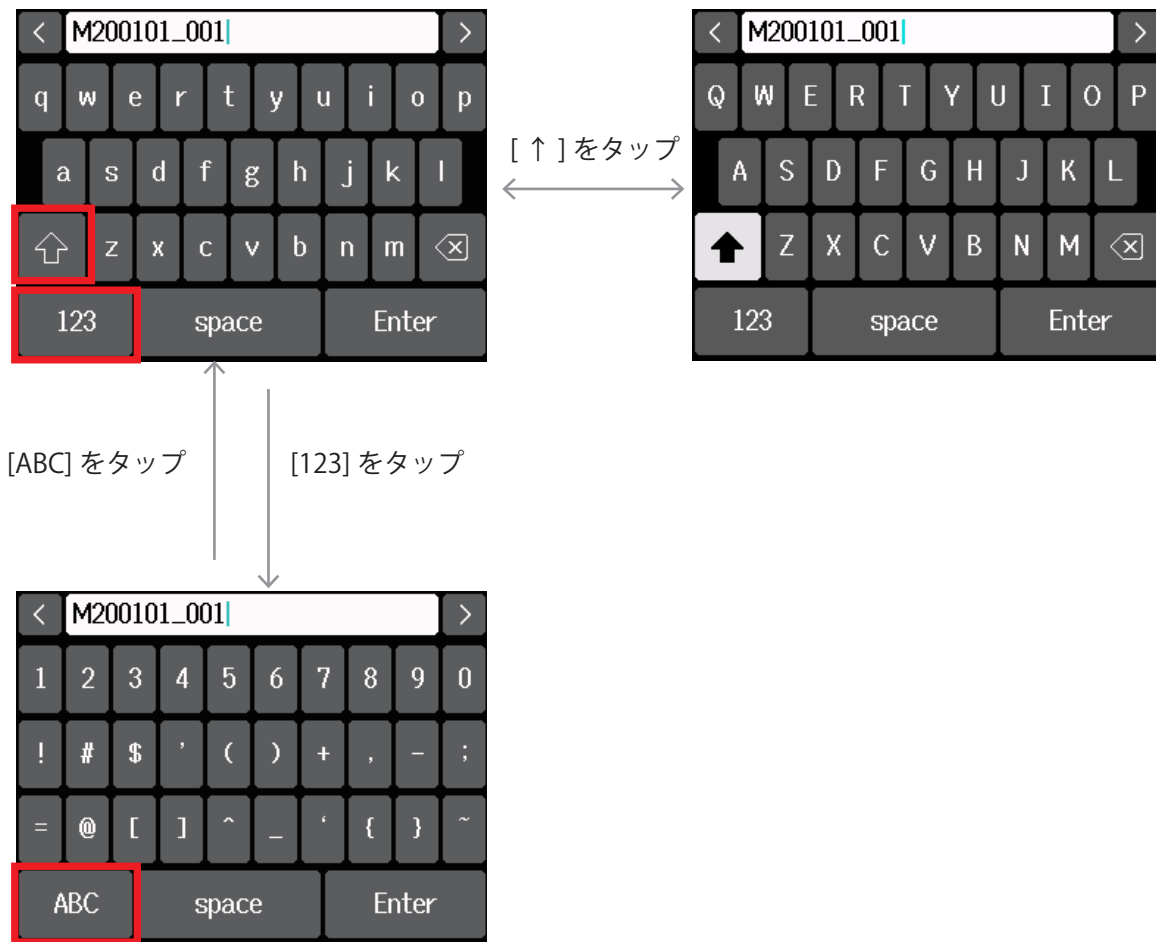
スライド
(タッチしたまま移動)



スワイプ
(タッチしたまま指を左右にすべらせる)

文字入力画面について



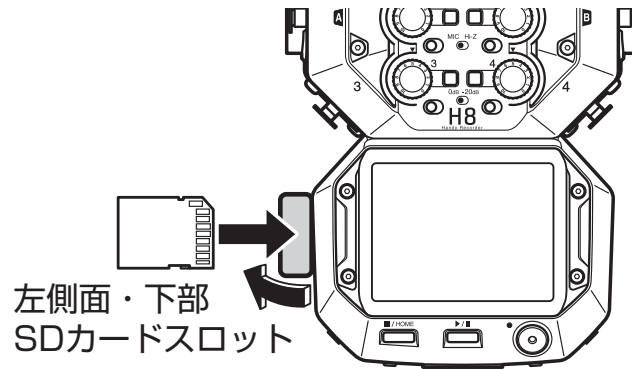


NOTE

プロジェクト名に使用できる文字は以下のとおりです。
 (スペース)!#\$%&'()*+,-0123456789;=@ABCDEFGHIJKLMNPQRSTUVWXYZ[]^_`abcdefghijklmnopqrstuvwxyz{}`

準備する

SD カードをセットする



1. 電源を OFF にしてから、SD カードスロットカバーを開ける

2. SD カードスロットに SD カードを挿し込む

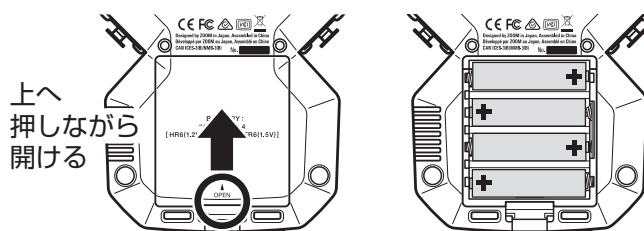
SD カードを取り出すときは、一度スロットの奥に押し込んでから引き抜いてください。

NOTE

- SD カードを抜き差しするときは、必ず電源を OFF にしてください。
電源が ON のままで行うと、データを破損させる恐れがあります。
- SD カードを抜き差しするときは、カードの向きや裏表に注意してください。
- SD カードが入っていないときは、録音や再生はできません。
- 新規にご購入いただいた SD カードは、性能を最大限に発揮させるため、必ず H8 で初期化してください。
(→ [121 ページ「SD カードを初期化する」](#))

電源をセットする

電池を使用する



1. 電源を OFF にしてから、電池カバーを開ける

2. 電池を取り付ける

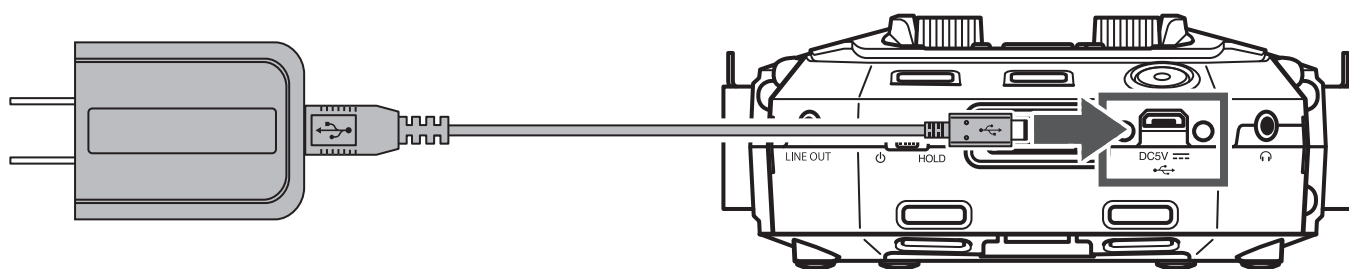
3. 電池カバーを閉じる

NOTE

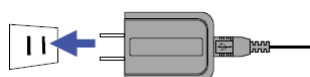
- アルカリ乾電池、ニッケル水素蓄電池、またはリチウム乾電池を使ってください。
- 電池マークが 0 になったときは、すぐに電源を OFF にし、新しい電池と交換してください。
- 電池残量を正確に表示するためには、ホーム画面>システム>電池設定から電池の種類を設定する必要があります。(→ 134 ページ「電池の種類を設定する」)

AC アダプターを使用する

1. USB 端子に専用の AC アダプター (ZOOM AD-17) のケーブルを接続する



2. 専用の AC アダプターをコンセントに接続する

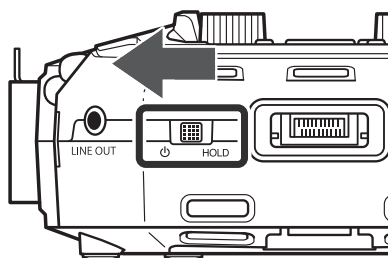


HINT

- 市販の 5V モバイルバッテリーを接続することもできます。
- パソコンと接続した場合は、USB から電源を供給できます。

電源を ON/OFF する

電源を ON にする



1.   HOLD を  側にスライドする

電源を OFF する

1.   HOLD を ZOOM のロゴマークが表示されるまで  側にスライドし続ける

NOTE

- ・「SD カードがありません!」と表示されたら、SD カードが正しくセットされているか確認してください。
- ・「SD カードが書き込み禁止です!」と表示されたら、SD カードに書き換え保護がかけられています。ロックスイッチをスライドさせてライトプロテクトを解除してください。
- ・「不正な SD カードです!」と表示されたら、フォーマットが不正です。初期化するか、別のカードを使用してください。(→ [121 ページ「SD カードを初期化する」](#))

誤操作を防止する (HOLD 機能)

誤操作を防止するために、ホールド機能を使用して H8 のキー操作およびタッチスクリーンの操作を無効にすることができます。

1.   HOLD を [HOLD] 側にスライドする

■ ホールドを解除する

-   HOLD を中央の位置に戻す

表示言語を設定する（初回起動時）

ご購入後、はじめて電源を ON にした後は、表示言語の設定画面が表示されるので、タッチスクリーンの表示言語を設定します。

1. 設定したい言語をタップする



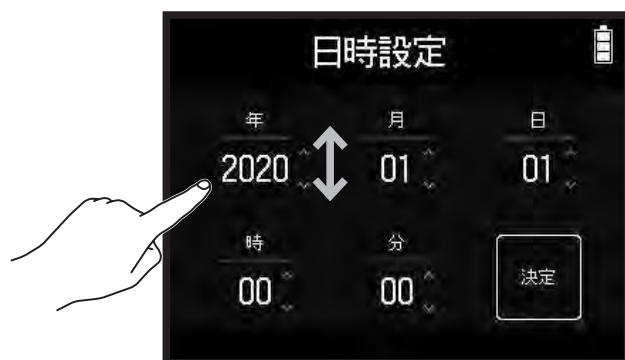
HINT

表示言語は、ホーム画面 > 言語設定で、後から設定し直すことができます。（→ [144 ページ](#)「表示言語を設定する」）

日付／時刻の設定（初回起動時）

言語設定の後、日付／時刻の設定画面が表示されるので、日付時刻を設定します。

1. 日付と時刻をスワイプさせて設定する



2. 決定 をタップする

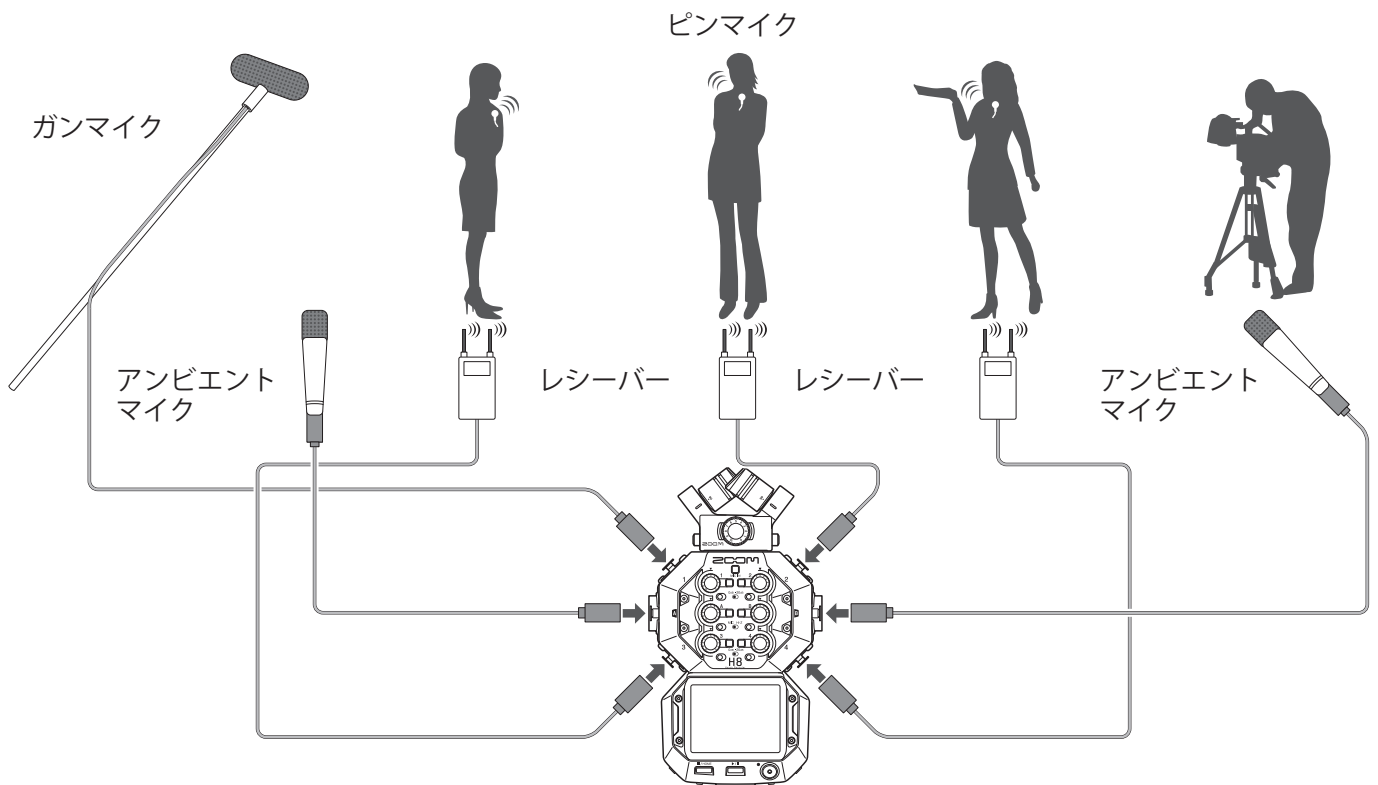
HINT

日付／時刻は、ホーム画面 > システム > 日付 / 時刻 > 日時設定で、後から設定し直すことができます。（→ [131 ページ](#)「日時を設定する」）

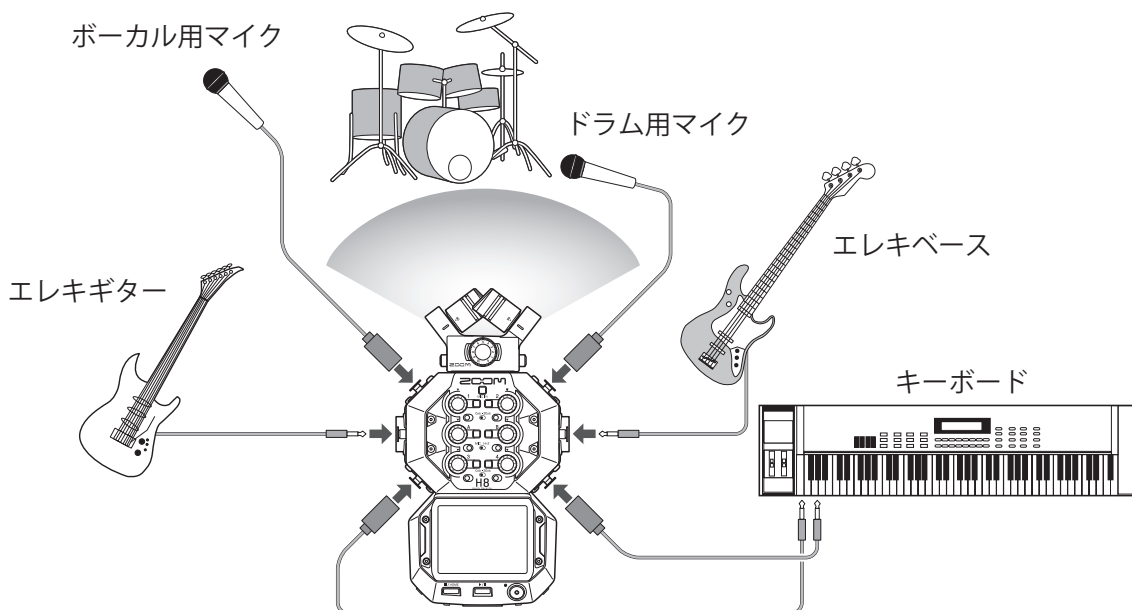
接続する

接続例

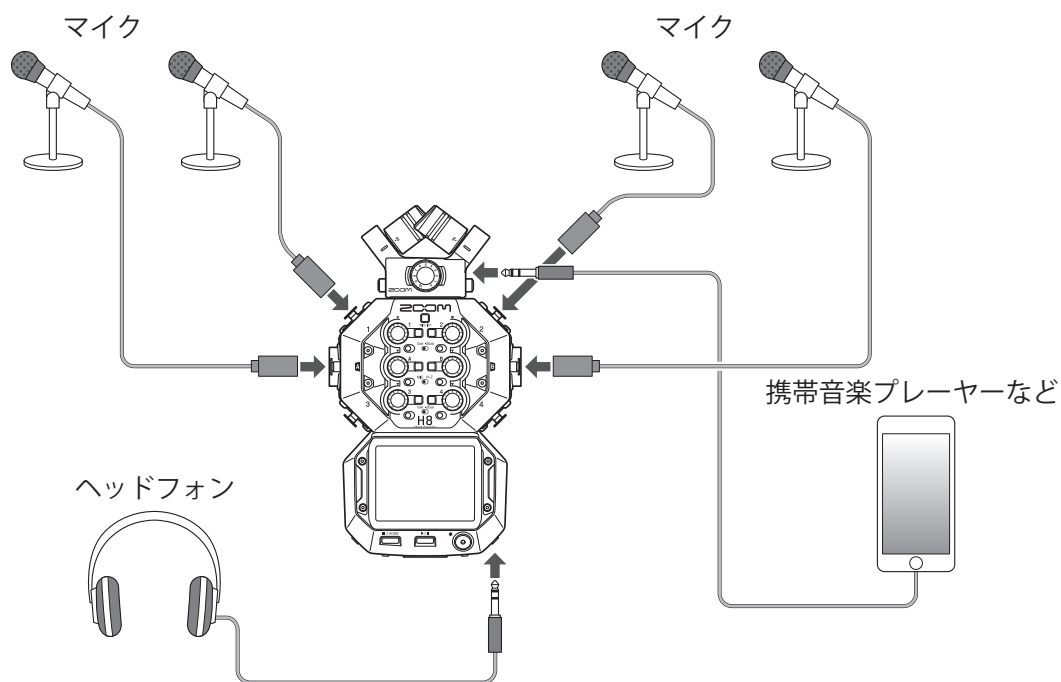
動画撮影の場合（フィールドアプリでの録音）



スタジオでのバンド録音の場合（ミュージックアプリでの録音）



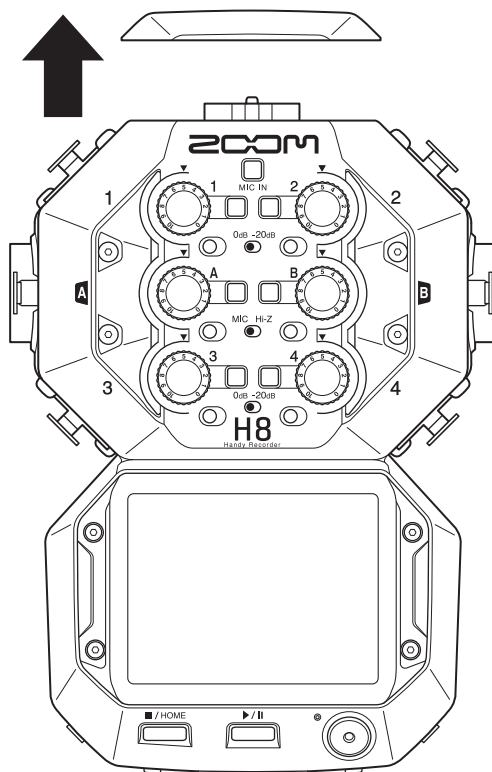
ポッドキャストの場合（ポッドキャストアプリでの録音）



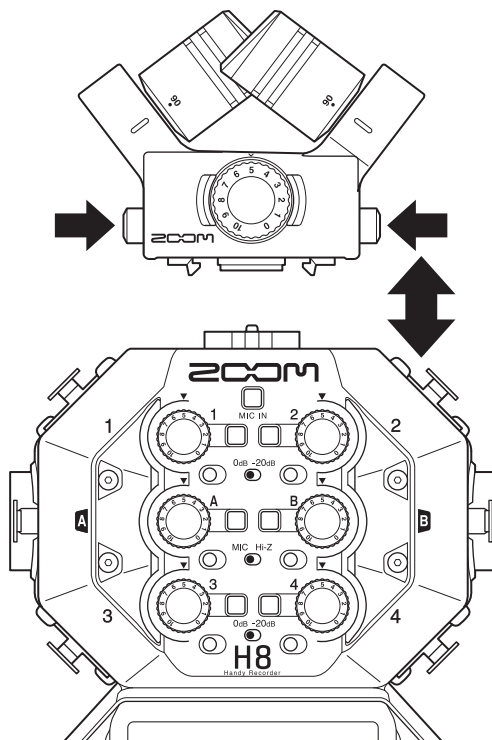
マイクカプセルを取り付ける／取り外す

マイクカプセルマイクを取り付ける

1. H8 本体とマイクに取り付けられている保護キャップを外す

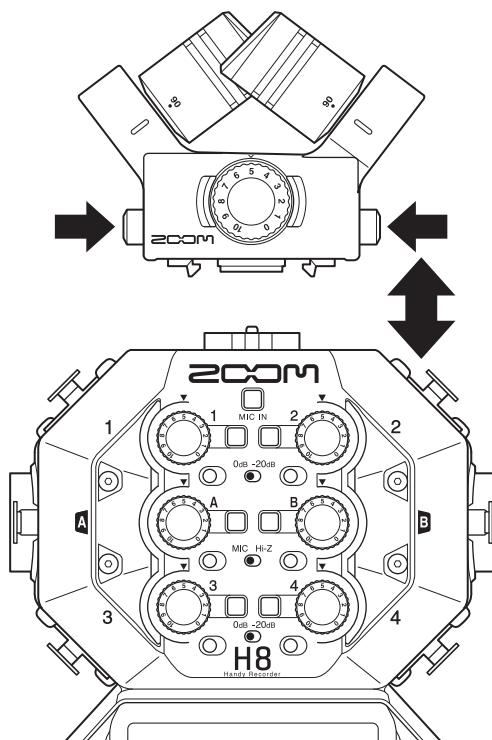


2. マイクの横にあるボタンを押しながら本体に取り付け、奥まで押し込む



マイクカプセルを取り外す

1. マイクの横にあるボタンを押しながら本体から引き抜く



NOTE

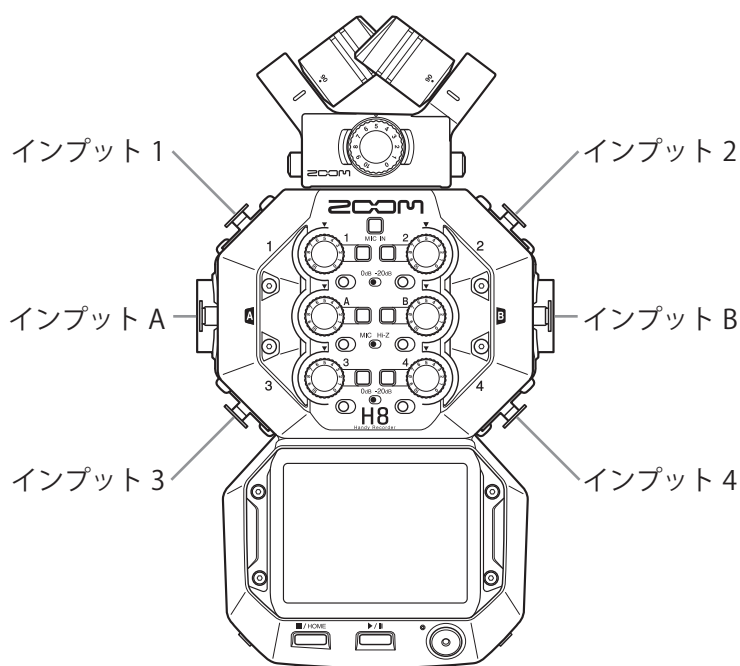
- 取り外すときは無理な力を加えないでください。マイクおよび本体が破損する恐れがあります。
- 録音中にマイクを取り外すと、録音が終了します。
- マイクを長期間取り外す場合は、保護キャップを取り付けてください。

マイク / 楽器 / ミキサーなどを接続する

H8は、最大4トラックに対応したマイクカプセルから入力に加え、インプット1～4、A/Bからの入力も備えており、それらをステレオミックスしたL/Rトラック（2トラック）を合わせて一度に最大12トラックの録音が可能です。

インプット1～4にはマイクなど、インプットA/Bには楽器などを接続することができ、それぞれインプットトラック1～4、A/Bへ録音されます。


マイクの接続

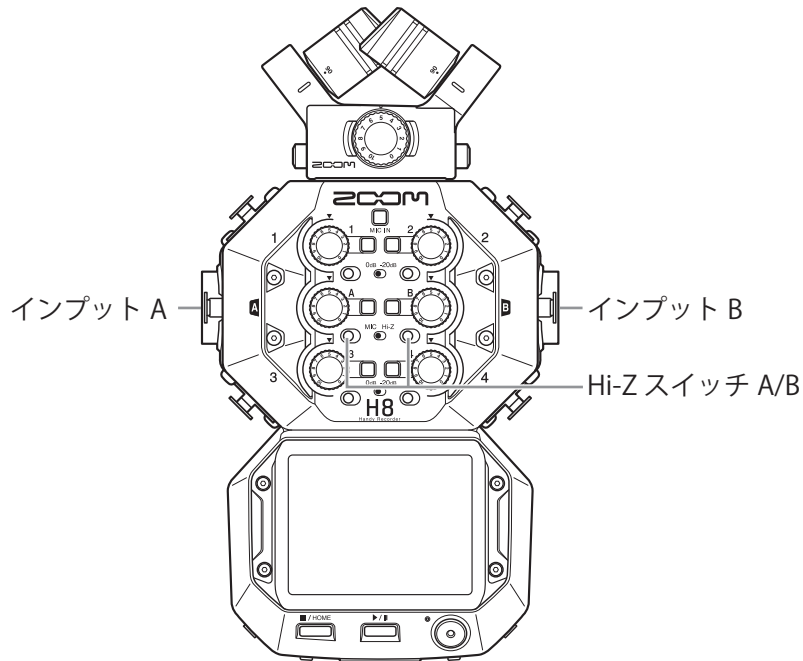


ダイナミックマイク、コンデンサーマイクを接続する場合は、XLRプラグをインプット1～4、A/Bに接続します。コンデンサーマイクにはファンタム電源（+24V/+48V）を供給することもできます。（→ [30ページ](#)）

楽器の接続

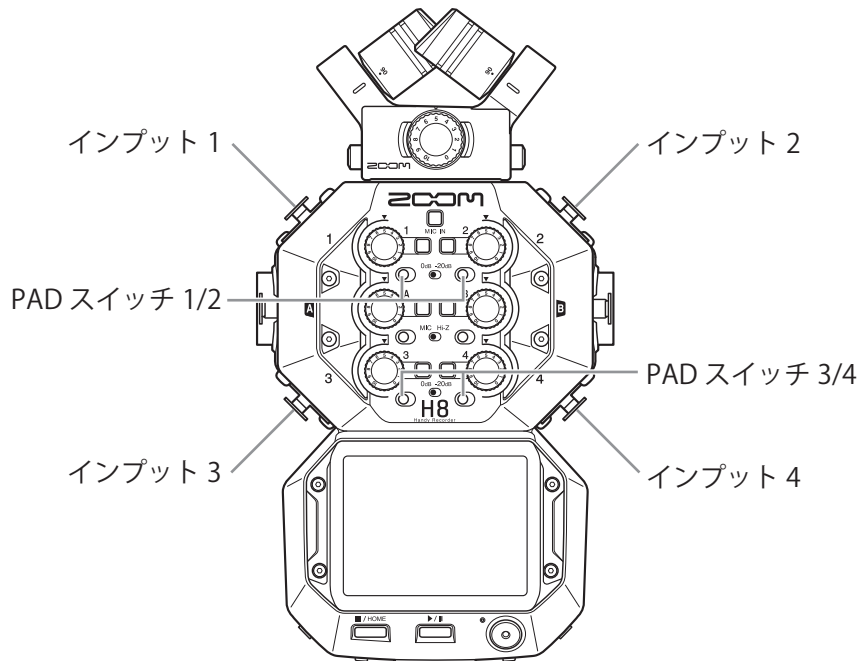
ギター、ベースギターを直接接続するときはモノラルプラグをインプットA/Bのどちらかに、キーボードのようなステレオ出力の楽器はインプットA/Bの両方に接続します。

ギターなど出力インピーダンスの高い機器の場合、該当するHi-Zスイッチ（)を[Hi-Z]側にすることで対応できます。



ミキサーなどの接続

キーボードやミキサーを接続する場合は、XLR ケーブルをインプット 1～4 に接続します。
出力基準レベルが +4 dB のミキサーなどには、該当する PAD スイッチ (●) を [-20dB] 側にすることで対応できます。



HINT

一般的なマイクを接続する場合は PAD スイッチを [0dB] 側にしてください。


入出力を設定する

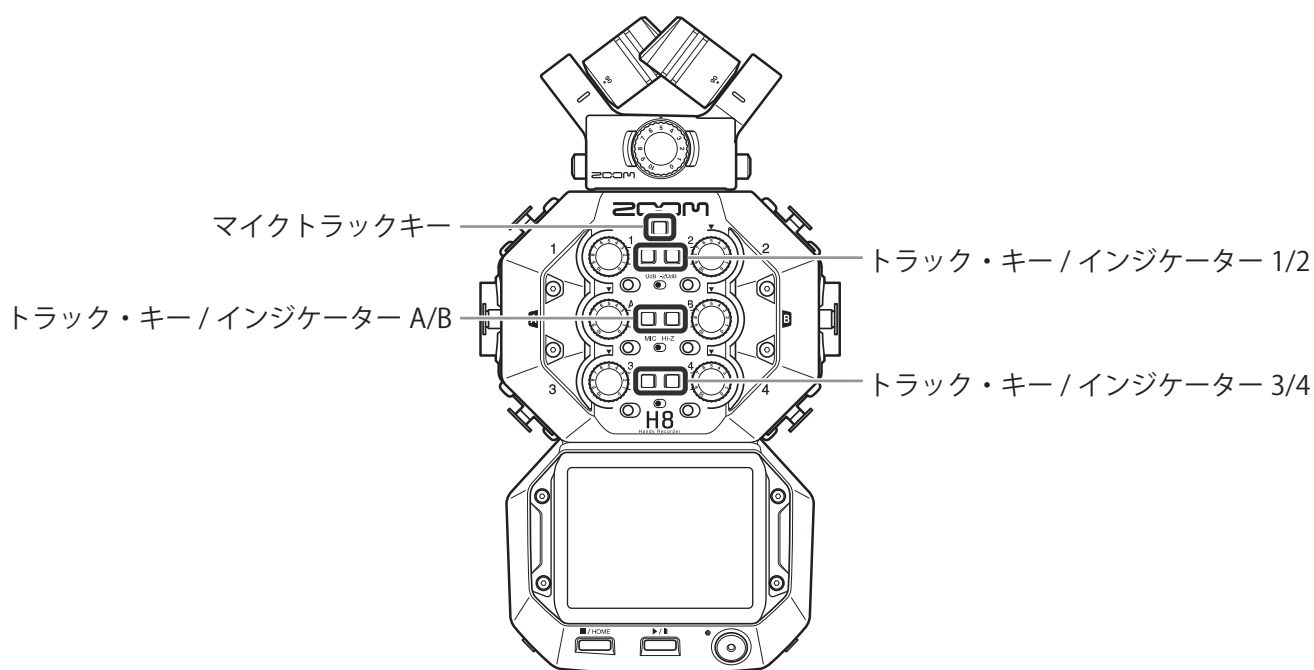
各入力トラックを設定する

録音するトラックを有効にする

録音するトラックを MIC IN、1～4、A/B の中から選択します。

トラック MIC IN、1～4、A/B は、それぞれ MIC IN、インプット 1～4、A/B に対応しています。

1. 録音アプリを起動する
2. 録音したいトラックのトラックキー () を押す
選択されたトラックキーのインジケーターが赤く点灯します。




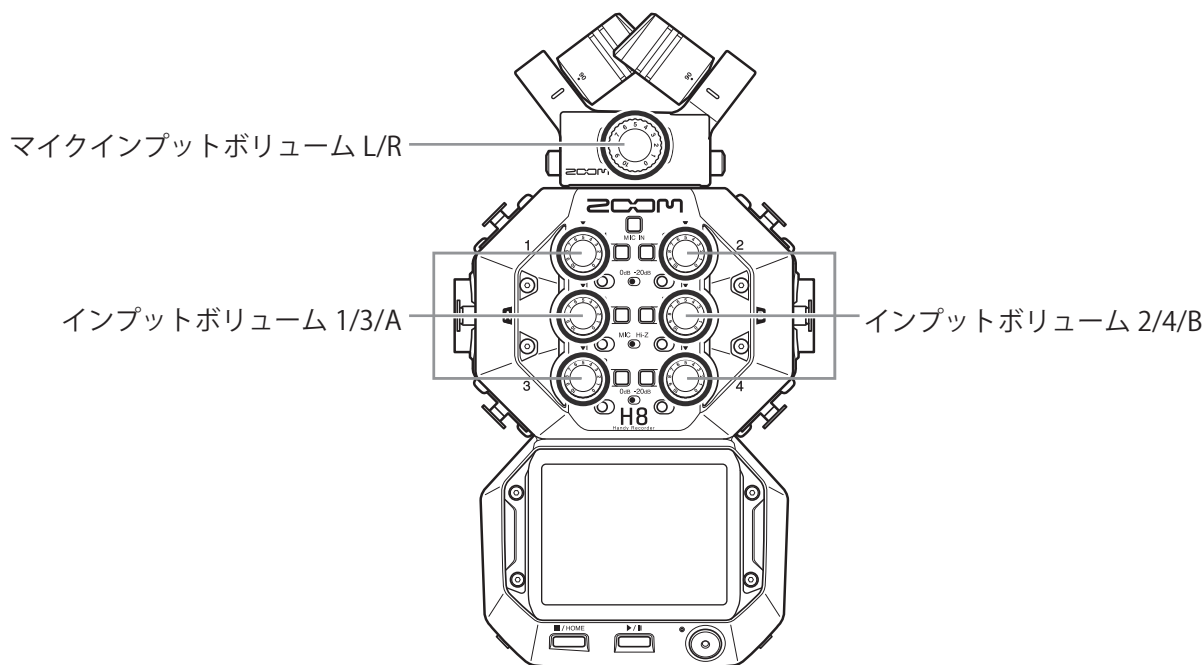
HINT

隣り合う2つのトラックキー (1と2、3と4、AとB) のうち、片方を押しながらもう片方を押すと、その2つのトラックはステレオトラックになり、SDカードにはステレオファイルが作成されます (ステレオリンク)。ステレオリンクを解除するには、同じ操作を行ってください。

録音（入力）レベルを設定する

録音する信号の入力レベルを調節します。

1. 選択したトラックに対応するインプットボリューム（）を回して入力レベルを調節する
ピーク時のレベルが -12 dB 付近で維持されるように調節します。



HINT

- 入力レベルを下げても音が歪む場合は、マイクの位置を調節したり、接続機器の出力レベルを調節してください。
- MIC/LINE IN 入力端子を搭載したマイクカプセルにプラグインパワーを供給する（→ [28 ページ「プラグインパワーを使用する」](#)）
- 低域カット機能を使用してレベルを調節できます。（→ [33 ページ](#)）
- コンプ/リミッター/ゲート機能を使用してレベルを調節できます。（→ [34 ページ](#)）

バックアップ録音する（フィールドアプリ / ポッドキャストアプリのみ）

MIC IN に 2ch までのマイクカプセルを使用した時に、設定した入力レベルから 12 dB 低い録音レベルで別のバックアップ録音ファイルを記録することができます。通常の録音ファイルの録音レベルが高すぎて歪んでしまったときなどに、差し替えることができます。

1. 各アプリからトラック設定画面を表示する

- フィールドアプリ画面 >  > トラックを選択する
- ポッドキャストアプリ画面 >  > トラックを選択する
の順にタップして選択する

2. バックアップをタップして、オンに設定する

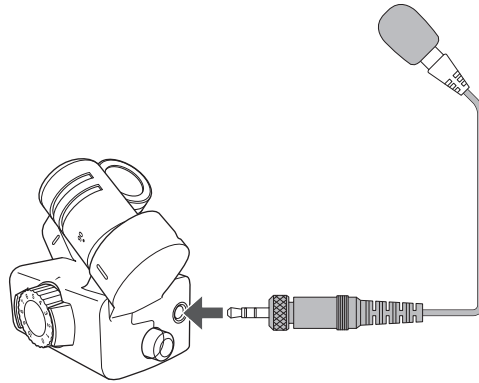


NOTE

- バックアップ録音には低域カットやコンプ / リミッター / ゲート設定は反映されません。
- バックアップ録音ファイルを再生するにはファイル名に「_BU」付加されたファイルをトラックに割り当て、選択して再生してください。（→ 74 ページ「トラックに割り当てるファイルを変更する」）

プラグインパワーを使用する

プラグインパワーに対応しているマイクをマイクカプセルの MIC/LINE IN 入力端子に接続する場合は、次の設定を行います。



1. 各アプリからトラック設定画面を表示する

- フィールドアプリ画面 >  > トラックを選択する
- ミュージックアプリ画面 > トラックを選択する > 
- ポッドキャストアプリ画面 >  > トラックを選択するの順にタップして選択する

2. プラグインパワー をタップして、オン に設定する





NOTE

プラグインパワーに対応しているマイクカプセルを接続した場合のみ、設定できます。

サイドマイクレベルを調節する

MS タイプのマイクを使用したトラックで、録音前にサイドマイクレベル（ステレオ幅）を調節できます。

1. 各アプリからトラック設定画面を表示する

- フィールドアプリ画面 >  > トラックを選択する
- ミュージックアプリ画面 > トラックを選択する > 
- ポッドキャストアプリ画面 >  > トラックを選択するの順にタップして選択する

2. MS サイドマイクレベル をタップする



3. を上下にスライドして調節する



HINT

- Off、 $-24 \sim +6$ dB の範囲、または RAW に設定できます。
- サイドマイクレベルの値が大きくなるにつれてステレオ幅が広がります。
- バックアップ録音を有効にした場合には、バックアップ録音結果にもサイドマイクレベルの設定が反映されます。

NOTE

- RAW を選択すると、MIC IN トラックへはステレオへのエンコードを行わずに録音されます。
- L/R トラックへの録音やミックスダウンではステレオへのエンコードが行われます。
- RAW 形式の音声は、ZOOM 「MS Decoder」などのプラグインソフトを使用することで録音後にステレオ幅を調節することができます。

ファンタム電源を設定する

H8 のインプット 1～4、A/B はファンタム電源に対応しています。+24 V、+48 V の電源を供給できます。

HINT

ファンタム電源とは、一部のコンデンサーマイクなど、外部電源で動作する機器に電力を供給する機能です。
+48V が一般的ですが、それより低電圧で動作する機器もあります。

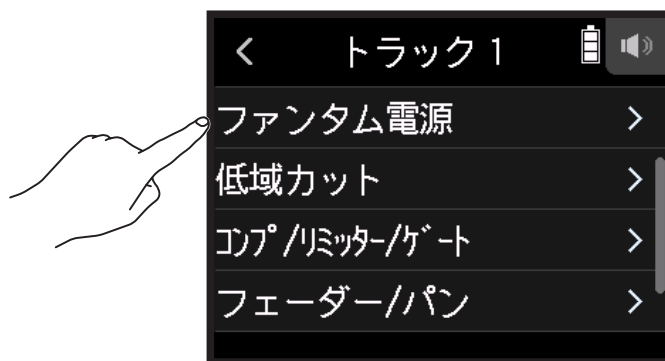
NOTE

ファンタム電源に対応していない機器にはこの機能を使用しないでください。機器が破損することがあります。

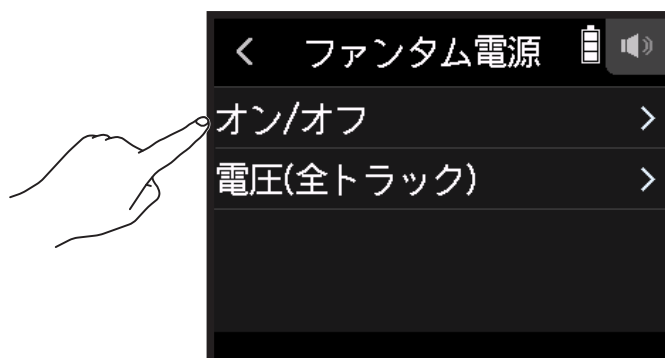
1. 各アプリからトラック設定画面を表示する

- フィールドアプリ画面 >  > トラックを選択する
 - ミュージックアプリ画面 > トラックを選択する > 
 - ポッドキャストアプリ画面 >  > トラックを選択する
- の順にタップして選択する

2. ファンタム電源 をタップする



3. オン/オフ をタップする






4. オンをタップする

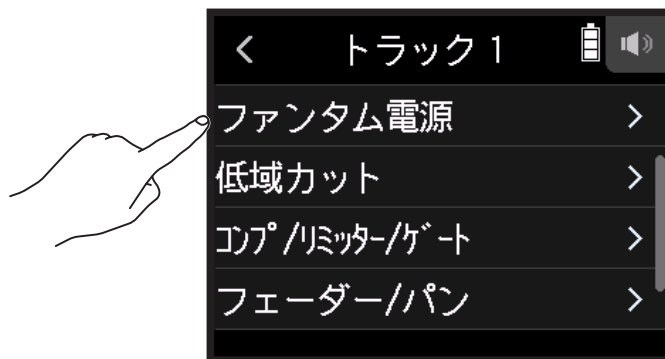


ファンタム電源の電圧を設定する

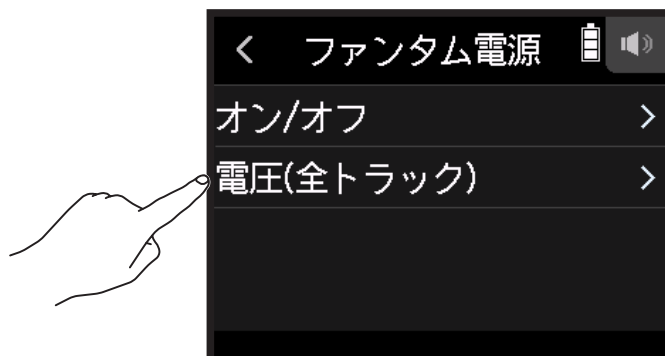
1. 各アプリからトラック設定画面を表示する

- フィールドアプリ画面 >  > トラックを選択する
- ミュージックアプリ画面 > トラックを選択する > 
- ポッドキャストアプリ画面 >  > トラックを選択する
の順にタップして選択する

2. ファンタム電源 をタップする



3. 電圧 (全トラック) をタップする



4. +24V または +48V をタップする





HINT

- + 48V より低い電圧でも動作するマイクや機器の場合、電圧を下げると H8 の消費電力を抑えることができます
- ファンタム電源の設定はすべてのトラックに共通の設定です。

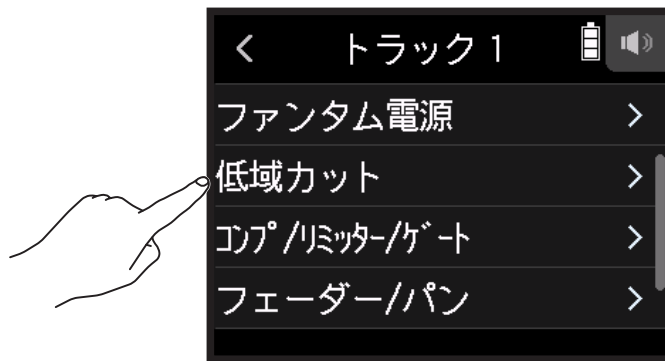
ノイズを軽減する（低域カット）

低域をカットして、風雑音やボーカルのポップノイズなどを軽減できます。

1. 各アプリからトラック設定画面を表示する

- ・フィールドアプリ画面 >  > トラックを選択する
- ・ミュージックアプリ画面 > トラックを選択する > 
- ・ポッドキャストアプリ画面 >  > トラックを選択するの順にタップして選択する

2. 低域カット をタップする



3. を上下にスライドしてカットする周波数を設定する



NOTE

バックアップ録音データには反映されません。

HINT

Off または 10 ~ 240Hz の範囲で設定できます。

コンプ / リミッター / ゲート

入力信号のレベルに応じて、適切に音量を調整し、聴き取りやすくすることができます。

■ コンプ

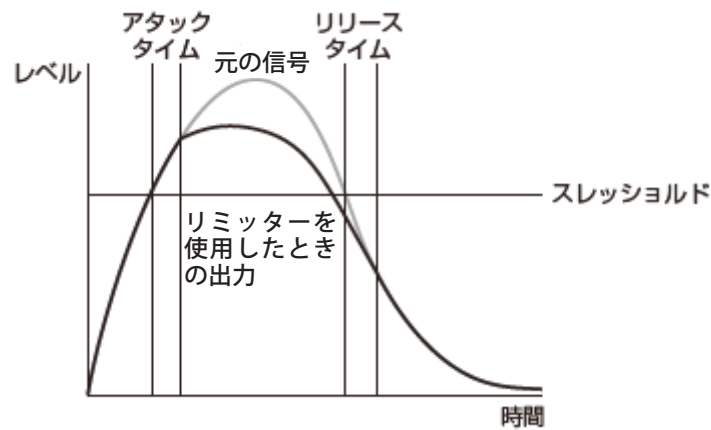
大きい音と小さい音の音量差を抑えて、聴き取りやすくします。

■ リミッター

レベルが大きい入力信号を抑えて、信号が歪むのを防ぎます。

■ ゲート


入力信号のレベルが小さい場合、バックグラウンドノイズを抑えます。



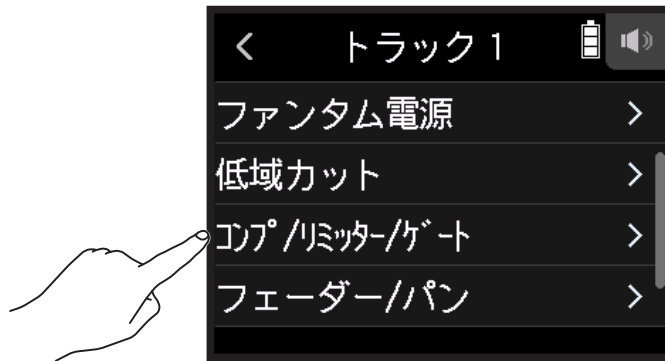
パラメーター	説明
スレッシュホールド	効果が現れる閾値を調節します。
アタックタイム	スレッシュホールドレベルを超えてから、効果が現れるまでの速さを調節します。
リリースタイム	スレッシュホールドレベルを下回ってから、効果が解除されるまでの速さを調節します。

■ コンプ/リミッター/ゲートを選択する

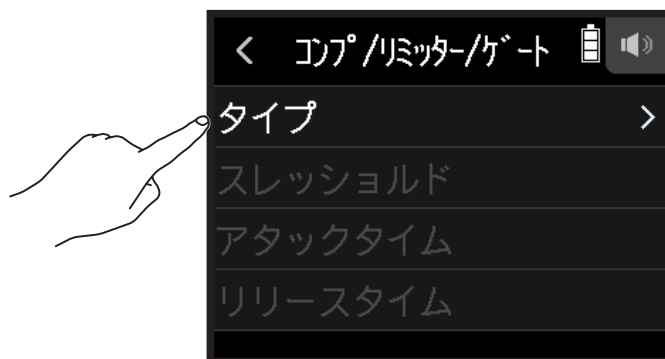
1. 各アプリからトラック設定画面を表示する

- フィールドアプリ画面 >  > トラックを選択する
- ミュージックアプリ画面 > トラックを選択する > 
- ポッドキャストアプリ画面 >  > トラックを選択するの順にタップして選択する

2. **コンプ/リミッター/ゲート** をタップする



3. **タイプ** をタップする



4. **コンプレッサー**、**リミッター**、または **ノイズゲート** をタップする



- **コンプレッサー**：コンプが選択され、レシオは 4：1 となります。
- **リミッター**：リミッターが選択され、レシオは 20：1 となります。
- **ノイズゲート**：ノイズゲートが選択されます。
- **オフ**：コンプ/リミッター/ゲート全て選択されません。

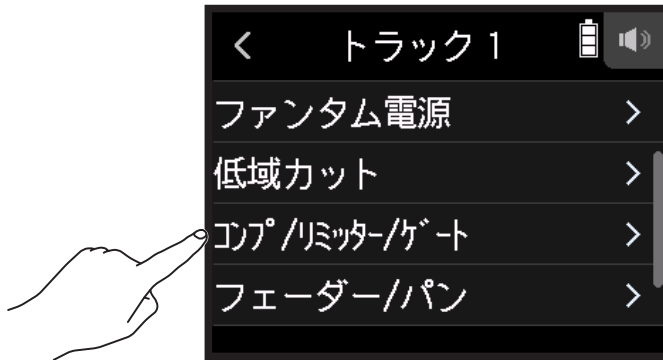
■ スレッシュホールドを設定する

動作する基準レベルを設定します。

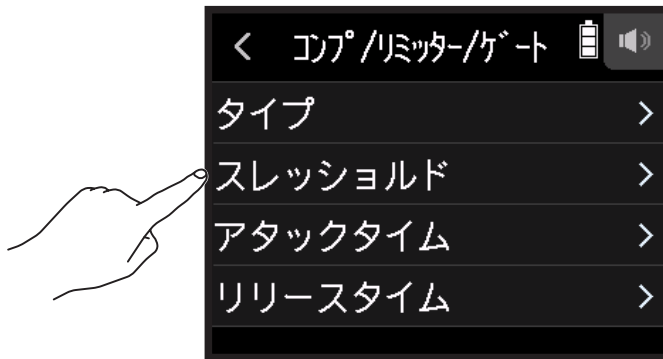
1. 各アプリからトラック設定画面を表示する

- ・ フィールドアプリ画面 >  > トラックを選択する
- ・ ミュージックアプリ画面 > トラックを選択する > 
- ・ ポッドキャストアプリ画面 >  > トラックを選択するの順にタップして選択する

2. コンプ/リミッター/ゲート をタップする



3. スレッシュホールド をタップする



NOTE

タイプを オフ に設定していると スレッシュホールド を設定できません。

4. を上下にスライドして調節する





HINT

- ・コンプレッサー/リミッターは、 $-16 \sim -2$ dBFS の範囲で設定できます。
- ・ノイズゲートは、 $-80 \sim -2$ dBFS の範囲で設定できます。

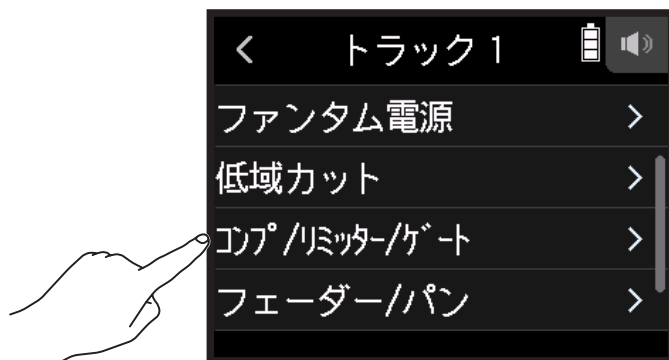
■ アタックタイムを設定する

入力信号がスレッシュホールドを超えてから圧縮を開始するまでの時間を設定します。

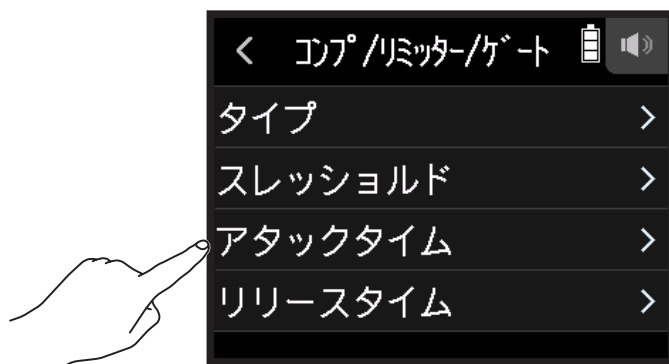
1. 各アプリからトラック設定画面を表示する

- ・フィールドアプリ画面 >  > トラックを選択する
- ・ミュージックアプリ画面 > トラックを選択する > 
- ・ポッドキャストアプリ画面 >  > トラックを選択する
の順にタップして選択する

2. **コンプ/リミッター/ゲート** をタップする



3. **アタックタイム** をタップする



NOTE

タイプ を **オフ** に設定していると **アタックタイム** を設定できません。

4. を上下にスライドして時間調節する



HINT

1～4 ms の範囲で設定できます。

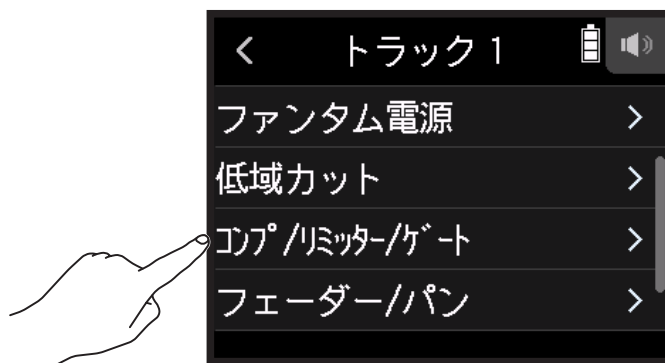
■ リリースタイムを設定する

入力信号がスレッシュホールドを下回ってから圧縮が終わるまでの時間を設定します。

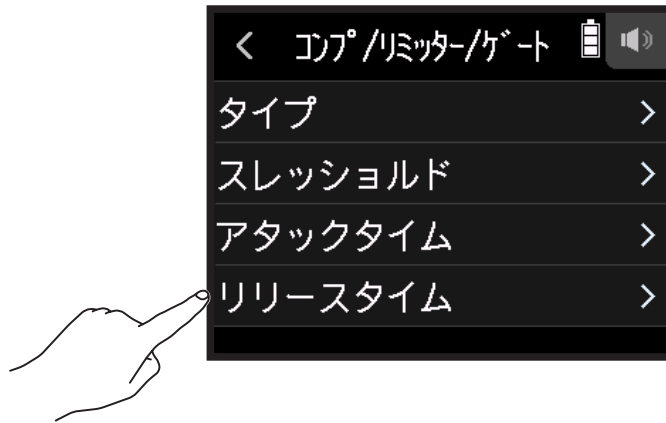
1. 各アプリからトラック設定画面を表示する

- フィールドアプリ画面 >  > トラックを選択する
- ミュージックアプリ画面 > トラックを選択する > 
- ポッドキャストアプリ画面 >  > トラックを選択する
の順にタップして選択する

2. **コンプ/リミッター/ゲート** をタップする



3. リリースタイム をタップする



NOTE

タイプ を オフ に設定していると リリースタイム を設定できません。

4. を上下にスライドして時間を調節する




HINT

• ステレオリンクが有効になっているトラックは、リミッターの動作が連動します。どちらかのチャンネルの信号がスレッシュホールドに達すると、両方のトラックでリミッターが動作します。

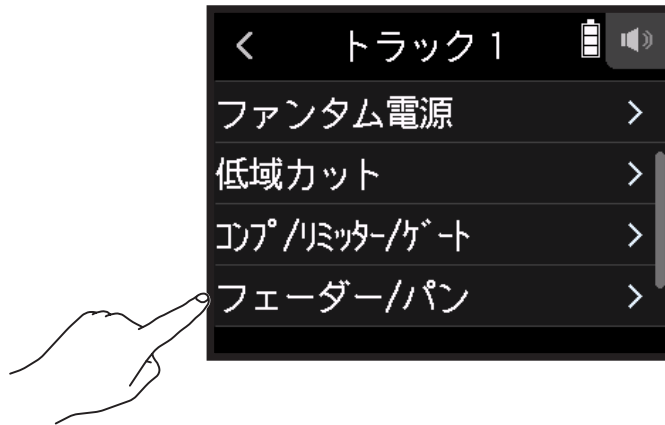
入力信号のモニターバランスをフェーダー / パンで調節する

入力信号をモニターするときの各トラックの音量やパンを調節できます。

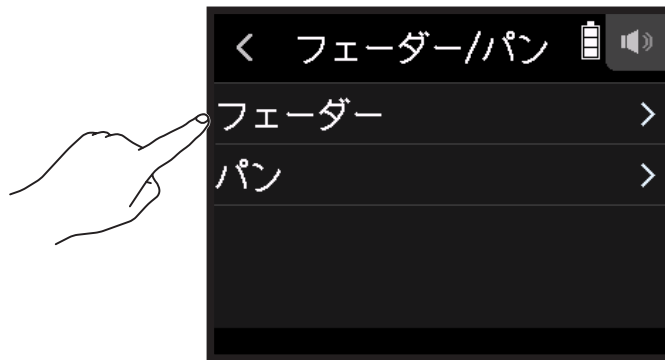
1. 各アプリからトラック設定画面を表示する

- フィールドアプリ画面 >  > トラックを選択する
- ミュージックアプリ画面 > トラックを選択する > 
- ポッドキャストアプリ画面 >  > トラックを選択する
の順にタップして選択する

2. フェーダー/パンをタップする



3. フェーダーまたはパンを選択する



4. 音量レベルを上下にスライドし設定を変更する






- フェーダーは、Mute, -48.0 dB ~ +10.0dB (0.5dB) の範囲で設定可能で、入力信号の音量を調節します。
- パンは、L100 - L1, Center, R1 - R100 の範囲で可能で、左右の音のバランスを調節します。

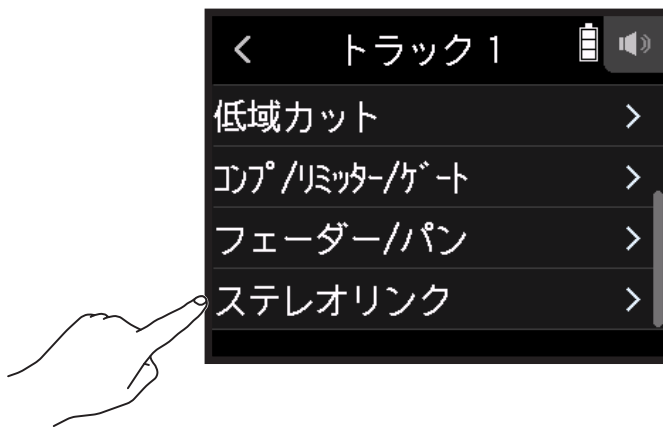
ステレオリンクを設定する

ステレオトラックに設定（ステレオリンク）することにより、インプットをステレオ音声として扱うこともできます。

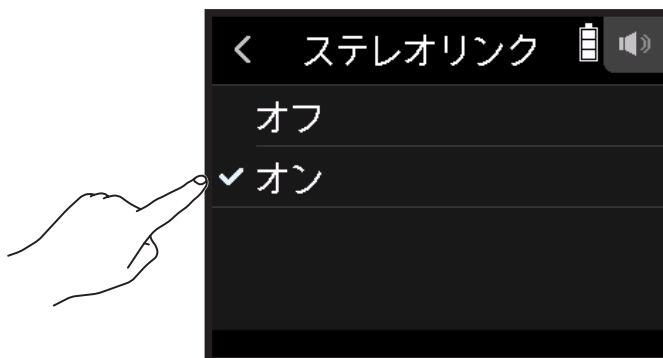
1. 各アプリからトラック設定画面を表示する

- フィールドアプリ画面 >  > トラックを選択する
- ミュージックアプリ画面 > トラックを選択する > 
- ポッドキャストアプリ画面 >  > トラックを選択するの順にタップして選択する

2. **ステレオリンク** をタップする



3. **オン** をタップする



HINT

隣り合う2つのトラックキー（1と2、3と4、AとB）のうち、片方を押しながらかもう片方を押すと、その2つのトラックはステレオトラックになり、SDカードにはステレオファイルが作成されます。ステレオリンクを解除するには、同じ操作を行ってください。

ヘッドフォン出力レベルを設定する

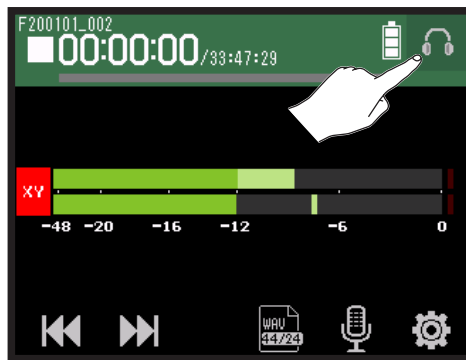
ヘッドフォンなどを使用して入力/再生音をモニタリングし、レベル（音量）を調節します。

HINT

- 再生時にはスピーカーでモニタリングすることができます。
- LINE OUT 端子または PHONE OUT 端子にケーブルが接続されている場合は、H8 のスピーカーから音は出力されません。


1. ヘッドフォンなどを H8 の PHONE OUT 端子に接続する

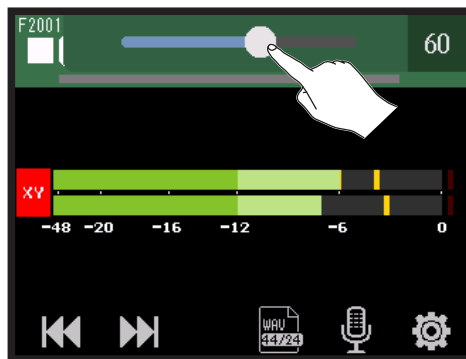
2. 画面右上の  /  をタップする



NOTE

ヘッドフォンを接続していないときはスピーカーアイコンが表示されます。

3.  をスライドして音量を調節する




4. 画面右上の  /  をタップする


外部機器とのレベル調整をする（テストトーンを再生する）

ライン出力レベルを調節します。

デジタル一眼レフカメラなどとのレベル調節のために、テストトーンを再生することもできます。

1. 外部機器のインプットボリュームを最小にする
2. 外部機器の外部マイク端子と、H8のLINE OUT端子をオーディオケーブルで接続する
3. ホーム画面で  ライン出力レベル をタップする



4.  テストトーン をタップする



テストトーンが再生されます。

5. を上下にスライドして出力レベルを調整する



外部機器のオーディオメーター（レベルメーター）を確認しながら、音声信号のレベルが -12 dB を超えないように調節します。

HINT

－ 40 ～ ± 0dB の範囲で設定できます。

6. 外部機器のインプットボリュームを微調節にする

外部機器のオーディオメーター（レベルメーター）を確認しながら、音声信号のレベルが -12 dB 程度になるように、外部機器の入力ゲインを調節します。

7. テストトーン をタップする

テストトーンの再生を終了します。

NOTE

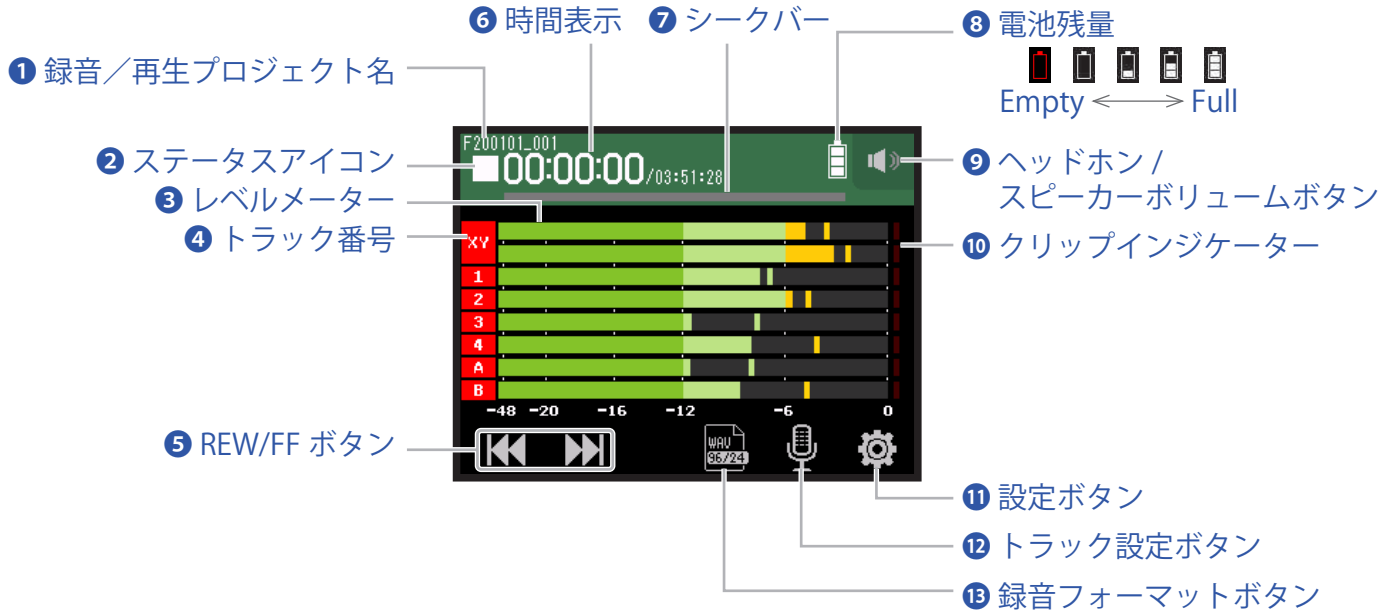
- 外部機器の操作方法については、使用する外部機器の取扱説明書を参照して下さい。
- LINE OUT 端子、PHONE OUT 端子の両方からテストトーンが再生されます。
- ヘッドフォンなどで音声をモニターしている場合は、音量に注意してください。

HINT

テストトーンは、1 kHz -12 dBFS のサイン波です。

フィールドアプリで録音する

ディスプレイ表示



1 録音／再生プロジェクト名

2 ステータスアイコン

録音 / 再生状況がアイコンで表示されます。

■：停止中、●：録音中、||：録音 / 再生一時停止、▶：再生中

3 レベルメーター

4 トラック番号

赤：インプット有効

緑：再生トラック有効

グレー：インプット無効

隣接したトラック番号がつながり、インプットのリンク設定を示します。

5 REW/FF ボタン

プロジェクトの選択や早送り、早戻しができます。

6 時間表示

00:00:00 / 00:00:00

<録音の場合>

左側：現在の録音経過時間

右側：残りの録音可能時間

<再生の場合>

左側：現在の再生経過時間

右側：残りの再生可能時間

7 シークバー

現在の再生位置が表示されます。

シークバー上にはマークの位置を表示します。

▼をスライドして再生位置を変えることができます。

8 電池残量

電池残量が表示されます。電池の残量が少なくなった場合は、電池を交換するか（→ [17 ページ「電池を使用する」](#)）、AC アダプターを接続してください（→ [17 ページ「AC アダプターを使用する」](#)）。

9 ヘッドフォン／スピーカーボリュームボタン

タッチするとヘッドフォン／スピーカーボリュームを設定するスライダーが表示されます。（→ [42 ページ](#)）

10 クリップインジケータ

クリップインジケータが点灯する場合は、入力レベルを調節するか（→ [26 ページ「録音（入力）レベルを設定する」](#)）、リミッターを設定してください（→ [34 ページ「コンプ/リミッター/ゲート」](#)）。

11 設定ボタン

SD カード内のプロジェクトを一覧したり（→ [107 ページ](#)）、自動録音の設定ができます（→ [50 ページ](#)）。

12 トラック設定ボタン

低域カットやファンタム電源などトラックの設定ができます。（→ [27 ページ](#)）

13 録音フォーマットボタン

録音フォーマットの設定ができます。（→ [47 ページ](#)）

録音する




録音の流れ

次のような流れで録音を行います。



録音前の準備

- SD カードをセットする
- 電池を使用する / AC アダプターを使用する
- マイクカプセルを取り付ける
- マイク / 楽器 / ミキサーなどを接続する
- 電源を ON にする
- 録音フォーマットを設定する
- 入出力を設定する

録音する

-  を押して録音開始、 を押して停止する
- マークを付けることもできます。
-  を押すと一時停止します。

再生して確認する

-  を押して再生開始、 を押して停止する
- マークを付けた位置への頭出し、プロジェクト用ミキサーの設定などもできます。

録音フォーマットを設定する

音質やファイルサイズを考慮しながら、フォーマットを選択できます。

1. をタップする



2. 録音フォーマットをタップして設定する




設定できるフォーマットは以下のとおりです。

音質（低→高）、ファイルサイズ（小→大）の順に示しています。


設定	説明
MP3 128 kbps	サンプリング周波数は 44.1kHz です。 ビットレートの数値が大きいほど、高音質になります。
MP3 192 kbps	
MP3 320 kbps	
WAV 44.1 kHz/16 bit	サンプリング周波数 (kHz) / 量子化ビット数 (bit) の数値が大きいほど、高音質になります。
WAV 44.1 kHz/24 bit	
WAV 48 kHz/16 bit	
WAV 48 kHz/24 bit	
WAV 96 kHz/16 bit	
WAV 96 kHz/24 bit	

録音する

1. フィールドアプリ画面で  を押す
録音が始まります。


2. 一時停止するには  を押す

NOTE

- 一時停止を行うと、停止位置にマークがつきます。録音を再開するには再度  を押します。
- マークは 1 プロジェクトに最大 99 個つけられます。

HINT

一時停止せずにマークを付けることもできます。(→ [135 ページ「録音中／再生中のマークの付け方を設定する」](#))

3. 停止するには  を押す

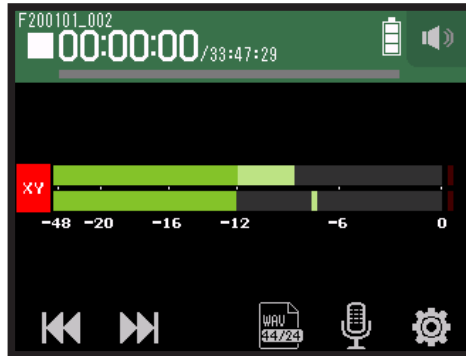
NOTE

録音中にファイルサイズが 2 GB を超えたときは、プロジェクト番号が 1 つ進み、新しいプロジェクトに録音が継続されます。このとき、2 つのプロジェクト間に音飛びは発生しません。

HINT








録音中は、一定時間ごとにファイルが自動保存されます。録音中に電源遮断などの問題が発生した場合でも、自動保存されたファイルを H8 で再生することにより、正常なファイルとして復帰させることができます。

再生する





1. を押す

再生時の操作

操作内容	タッチスクリーン / キー操作
再生プロジェクトの選択 / マーク位置の頭出し	  をタップする
早送り / 早戻し	  を長押しする  を左右にスライドする
一時停止 / 再生再開	 を押す
停止	 / HOME を押す

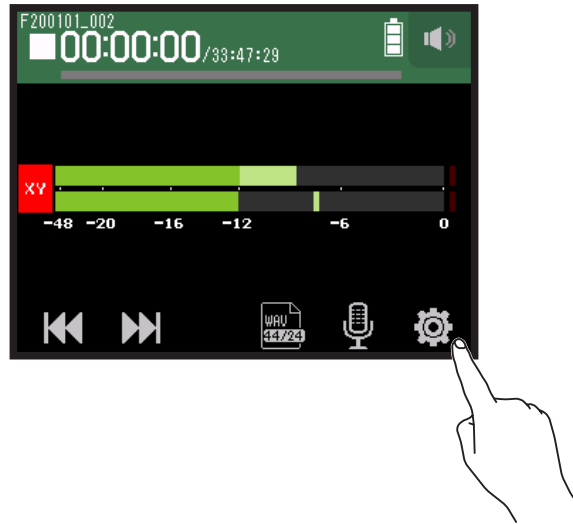
HINT

-  を左右にスライドすることで、再生位置を変更することができます。
- 再生中にトラックキーを押すと再生（緑点灯）、ミュート（消灯）を切替えることができます。
- 選択したプロジェクトが不正の場合、「不正なプロジェクトです!」のメッセージが表示されます。
- 再生可能なプロジェクトが1つもない場合、「プロジェクトがありません!」のメッセージが表示されます。
- 再生中に  を押すと頭出し用のマークを付けることができます。（→ [135 ページ「録音中 / 再生中のマークの付け方を設定する」](#)）

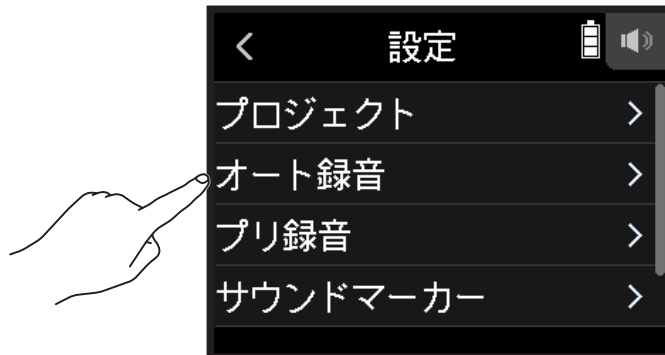
自動で録音する

入力レベルに応じて、自動的に録音を開始／終了することができます。

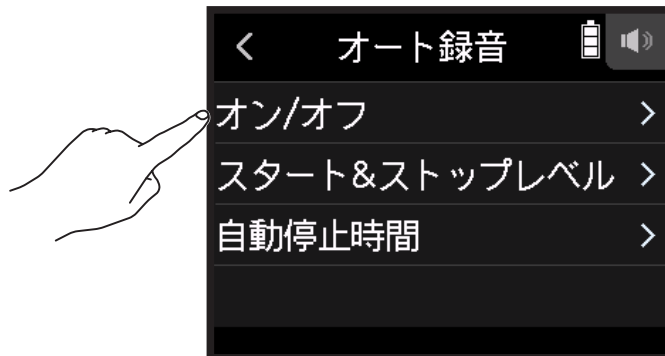
1. をタップする



2. オート録音 をタップする



3. オン/オフ をタップする





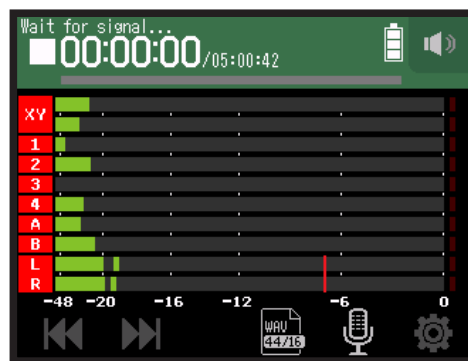
4. スタート または スタート&ストップ をタップする



5. フィールドアプリの最初の画面に戻り を押す 自動録音の待機状態になります。

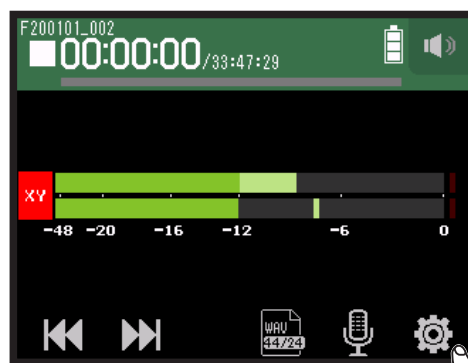
HINT

- 再度  を押すと、すぐに録音を開始できます。
- 録音待機状態から抜けたいときや録音を停止したいときは  を押してください。



自動録音開始 / 停止の閾値レベルを設定する

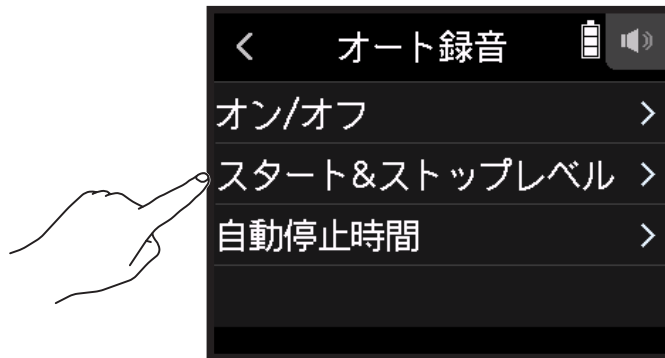
1. をタップする



2. オート録音 をタップする

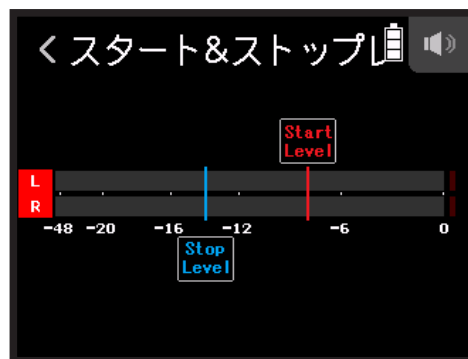


3. スタート&ストップレベル をタップする



4. Start Level / Stop Level を左右にスライドしてレベルを設定する

- 録音開始レベルは赤いバーで、録音停止レベルは青いバーで表示されます。



入力レベルが設定した開始レベルを上回ったときに、自動的に録音を開始します。
入力レベルが設定した停止レベルを下回ったときに、自動的に録音を終了します。

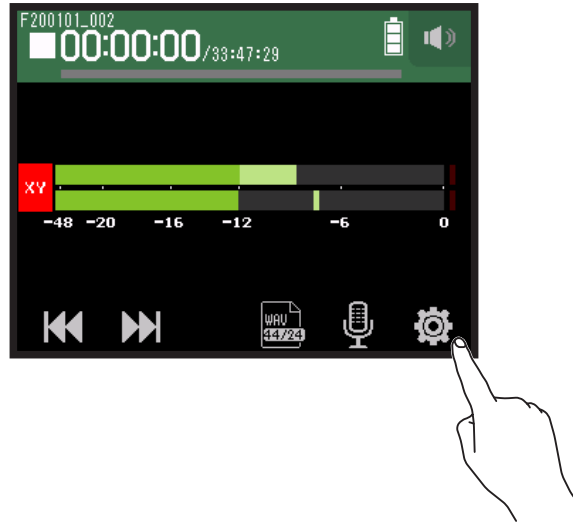
HINT

— 48 ~ 0 dBFS の範囲で設定できます。

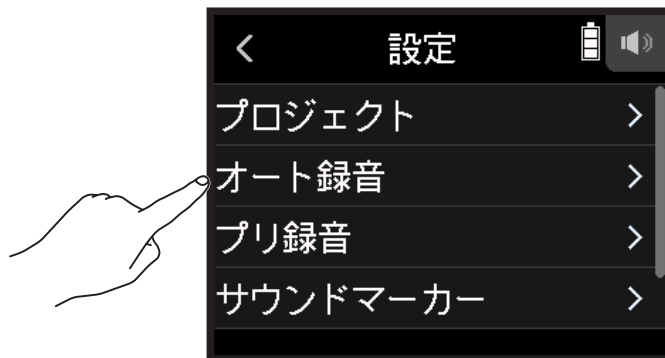
自動録音停止時間を設定する

入力レベルが設定した停止レベルを下回ってから、自動的に録音を終了までの時間を設定します。

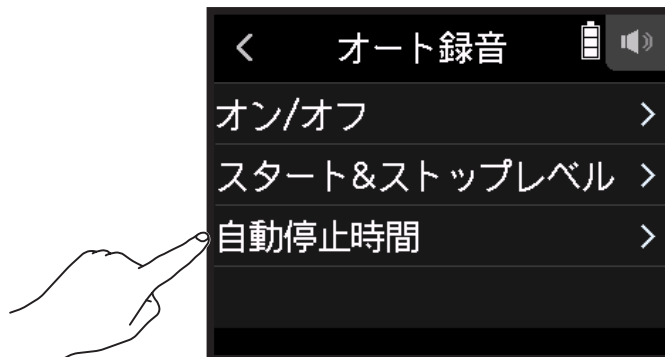
1. をタップする



2. オート録音 をタップする



3. 自動停止時間 をタップする





4. を上下にスライドしてレベルを設定する



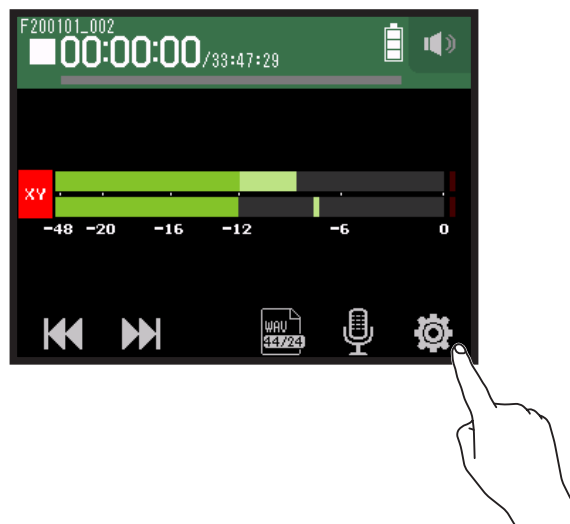
HINT

- 0～5 秒の範囲で設定できます。
- 自動録音停止後は録音待機状態になります。

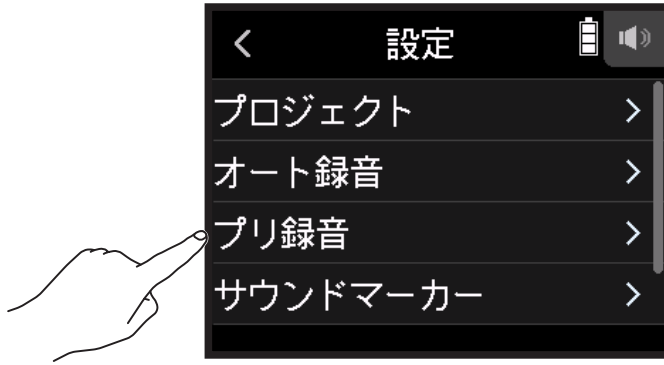
時間をさかのぼって録音する（プリ録音）

入力信号を常に一定時間蓄えておくことにより、 を押した時点から最大で6 秒までさかのぼって録音（プリ録音）できます。 を押し遅れてしまった場合などに役に立ちます。

1. をタップする



2. プリ録音 をタップする



3. オン をタップする

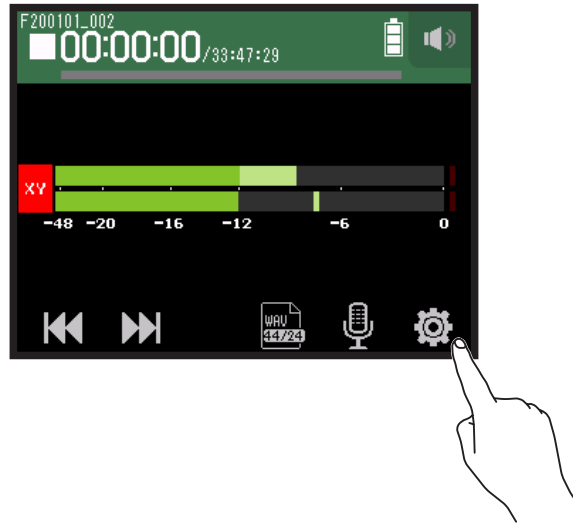


録音フォーマット	最大プリ録音時間
MP3 128 kbps	6 秒
MP3 192 kbps	
MP3 320 kbps	
WAV 44.1 kHz/16 bit	
WAV 44.1 kHz/24 bit	
WAV 48 kHz/16 bit	
WAV 48 kHz/24 bit	3 秒
WAV 96 kHz/16 bit	
WAV 96 kHz/24 bit	

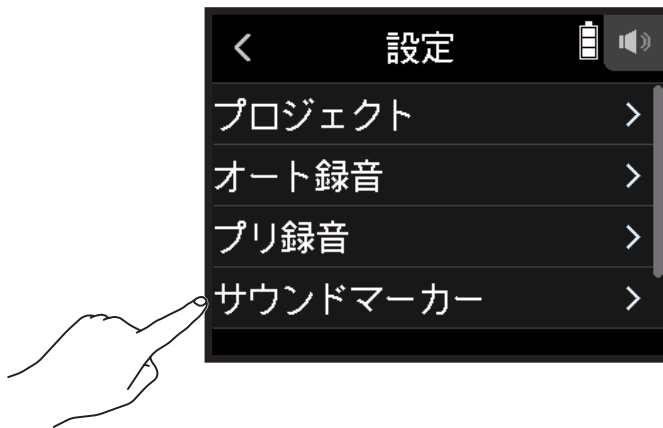
サウンドマーカを設定する

録音開始時と終了時に、出力端子（PHONE OUT 端子および LINE OUT 端子）から 0.5 秒間のトーン信号（サウンドマーカ）を鳴らすことができます。サウンドマーカは録音ファイルにも書き込まれるため、動画の音声を H8 で録音する場合、カメラ側に H8 の出力信号を入力しておくことで、動画との位置合わせが簡単になります。

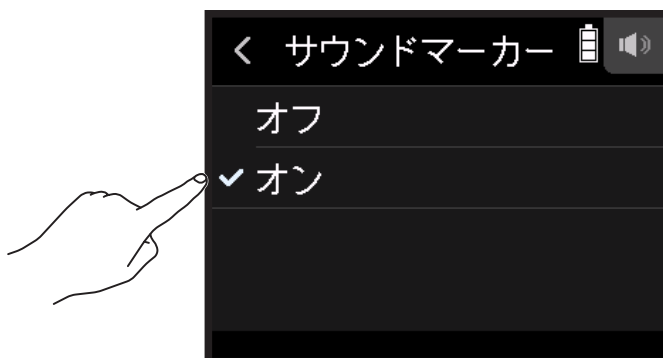
1. をタップする



2. サウンドマーカ をタップする



3. オン をタップする



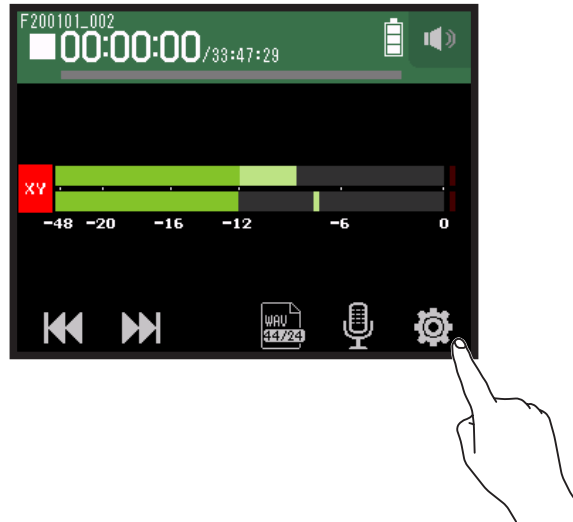
NOTE

ヘッドフォンなどで入力音をモニタリングしている場合は、音量に注意してください。

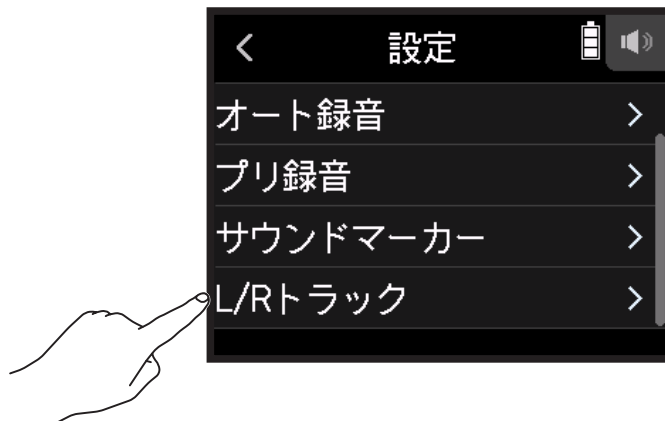
L/Rトラックを録音する

録音時に内蔵ミキサーによりミキシングされた結果が、ステレオファイルとして作成されます。

1. をタップする



2. L/Rトラック をタップする



3. オン に設定する



ミュージックアプリで録音する

ディスプレイ表示



1 録音／再生プロジェクト名

2 ステータスアイコン

録音 / 再生状況がアイコンで表示されます。

■：停止中、●：録音中、||：録音 / 再生一時停止、▶：再生中

3 クリップインジケータ

クリップインジケータが点灯する場合は、入力レベルを調節するか (→ [26 ページ「録音 \(入力\) レベルを設定する」](#))、リミッターを設定してください (→ [34 ページ「コンプ / リミッター / ゲート」](#))。

4 レベルメーター

5 フェーダー

6 トラックボタン

タップするとトラックのチャンネルストリップ画面に遷移します。

7 時間表示

00:00:00/00:00:00

<録音の場合>

左側：現在の録音経過時間

右側：残りの録音可能時間

<再生の場合>

左側：現在の再生経過時間

右側：残りの再生可能時間

8 シークバー

現在の再生位置が表示されます。

▼ をスライドして再生位置を変えることができます。

9 電池残量

電池残量が表示されます。電池の残量が少なくなった場合は、電池を交換するか（→ [17 ページ「電池を使用する」](#)）、AC アダプターを接続してください（→ [17 ページ「AC アダプターを使用する」](#)）。

10 ヘッドフォン／スピーカーボリュームボタン

タッチするとヘッドフォン／スピーカーボリュームを設定するスライダーが表示されます。（→ [42 ページ](#)）

11 トラック表示切替ボタン

表示するトラックを切替えます。

12 設定ボタン

SD カード内のプロジェクトを一覧したり（→ [107 ページ](#)）、新規プロジェクトの作成ができます（→ [61 ページ](#)）。

13 イコライザー Low/Mid/High

低域 / 中域 / 高域用イコライザーのブースト / カット量を調節できます。

14 トラック設定ボタン

低域カットやファンタム電源などトラックの設定ができます。（→ [28 ページ](#)）

15 エフェクト設定ボタン

インサートエフェクトを使用できます。（→ [68 ページ「エフェクトを使う」](#)）

16 エフェクトセンド

センドエフェクトへ送る音量を調節することができます。

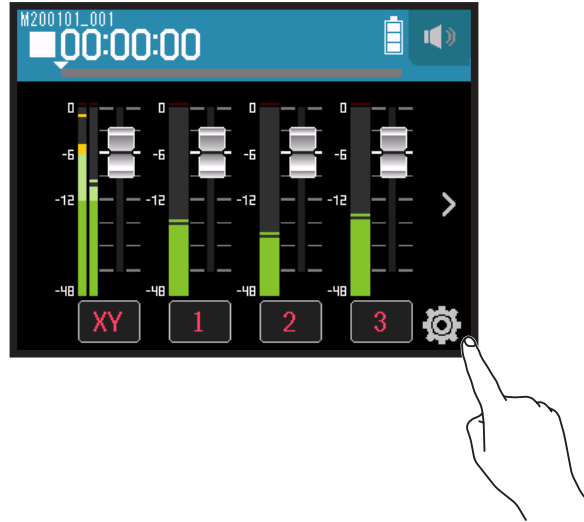
17 パン

左右のバランスを調節することができます。

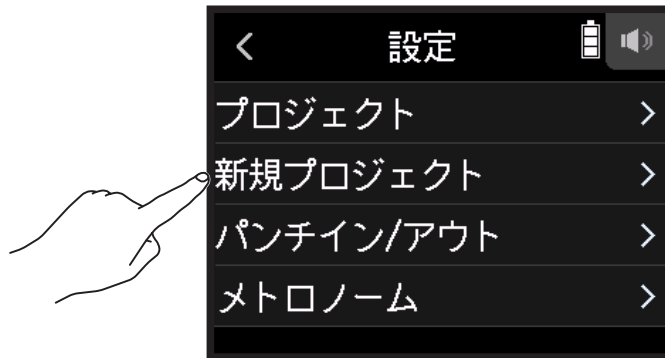
新規プロジェクトを作成する

H8 では録音、再生するデータをプロジェクトという単位で管理します。

1. をタップする



2. **新規プロジェクト** をタップする



3. **録音フォーマット** をタップする



4. フォーマットをタップする



設定できるフォーマットは以下のとおりです。

設定	説明
WAV 44.1 kHz/16 bit	サンプリング周波数 (kHz) / 量子化ビット数 (bit) の数値が大きいほど、高音質になります。
WAV 44.1 kHz/24 bit	
WAV 48 kHz/16 bit	
WAV 48 kHz/24 bit	

NOTE

エフェクトは録音フォーマットが 44.1 kHz/16 bit, 44.1 kHz/24 bit のときしか使用できません。

5. 作成 をタップし、プロジェクト名を入力する

文字の入力方法は「文字入力画面について」(→ [14 ページ](#)) を参照してください。



NOTE

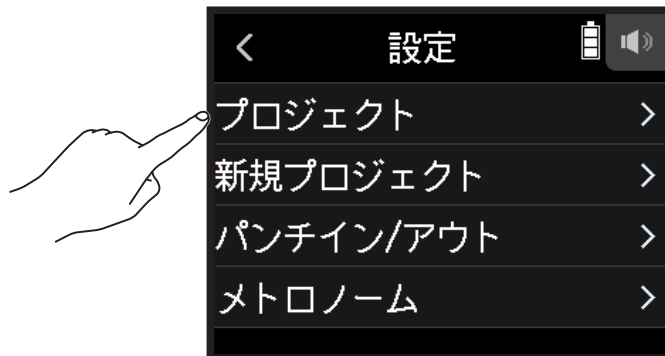
作成したプロジェクトが録音 / 再生プロジェクトとして選択されます。

既存のプロジェクトを開く

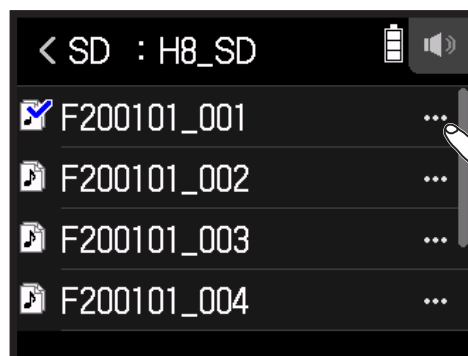
1. をタップする



2. プロジェクト をタップする



3. 開きたいプロジェクトの「…」をタップする



4. 選択 をタップする



5. 実行 をタップする



録音する





録音の流れ

次のような流れで録音を行います。



録音前の準備

- SD カードをセットする
- 電池を使用する / AC アダプターを使用する
- マイクカプセルを取り付ける
- マイク / 楽器 / ミキサーなどを接続する
- 電源を ON にする
- 新規プロジェクトを作成する
- 入出力を設定する




録音する

-  を押しその後に  を押して録音開始、 を押して停止する
-  を押すと一時停止します。





再生して確認する

-  を押して再生開始、 を押して停止する
- プロジェクト用ミキサーの設定などもできます。

追加録音する

- パンチイン / アウトの設定をする
-  を押しその後に  を押して録音開始、 を押して停止する

録音する

1. ミュージックアプリ画面で  を押す
録音待機状態になります。
2.  を押す
録音が始まります。
3. 一時停止するには  を押す
4. 停止するには  を押す

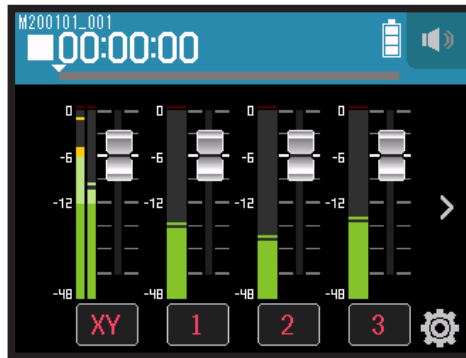
NOTE

録音中にファイルサイズが 2 GB を超えたときは、録音が自動で停止します。

HINT




録音中は一定時間ごとにファイルが自動保存されます。録音中に電源遮断などの問題が発生した場合でも、自動保存されたファイルをトラックに割り当てることにより（→ [74 ページ「トラックに割り当てるファイルを変更する」](#)）、正常なファイルとして復帰させることができます。

再生する



1. を押す

再生時の操作

操作内容	タッチスクリーン/キー操作
早送り / 早戻し	 を左右にスライドする
一時停止 / 再生再開	 を押す
停止	 を押す

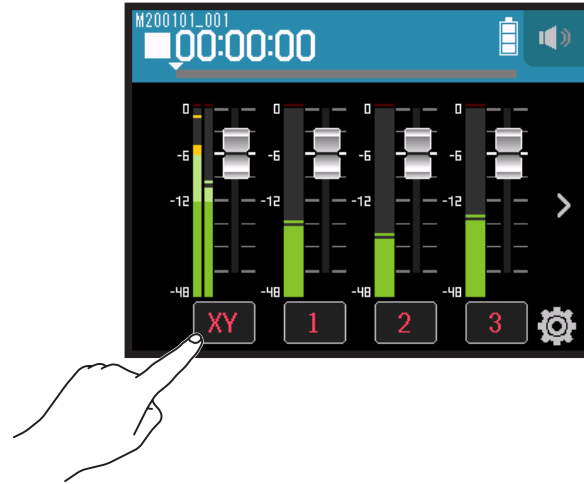
HINT

- シークバーを左右にスライドすることで、再生位置を変更することができます。
- 再生中にトラックキーを押すと再生（緑点灯）、ミュート（消灯）を切替えることができます。
- 選択したプロジェクトが不正の場合、「不正なプロジェクトです!」のメッセージが表示されます。

エフェクトを使う

76 種類のエフェクトを使用できます。

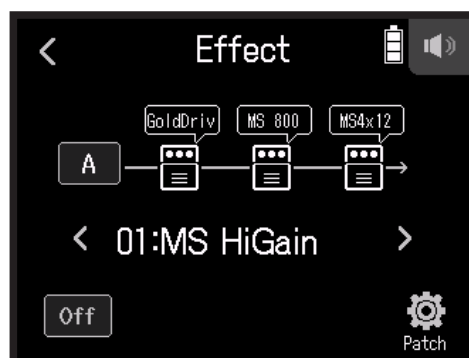
1. 任意のトラックボタンをタップする



2. EFFECT をタップする



エフェクトの画面が表示されます。



エフェクトの設定方法などについては「エフェクトを使う」(→ [95 ページ](#)) を参照してください。

NOTE

エフェクトは録音フォーマットが 44.1 kHz/16 bit, 44.1 kHz/24 bit のときしか使用できません。

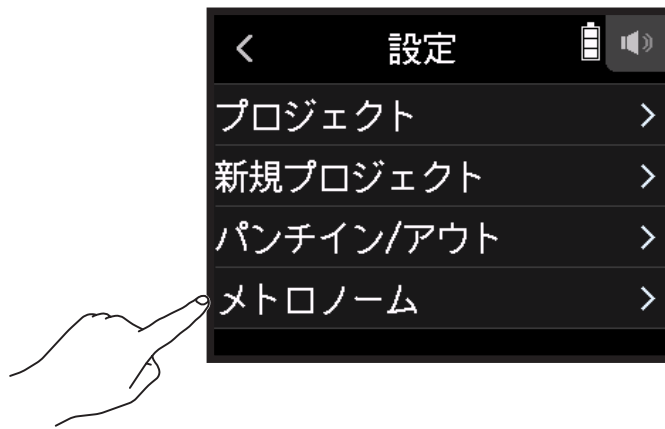
メトロノームを使用する

H8はプリカウント機能付きメトロノームを搭載しています。メトロノームの設定は各プロジェクトごとに保存されます。

1. をタップする



2. **メトロノーム** をタップする

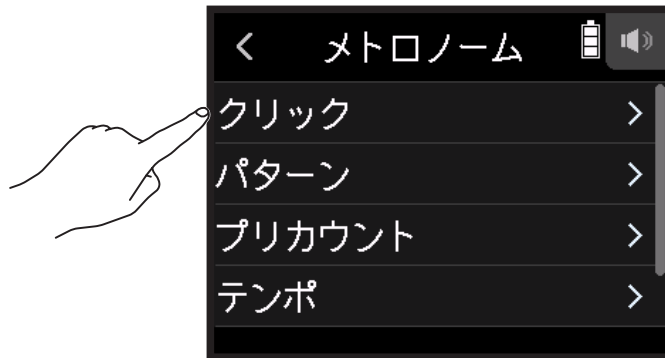


メトロノームの設定画面が表示されます。



メトロノーム音が鳴る条件を選択する

1. メトロノームの設定画面で **クリック** をタップする



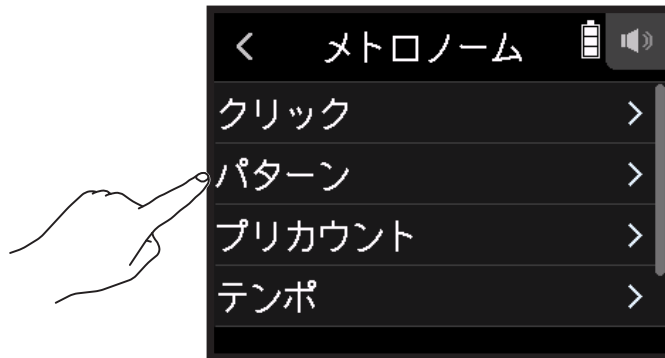
2. 条件（下記表参照）を選択してタップする



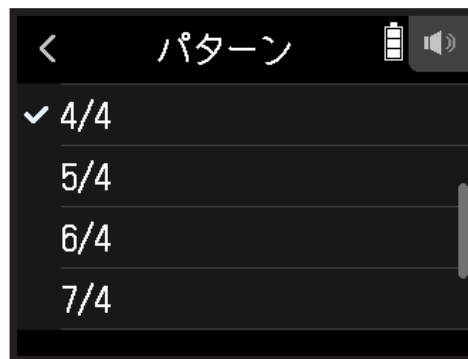
条件（設定）	説明
オフ	メトロノームは鳴りません。
録音と再生時	録音時と再生時に鳴ります。
録音時のみ	録音時のみ鳴ります。
再生時のみ	再生時のみ鳴ります。

メトロノームのパターンを選択する

1. メトロノームの設定画面で **パターン** をタップする



2. パターンを選択してタップする



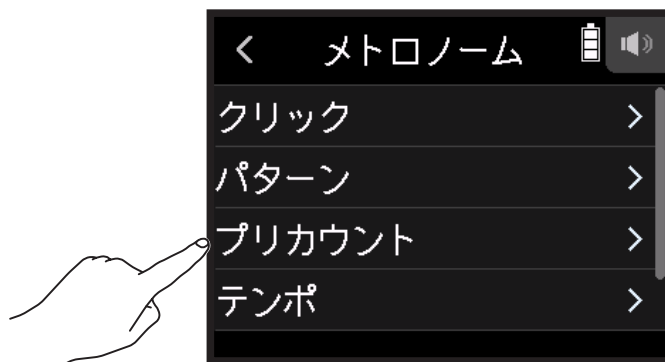
HINT

0/4、1/4、2/4、3/4、4/4、5/4、6/4、7/4、8/4、6/8 から選択できます。

プリカウントを設定する

録音／再生を開始する前にカウントを鳴らすことができます。

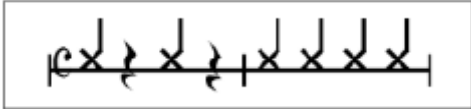
1. メトロノームの設定画面で **プリカウント** をタップする



2. 設定（下記表参照）を選択してタップする

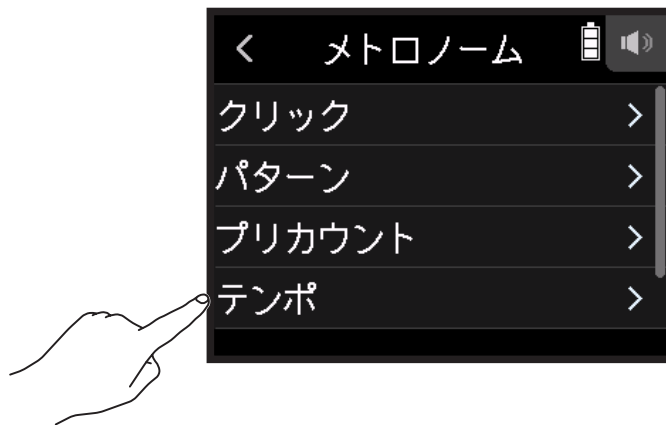


下記の中から設定を選択する

設定	説明
オフ	カウントしません。
1～8	録音／再生を始める前に、設定した回数（1～8）前カウントを鳴らします。
スペシャル	録音／再生を始める前に以下のようなカウントを鳴らします。 

メトロノームのテンポを設定する

1. メトロノームの設定画面で **テンポ** をタップする



2. を上下にスライドしてテンポを設定する

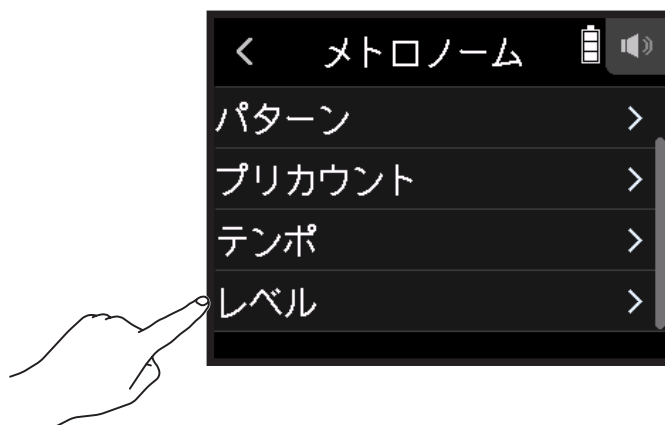


HINT

- 40 ~ 250 の範囲で設定できます。
- ここで調節したテンポは、各エフェクトと共有されます。

メトロノームの音量を設定する

1. メトロノームの設定画面で **レベル** をタップする



2. を上下にスライドして音量を設定する



HINT

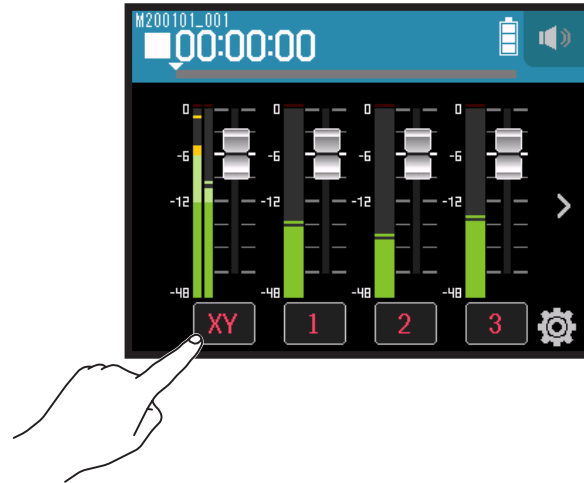
- 0 ~ 10 の範囲で設定できます。


トラックに割り当てるファイルを設定する

他のプロジェクトのトラックの録音データや、バックアップ録音したトラックの録音データを任意のトラックに割り当て、再生時に確認することができます。

トラックに割り当てるファイルを変更する

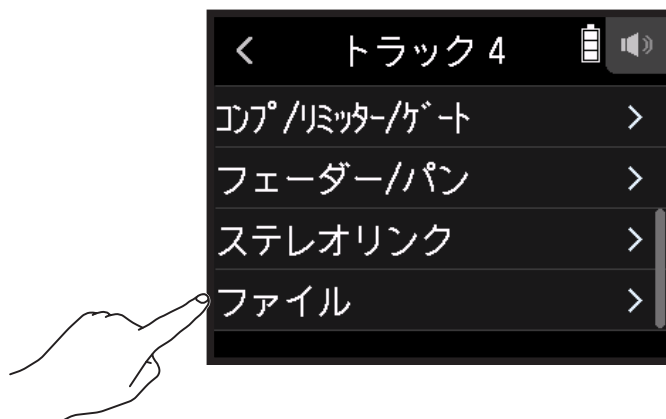
1. 任意のトラックボタンをタップする



2.  Track Setting をタップする



3. ファイル をタップする



4. ファイルを割り当てる をタップする



5. 割り当てるファイルをタップする



6. 割り当てる をタップする

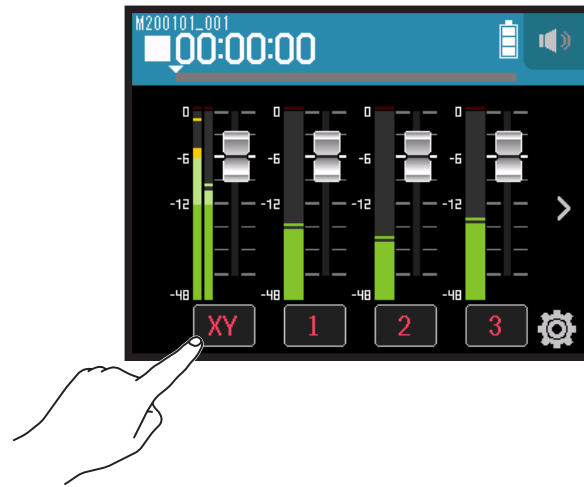


NOTE

他のプロジェクト内のファイルを割り当てる場合は、現在選択されているプロジェクト内にファイルがコピーされます。

トラックからファイルの割り当てを外す

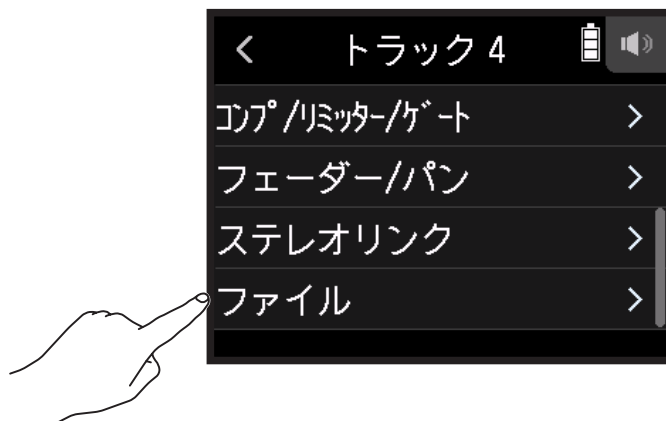
1. 該当するトラックボタンをタップする



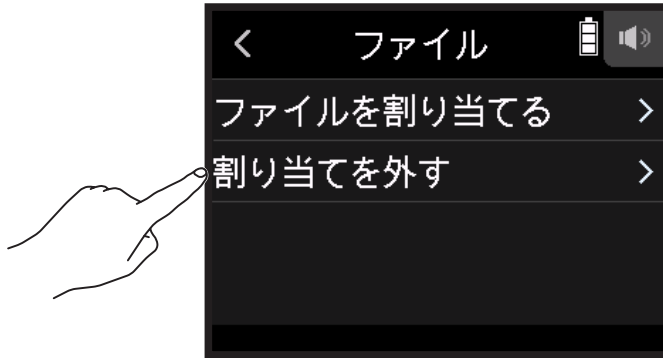
2.  Track Setting をタップする



3. ファイル をタップする



4. 割り当てを外す をタップする



5. 実行 をタップする

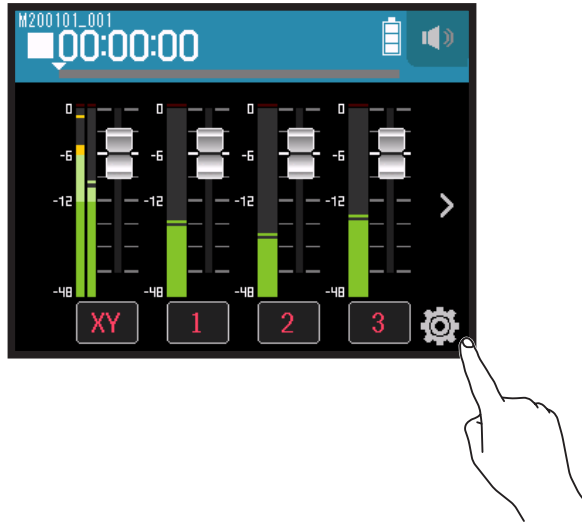


追加録音する

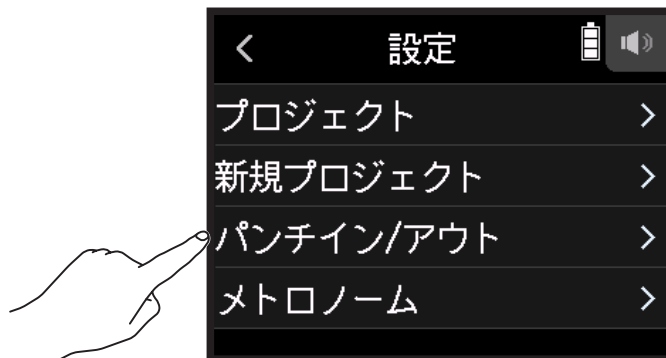
パンチイン/アウトが **オフ** のときは常に新しいファイルに録音されます。

パンチイン/アウトが **オン** のときはすでに録音されているトラックの一部のみを録音し直すことができます。

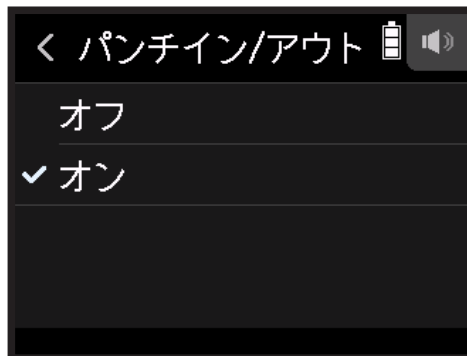
1. をタップする



2. **パンチイン/アウト** をタップする

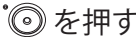
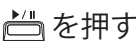



3. **オフ** または **オン** に設定する



設定	説明
オフ	常に新しいファイルに録音します。
オン	録音されているトラックの一部のみを録音し直します。

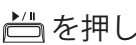


新しいファイルに録音する

1. **パンチイン/アウト** をタップして、**オフ** に設定する
2. 録音し直すトラックのトラックキーを赤点灯するまで数回押す
3.  を押す
録音待機状態になります。
4.  を押す
録音が始まります。
5. 停止するには  /HOME を押す

一部のみ録音をやり直す

“パンチイン/アウト”は、すでに録音されているトラックの一部のみを録音し直す機能です。トラックの状態を再生から録音へと切り替える操作が“パンチイン”、録音から再生へと切り替える操作が“パンチアウト”です。

H8 では“パンチイン/アウト”を手動で行うことができます。

1. **パンチイン/アウト** をタップして、**オン** に設定する
2. 録音し直すトラックのトラックキーを赤点灯するまで数回押す
3.  を押して、再生を開始する
4. 録音し直したい位置で  を押して録音を開始する（パンチイン）
5. 録音が終わったら  を押す（パンチアウト）

NOTE

- 1回の再生で1回パンチイン/アウトすることができます。
- パンチイン/アウトはファイルの一部を上書きするため、以前のデータが失われます。

プロジェクトをミキシングする

トラックの音量を調節する

1. 音量を調節したいトラックのフェーダーを上下にスライドする

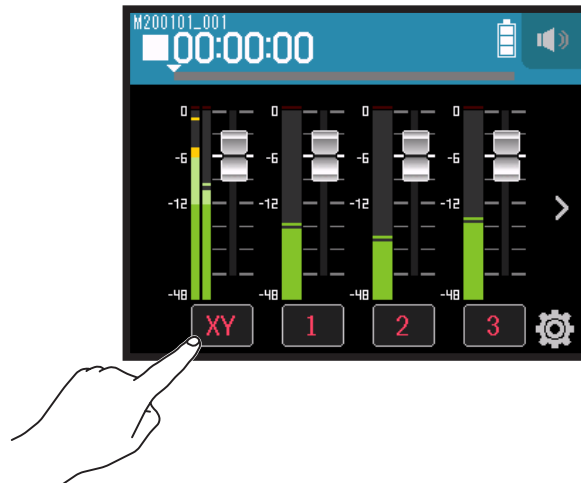



HINT

-∞ ~ +10 dB の範囲で設定できます。

その他の設定を調節する

1. 任意のトラックボタンをタップする



2.  を上下にスライドする、またはボタンをタップする



パラメーター	説明
EQ Low ※	<ul style="list-style-type: none"> ・低域用イコライザーのブースト／カット量を調節します。 ・タイプ：シェルビング ・ゲイン幅：-12 dB ～ +12 dB ・周波数：100 Hz
EQ Mid ※	<ul style="list-style-type: none"> ・中域用イコライザーのブースト／カット量を調節します。 ・タイプ：ピーキング ・ゲイン幅：-12 dB ～ +12 dB ・周波数：2.5 kHz
EQ High ※	<ul style="list-style-type: none"> ・高域用イコライザーのブースト／カット量を調節します。 ・タイプ：シェルビング ・ゲイン幅：-12 dB ～ +12 dB ・周波数：10 kHz
Pan ※	左右のバランスを調節することができます。
Send ※	SENDエフェクトへ送る音量を調節することができます。
Track Setting	入力の設定ができます。(→ 25 ページの「入出力を設定する」)
EFFECT	インサートエフェクトを使用できます。(→ 95 ページ「エフェクトを使う」)

NOTE

- ・※印のパラメーターは個別トラックの録音結果には影響しません。ミックスダウン時に書き出したファイルに影響します。
- ・その他のパラメーターは個別トラックの録音結果に影響します。

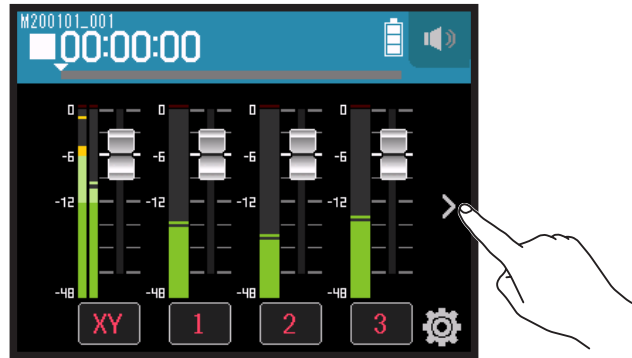
ミックスダウンする

録音したプロジェクトをステレオファイル（WAV）にミックスダウンします。

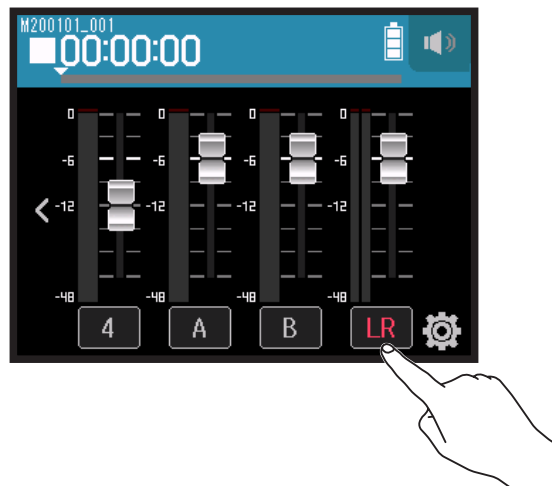
NOTE

パンチイン/アウトがオンの時はミックスダウンできません。




1. トラック表示切替ボタン  をタップし、LR トラックを表示する



2. トラックボタン LR をタップする



LR が赤色になります

3.  を押す
録音待機状態になります。
4.  を押す
録音が始まります。
5. 停止するには  /HOME を押す



ポッドキャストアプリで録音する

ディスプレイ表示



① 録音／再生プロジェクト名

② ステータスアイコン

録音 / 再生状況がアイコンで表示されます。

■：停止中、●：録音中、||：録音 / 再生一時停止、▶：再生中

③ サウンドパッド

各 PAD に割り当てられている音声を再生することができます。

④ 時間表示

00:00:00/00:00:00

<録音の場合>

左側：現在の録音経過時間

右側：残りの録音可能時間

<再生の場合>

左側：現在の再生経過時間

右側：残りの再生可能時間

⑤ シークバー

現在の再生位置が表示されます。

シークバー上にはマークの位置を表示します。

▼をスライドして再生位置を変えることができます。

⑥ 電池残量

電池残量が表示されます。電池の残量が少なくなった場合は、電池を交換するか（→ [17 ページ「電池を使用する」](#)）、AC アダプターを接続してください（→ [17 ページ「AC アダプターを使用する」](#)）。

**7 ヘッドフォン／スピーカーボリュームボタン**

タッチするとヘッドフォン／スピーカーボリュームを設定するスライダーが表示されます。(→ [42 ページ](#))

8 クリップインジケータ

クリップインジケータが点灯する場合は、入力レベルを調節するか (→ [26 ページ](#) 「[録音 \(入力\) レベルを設定する](#)」)、リミッターを設定してください (→ [34 ページ](#) 「[コンプ / リミッター / ゲート](#)」)。

9 パッドレベル

サウンドパッドの音量を調節できます。

10 レベルメーター

トラック LR のレベルメーターを表示します。
L/R トラックがオンのとき、“LR” の文字が赤くなります。

11 トラック設定ボタン

低域カットやファンタム電源などトラックの設定ができます。(→ [27 ページ](#))

12 設定ボタン

SD カード内のプロジェクトを一覧したり (→ [107 ページ](#))、録音フォーマットの設定ができます (→ [91 ページ](#))。



録音する




録音の流れ

次のような流れで録音を行います。



録音前の準備

- SD カードをセットする
- 電池を使用する / AC アダプターを使用する
- マイクカプセルを取り付ける
- マイク / 楽器 / ミキサーなどを接続する
- 電源を ON にする
- 録音フォーマットを設定する
- 入出力を設定する


録音する

-  を押して録音開始、 を押して停止する
- サウンドパッドを録音することもできます
- マークを付けることもできます。
-  を押すと一時停止します。

再生して確認する


-  を押して再生開始、 を押して停止する
- マークを付けた位置への頭出し、プロジェクト用ミキサーの設定などもできます。

録音する


1. ポッドキャストアプリ画面で  を押す
録音が始まります。

NOTE

- 録音中にサウンドパッドを使用するとサウンドパッドの音はステレオにミックスされ、トラック 3/4 に録音されます。
- ポッドキャストモードではインプット 3/4 は使用できません

2. 一時停止するには  を押す

NOTE

- 一時停止を行うと、停止位置にマークがつきます。録音を再開するには再度  を押します。
- マークは 1 プロジェクトに最大 99 個つけられます。

HINT

一時停止せずにマークを付けることもできます。(→ [135 ページ「録音中 / 再生中のマークの付け方を設定する」](#))



3. 停止するには を押す

NOTE

録音中にファイルサイズが2 GBを超えたときは、プロジェクト番号が1つ進み、新しいプロジェクトに録音が継続されます。このとき、2つのプロジェクト間に音飛びは発生しません。

HINT


録音中は一定時間ごとにファイルが自動保存されます。録音中に電源遮断などの問題が発生した場合でも、自動保存されたファイルをトラックに割り当てることにより（→ [74ページ「トラックに割り当てるファイルを変更する」](#)）、正常なファイルとして復帰させることができます。

再生する




1. を押す

再生時の操作

操作内容	タッチスクリーン/キー操作
再生プロジェクトの選択 / マーク位置の頭出し	 /  をタップする
早送り / 早戻し	 /  を長押しする  を左右にスライドする
15秒スキップ	 /  をタップする
一時停止 / 再生再開	 を押す
停止	 /  を押す



HINT

- シークバーを左右にスライドすることで、再生位置を変更することができます。
 - 再生中にトラックキーを押すと再生（緑点灯）、ミュート（消灯）を切替えることができます。
 - 選択したプロジェクトが不正の場合、「不正なプロジェクトです!」のメッセージが表示されます。
 - 再生可能なプロジェクトが1つもない場合、「再生プロジェクトがありません!」のメッセージが表示されます。
 - 再生中に  を押すと頭出し用のマークを付けることができます。(→ [135 ページ「録音中／再生中のマークの付け方を設定する」](#))
-

- 2.** ポッドキャストアプリの最初の画面に戻るには  を押す



サウンドパッドを使う

サウンドパッドはオーディオファイル（WAV フォーマット）を割り当て、タップされるとそのファイルを再生するパッドです。ポッドキャストイングやストリーミング、演劇時やバンド演奏時の効果音を出したいときに便利です。

NOTE

- 録音中にサウンドパッドを使用するとサウンドパッドの音はステレオにミックスされ、トラック 3/4 に録音されます。
- ポッドキャストモードではインプット 3/4 は使用できません。

サウンドパッドを使って音源を再生する

H8 には 13 個のサウンドが内蔵されており、工場出荷状態ではその中から 4 つがサウンドパッドに割り当てられています。

1. サウンドパッドをタップする



NOTE

録音時にサウンドパッドを鳴らすと、トラック 3/4 に録音されます。

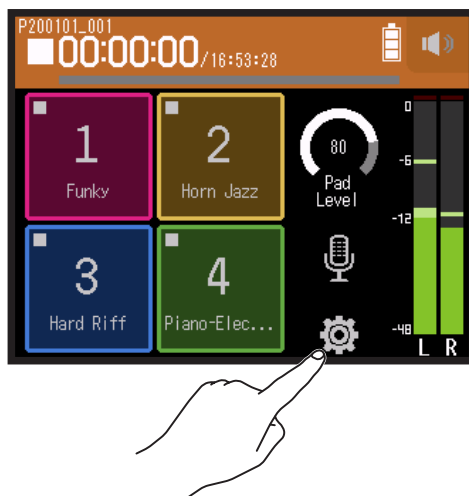
HINT

Pad Level ツマミを上下にスライドすることで、パッド全体の音量を調節することができます。

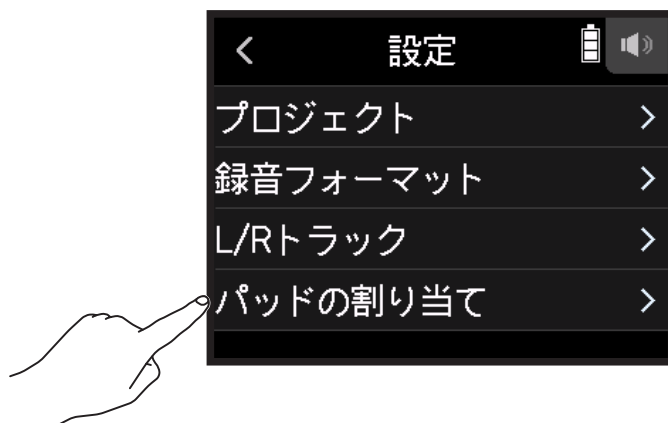
オーディオファイルをサウンドパッドに割り当てる

サウンドパッドには内蔵音源、SDカードに保存されたオーディオファイルを割り当てることができます。

1. をタップする



2. **パッドの割り当て** をタップする

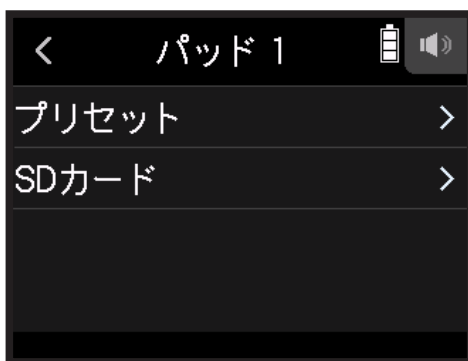


3. 割り当てを変更するパッド番号をタップする





4. プリセット または SD カード をタップする



5. 任意のファイルをタップする



6. 割り当てる をタップする



NOTE

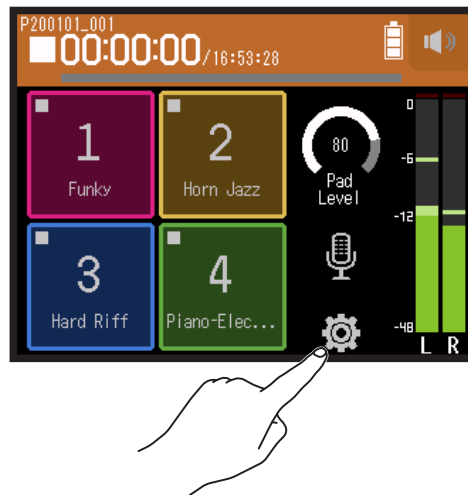
- SD カードに保存されたオーディオファイルを割り当てる場合は、あらかじめパソコンでオーディオファイルをSDカードの「SOUND PAD」フォルダ内に保存しておいてください。(→ [122 ページ「カードリーダーとして使用する」](#))
- サウンドパッドは以下のファイルに対応しています。
 - ファイルフォーマット：WAV
 - サンプルレート：44.1/48 kHz
 - ビットレート：16/24-bit
 - チャンネル：モノラル/ステレオ
- 「SOUND PAD」フォルダ以外のあるファイルを割り当てる場合は「SOUND PAD」にファイルがコピーされます。

録音の設定

録音フォーマットを設定する

音質やファイルサイズを考慮しながら、フォーマットを選択できます。

1. をタップする



2. **録音フォーマット** をタップする



3. 録音フォーマットを設定する




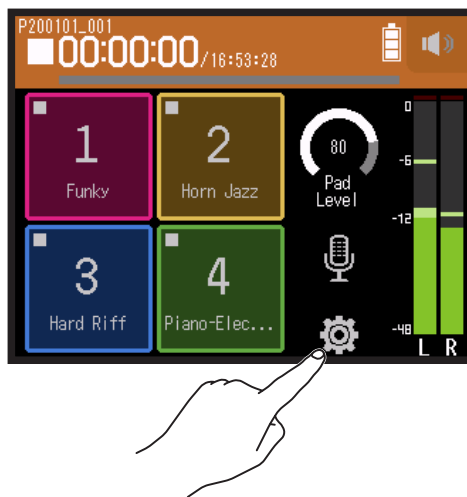
設定できるフォーマットは以下のとおりです。

設定	説明
WAV 44.1 kHz/16 bit	数値が大きいほど高音質になりますが、ファイルの容量は増加します。
WAV 44.1 kHz/24 bit	
WAV 48 kHz/16 bit	
WAV 48 kHz/24 bit	
MP3 128 kbps	
MP3 192 kbps	
MP3 320 kbps	

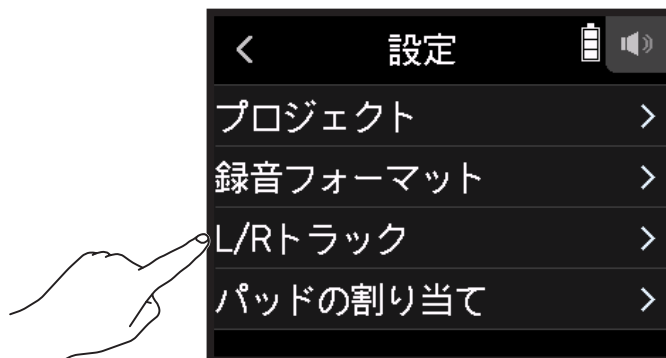
L/Rトラックを録音する

録音時に内蔵ミキサーによりミキシングされた結果が、ステレオファイルとして作成されます。

1.  をタップする



2. **L/Rトラック** をタップする



3. オンをタップする



エフェクトを使う

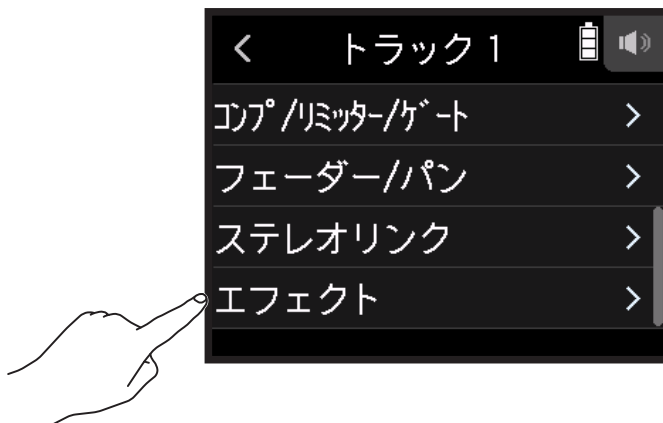
76 種類のエフェクトを使用できます。

1. をタップする

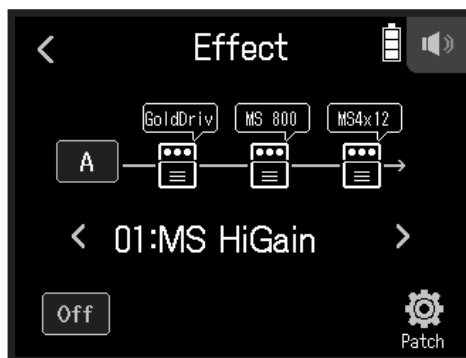


2. トラックを選択する

3. エフェクト をタップする



エフェクトの画面が表示されます。



エフェクトの設定方法などについては「エフェクトを使う」(→ [95 ページ](#)) を参照してください。

NOTE

エフェクトは録音フォーマットが 44.1 kHz/16 bit, 44.1 kHz/24 bit のときしか使用できません。

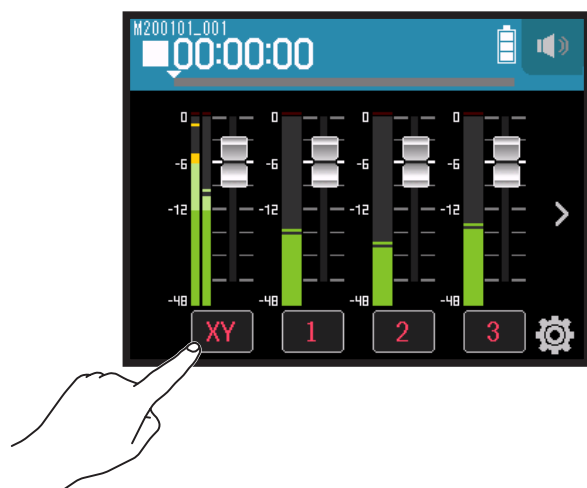
エフェクトを使う

楽器や声などの原音を加工します。ZOOMのエフェクターと同等のエフェクトを搭載し、様々な楽器にエフェクトをかけることができます。無料のエフェクト管理ソフトウェア Guitar Lab を使用すると、オンラインで配信されるエフェクトの追加や、パッチメモリーの編集/バックアップなどをパソコン（Mac/Windows）で行うことができます。

エフェクトを使用するトラックとパッチメモリーを選択する

🎵 ミュージックアプリ画面からエフェクトを使用するトラックを設定する

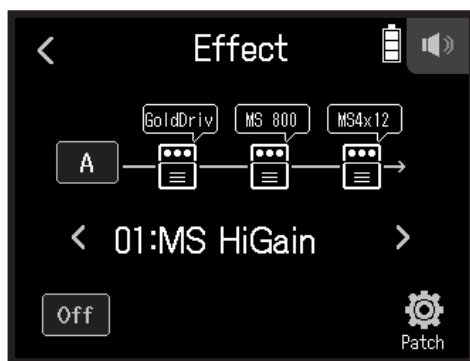
1. トラックを選択する



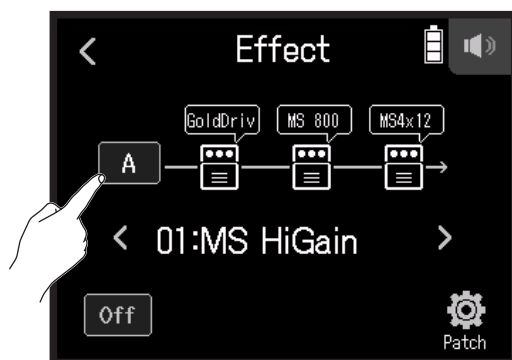
2. 🗄️ EFFECT をタップする



エフェクトの画面が表示されます。



3. 入力アイコンをタップする



4. エフェクトを使用するトラックを選択する



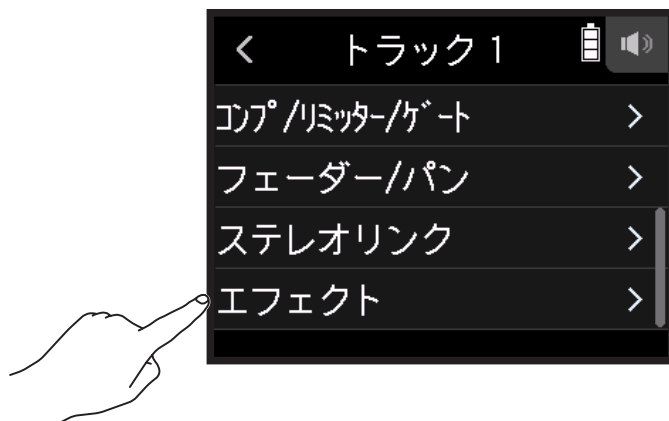
ポッドキャストアプリ画面からエフェクトを使用するトラックを設定する

1. をタップする

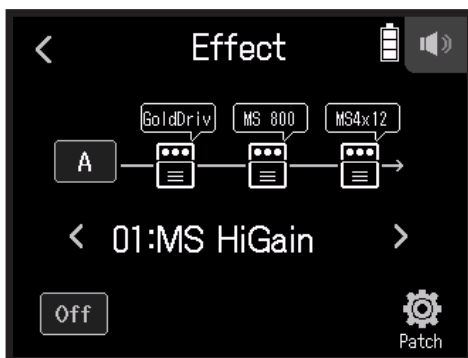


2. トラックを選択する

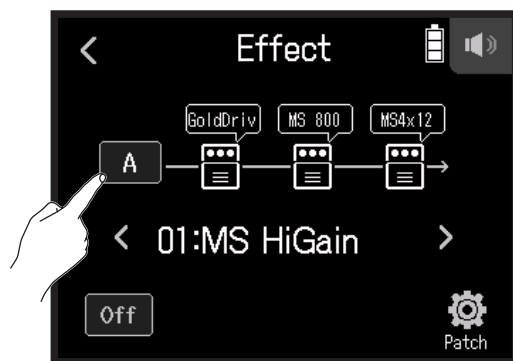
3. エフェクト をタップする



エフェクトの画面が表示されます。



4. 入力アイコンをタップする

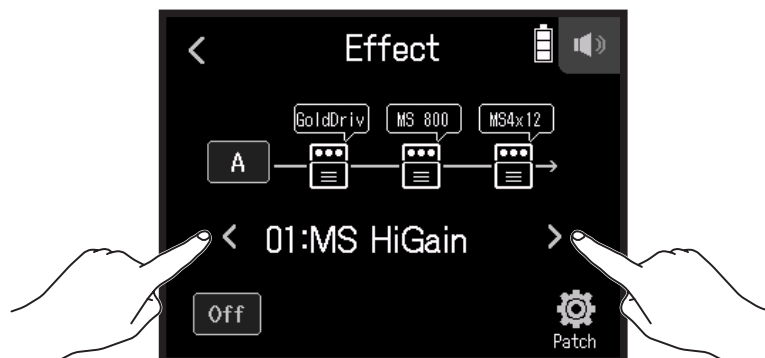


5. エフェクトを使用するトラックを選択する

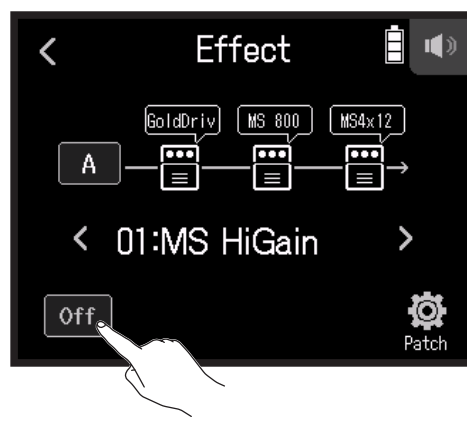
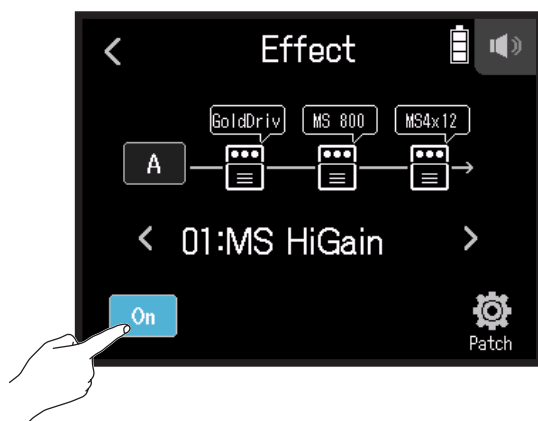


パッチメモリーを選択し、メモリーを On/Off する

1. エフェクトの画面で </> をタップしてパッチメモリーを選択する

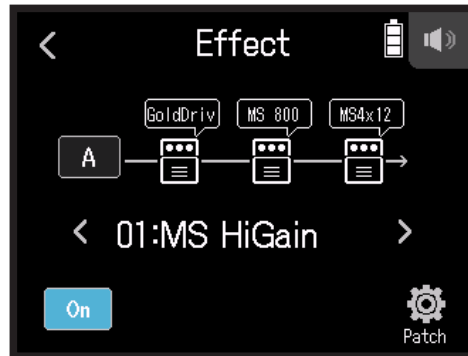


2. On または Off をタップする



エフェクトパラメーターを調節する

1. エフェクトの画面から調節するエフェクトをタップする



2. エフェクトを調節する




- On / Off をタップする：エフェクトのオン / オフを設定する
- Type をタップする：エフェクトを変更する
- パラメーターを上下にスライドする：パラメーターを設定する

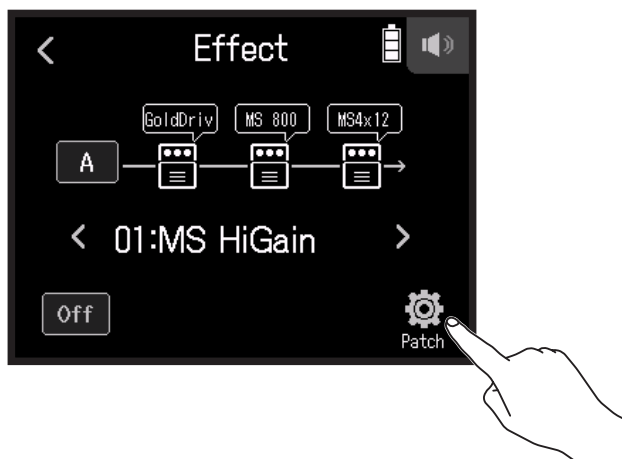
NOTE

- パラメーターが5つ以上ある場合、> をタップして画面を切りえます。
- H8では3つのエフェクトを自由に組み合わせることができますが、処理能力の限界を超えた場合には、“エフェクトの処理量が制限を超えています”と表示され、エフェクトがバイパス状態になります。この状態を解除するには、いずれかのエフェクトタイプを変更してください。
- 調節できる対応するパラメーターは、エフェクトにより異なります。

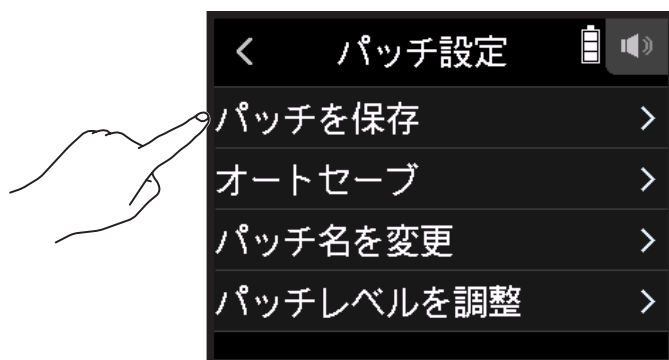
パッチメモリーを設定する

パッチメモリーを保存する

1. エフェクトの画面から  Patch をタップする



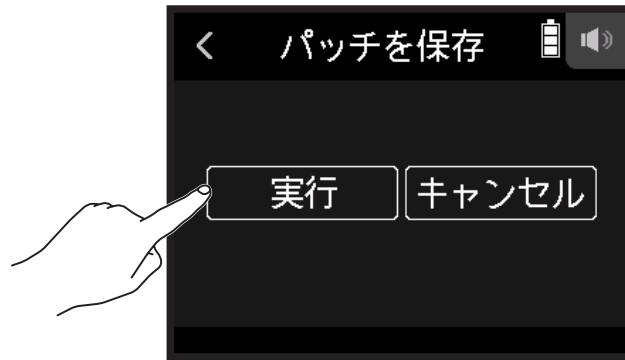
2. **パッチを保存** をタップする



3. 保存先のパッチ名をタップする



4. 実行 をタップする



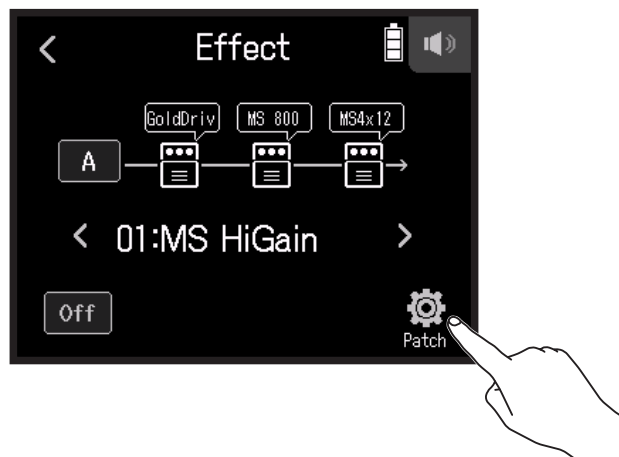
NOTE

パッチメモリーはプロジェクトには保存されません。H8 の設定として 50 個保存できます。

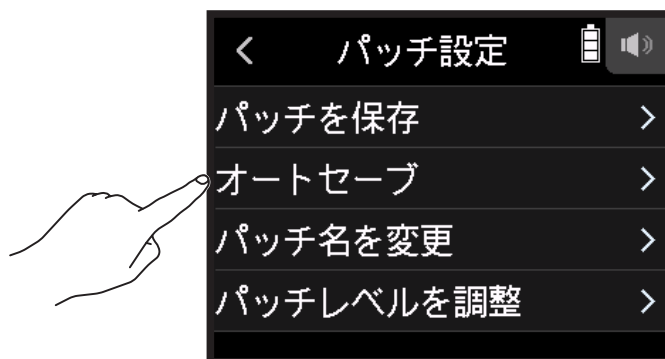
パッチメモリーを自動で保存する

パッチメモリーを変更したときに、自動で保存されるように設定することができます。

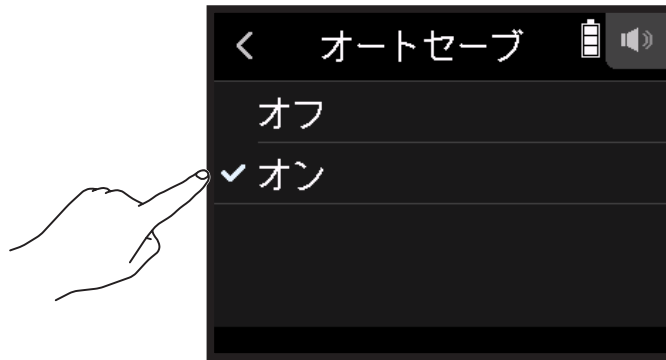
1. エフェクトの画面から Patch をタップする



2. オートセーブ をタップする



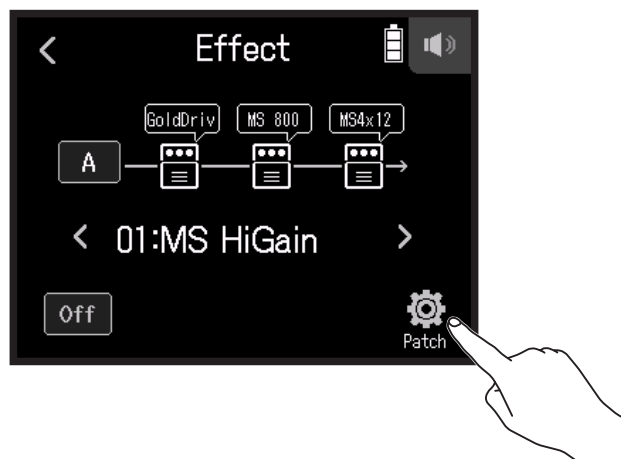
3. オンをタップする



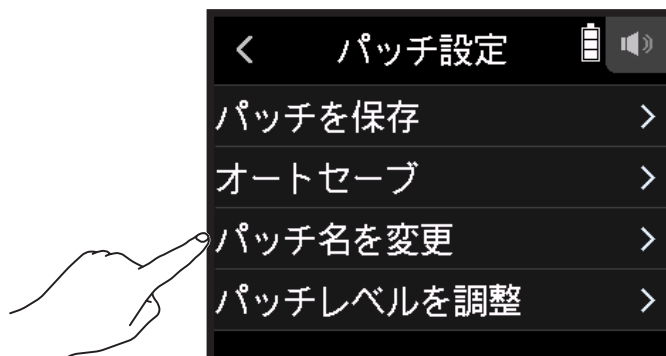
パッチ名を変更する

1. エフェクトの画面でパッチ名を変更したいパッチを選ぶ

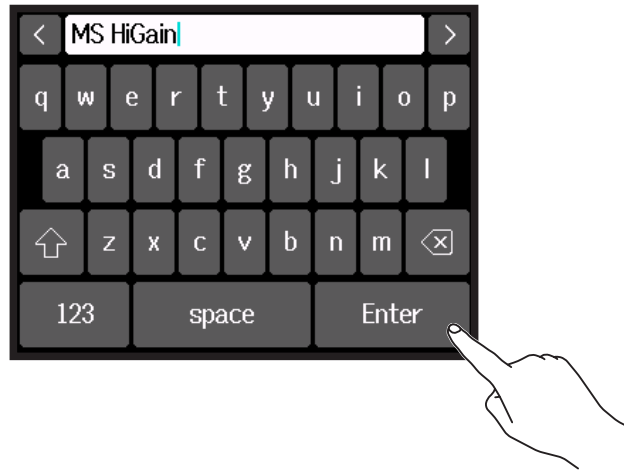
2.  Patch をタップする



3. **パッチ名を変更** をタップする



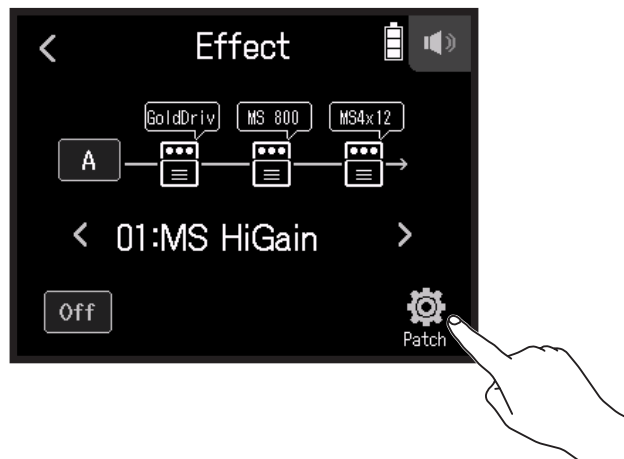
4. パッチ名を入力し、**Enter** をタップする



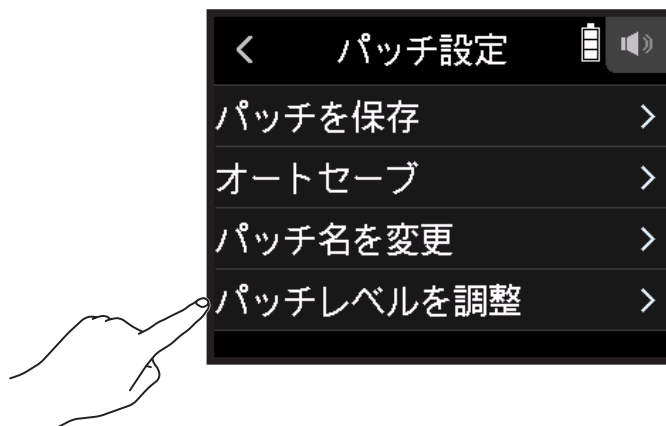
文字の入力方法は「文字入力画面について」(→ [14 ページ](#)) を参照してください。

パッチレベルを変更する

1. エフェクトの画面から Patch をタップする



2. **パッチレベルを調整** をタップする



3.  を上下にスライドしてレベルを変更する



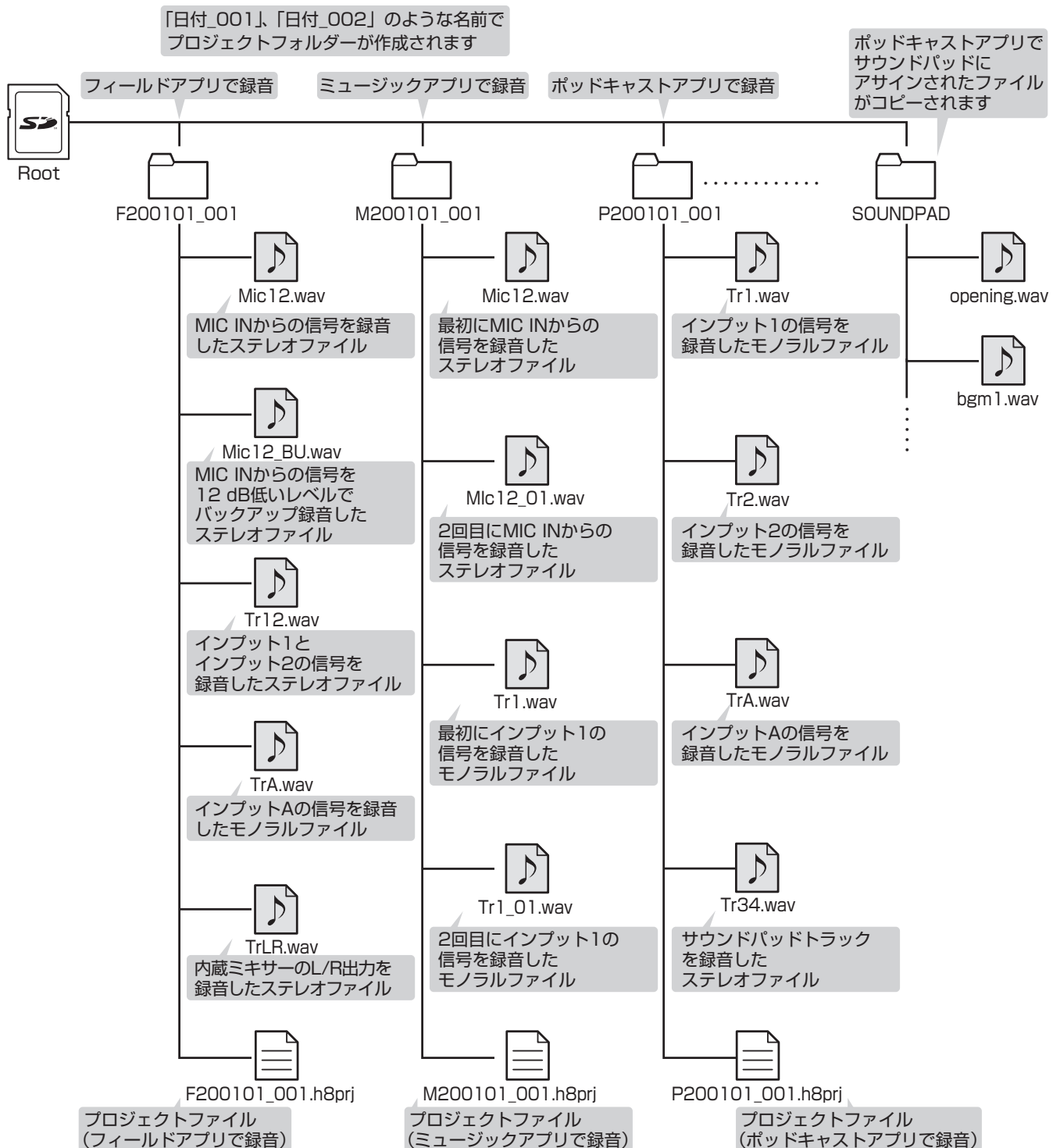
プロジェクトを操作する

フォルダー・ファイル構成

H8で録音すると、SDカードに下記のようなフォルダー・ファイルが作成されます。

作成されたプロジェクトは、3つのアプリ（フィールドアプリ、ミュージックアプリ、ポッドキャストアプリ）の全てで使用することができます（Wav 96 kHz/16-bit、Wav 96 kHz/24-bit の録音と再生は、フィールドアプリだけが対応しています）。


H8では、録音・再生するデータの単位をプロジェクトと呼びます。



プロジェクトを操作する

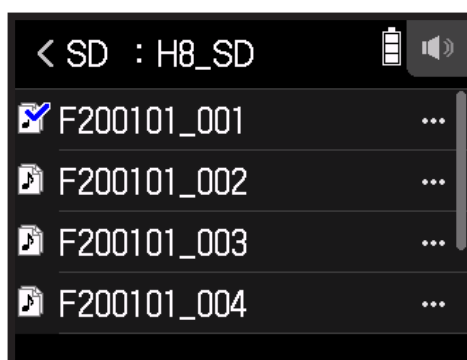
SD カード内の内容を一覧し、フォルダーの作成、録音 / 再生フォルダーの設定、削除、情報の確認などを行うことができます。

プロジェクト操作画面

1. 各アプリ画面から  をタップする

2. **プロジェクト** をタップする

SD カード内のフォルダー・ファイル（プロジェクト操作画面）が表示されます。



• 下記の操作を行うことができます。

動作	操作方法
1つ下の階層に移動	フォルダーをタップする
1つ上の階層に移動	< をタップする
オプションを表示	... をタップする

プロジェクトの録音 / 再生フォルダーを選択する

再生するプロジェクトの保存されたフォルダー、または録音したプロジェクトを保存するフォルダーを選択し、各アプリの最初画面に遷移します。

1. プロジェクト操作画面で「…」をタップする



2. 「選択」をタップする



3. 「実行」をタップする



NOTE

フォルダーを選択した場合は、選択したフォルダー内の先頭のプロジェクトが再生プロジェクトとして選択された状態になります。

フォルダー・プロジェクト名を変更する

1. プロジェクト操作画面で...をタップする



2. 名前の変更をタップする



3. フォルダー・プロジェクト名を入力する



文字の入力方法は「文字入力画面について」(→ [14ページ](#))を参照してください。

プロジェクトの情報を確認する

1. プロジェクト操作画面で...をタップする



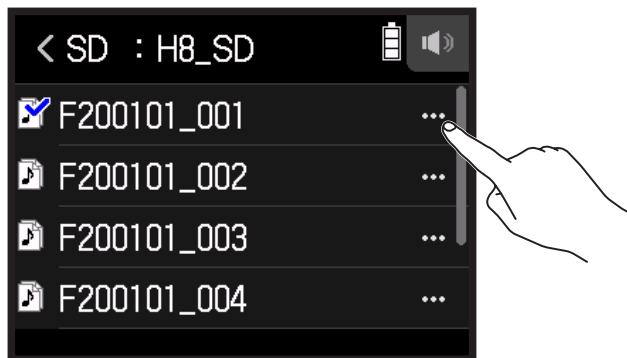
2. 情報をタップする



項目	説明
日付 / 時間	録音した日時
フォーマット	録音フォーマット
サイズ	録音ファイルのサイズ
長さ	録音時間

フォルダー・プロジェクトを削除する

1. プロジェクト操作画面で...をタップする



2. 削除をタップする



3. 実行をタップする

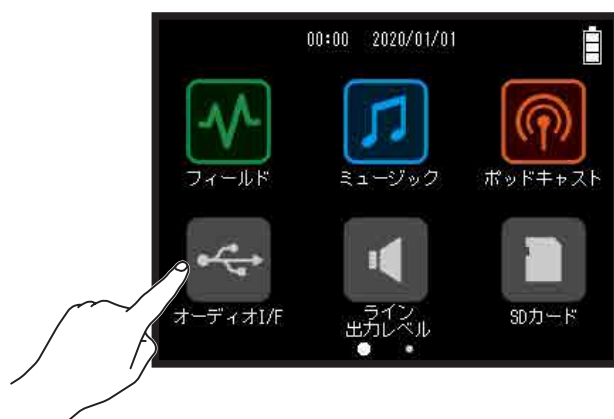


オーディオインターフェースとして使用する

H8 への入力信号をパソコンや iOS/iPad OS デバイスに入力することができます。また、パソコンや iOS/iPad OS デバイスの再生信号を H8 から出力することができます。

H8 とパソコンまたは iOS/iPad OS デバイスを接続する

1. ホーム画面で オーディオ I/F をタップする



2. モードを選ぶ



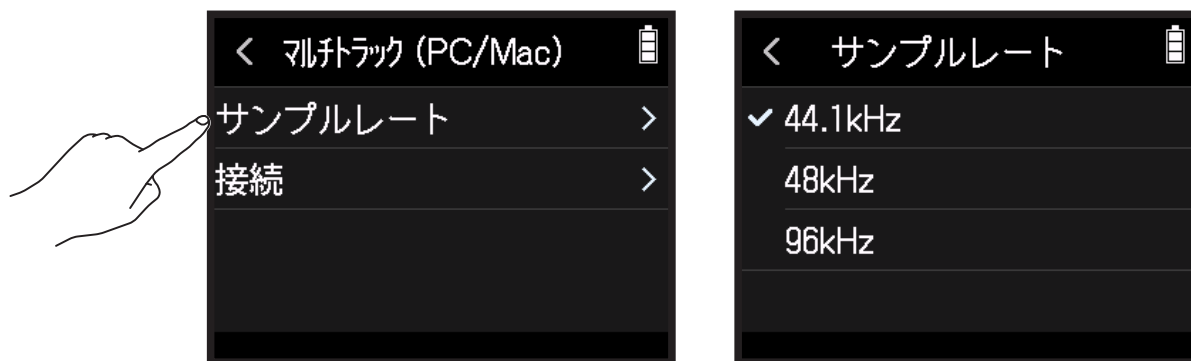
モード	説明
ステレオミックス (PC/Mac)	各トラックをステレオミックスした信号を送る、2IN/2OUT の Mac/Windows 接続用モードです。
ステレオミックス (iPad)	各トラックをステレオミックスした信号を送る、2IN/2OUT の iPad OS デバイス 接続用モードです。
マルチトラック (PC/Mac)	それぞれのトラックの信号を個別に送る、12IN/2OUT の Mac/Windows 接続用モードです。

NOTE

Windows で使用するには、ドライバが必要です。ドライバは ZOOM の WEB サイト (zoomcorp.com) からダウンロードできます。

ステレオミックス・モードを選んだ場合は手順 5 に進んでください。

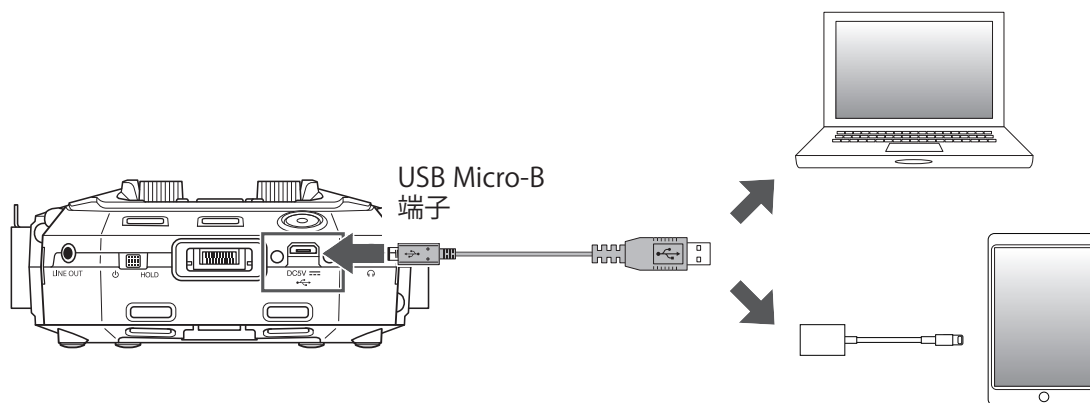
3. サンプルレート をタップして、サンプルレートを選ぶ



4. 接続 をタップする



5. H8 とパソコンまたは iOS/iPad OS デバイスを USB ケーブルで接続する

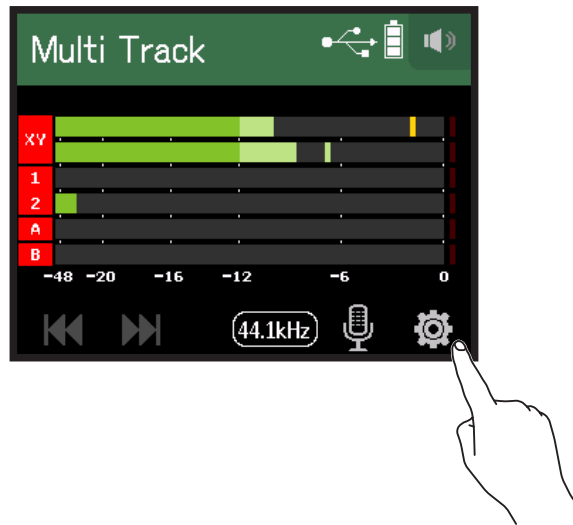


NOTE

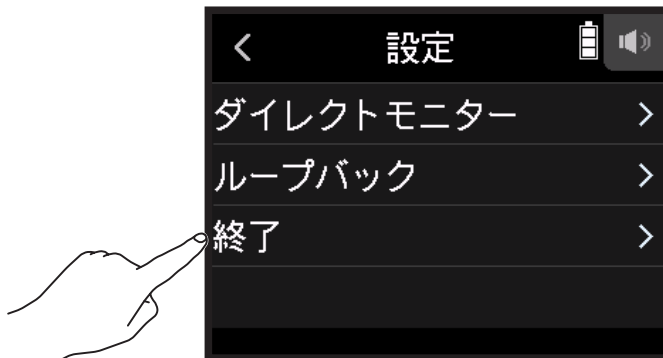
Lightning コネクタを搭載した iOS/iPadOS デバイスと接続するには、Lightning - USB カメラアダプタ / Lightning - USB 3 カメラアダプタが必要です。

H8 からパソコンまたは iOS/iPad OS デバイスを取り外す

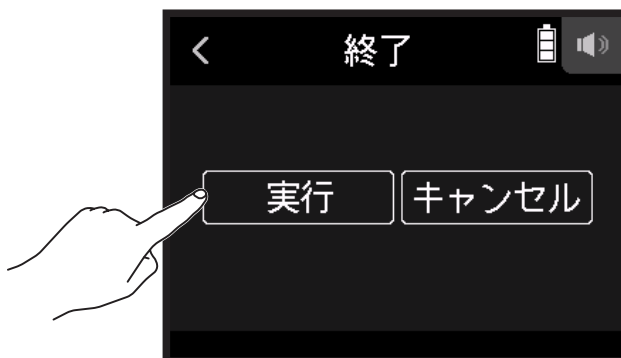
1. オーディオ I/F のトップ画面で  をタップする



2. **終了** をタップする



3. **実行** をタップする




4. H8 とパソコンまたは iOS/iPad OS デバイスを接続している USB ケーブルを取り外す

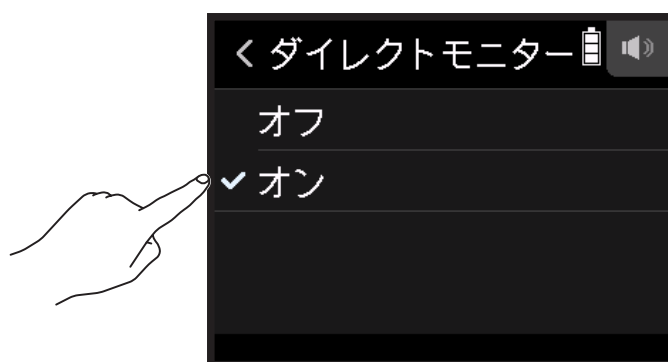
オーディオインターフェースとして設定する

H8 をオーディオインターフェースとして使用する場合は、次のような 2 つの設定ができます。

ダイレクトモニターを設定する

H8 の収録音をパソコンや iOS/iPad OS デバイスを經由せずに、H8 から出力します。これにより遅延のないモニタリングが可能です


1. パソコンや iOS/iPad OS デバイスを接続後に、各アプリ画面から  をタップする
2. **ダイレクトモニター** をタップして、**オン** を設定する



ループバックを設定する（ステレオミックスのみ）

パソコン、iOS/iPad OS デバイスの再生音と H8 への入力をミックスして、もう一度パソコン、iOS/iPad OS デバイスに送る（ループバック）ことができます。

パソコンで再生した音楽にナレーションをつけてパソコンで録音したり、ストリーム配信したりできます。

1. パソコンや iOS/iPad OS デバイスを接続後に、各アプリ画面から  をタップする
2. **ループバック** をタップして、**オン** を設定する



入力をミキシングする

各入力のミックスバランスを変更できます。ここで設定したバランスで、パソコンや iOS/iPad OS デバイスに入力信号が送られます。ステレオミックスの場合は、ステレオにミキシングされた状態で送られます。

入力をミキシングする方法については、「入力信号のモニターバランスをフェーダー/パンで調節する」(→ [39 ページ](#)) を参照してください。

SD カードを管理する

SD カードの情報を確認する

SD カードの空き容量や、サイズを確認することができます。

1. ホーム画面で **SD カード** をタップする



2. **カード情報** をタップする



SD カードの性能をテストする

購入したSDカードがH8で使用可能かテストできます。短時間で行う簡易テストと、SDカードの全領域を検査するフルテストがあります。

簡易テストを行う

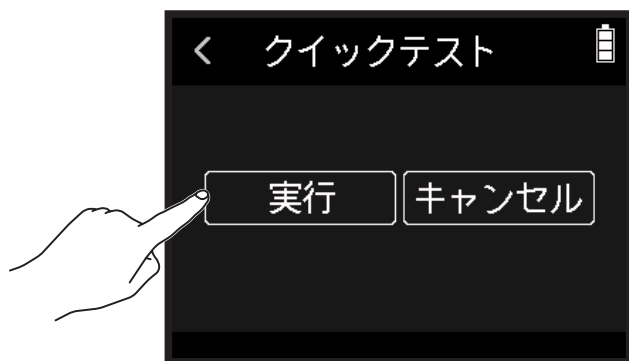
1. ホーム画面で **SDカード** をタップする



2. **クイックテスト** をタップする



3. 実行を選択する



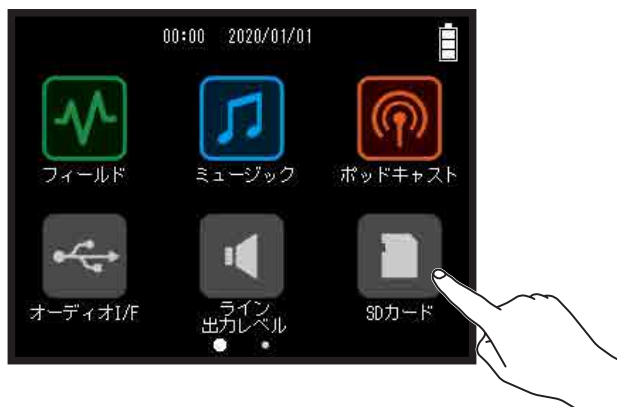
カードの性能テストが始まります。テストには 30 秒ほどかかります。テストが終了すると判定結果が表示されます。

HINT

テストを中止するには < をタップします。

フルテストを行う

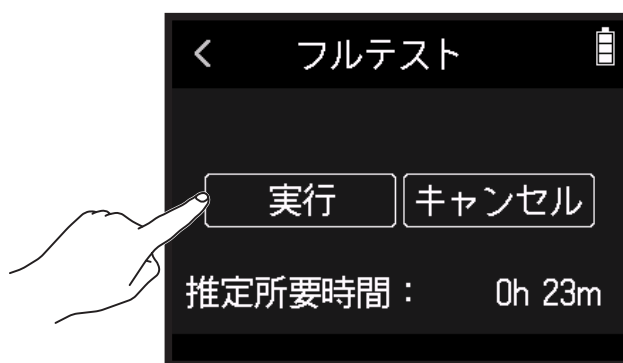
1. ホーム画面で **SD カード** をタップする



2. **フルテスト** をタップする



3. **実行** を選択する



カードの性能テストが始まります。アクセスレート MAX が 90% になると NG となります。

HINT

テストを中止するには **<** をタップします。

NOTE

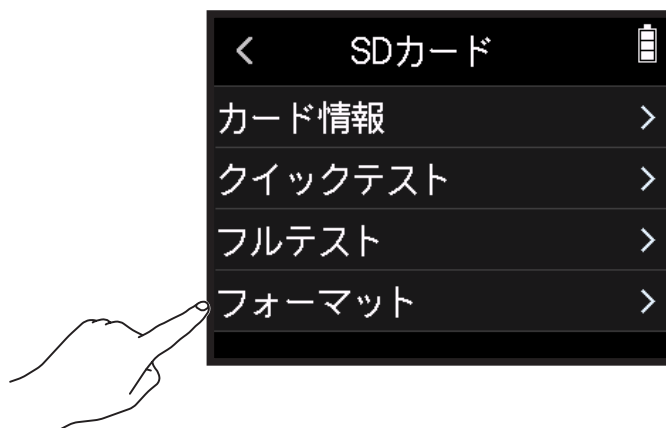
性能テスト判定が OK になっても書き込み不良が起きないことを保証するものではありません。あくまで目安として考えてください。

SD カードを初期化する

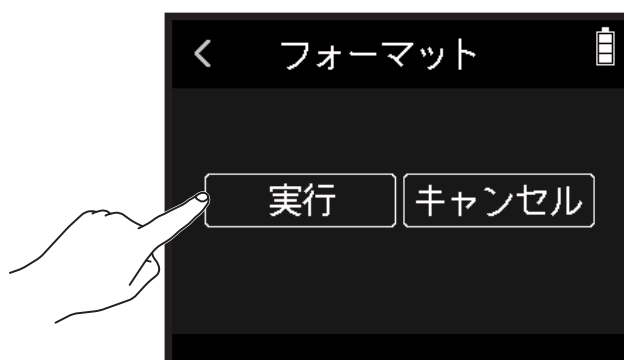
1. ホーム画面で **SD カード** をタップする



2. **フォーマット** をタップする



3. **実行** を選択する




NOTE

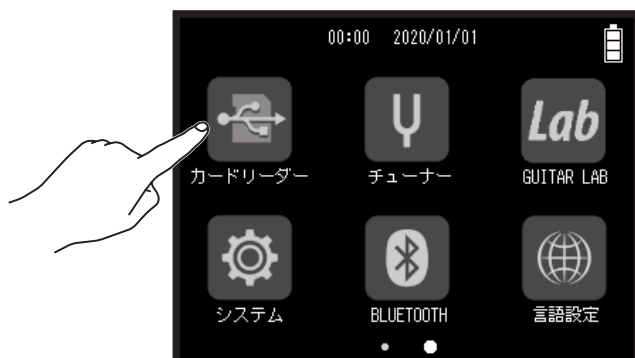
- 市販のSDカードや、他のパソコンで初期化されたSDカードを使用する場合は、最初にH8で初期化する必要があります。
- SDカードを初期化すると、それまでに保存されていたデータはすべて消去されます。ご注意ください。

カードリーダーとして使用する

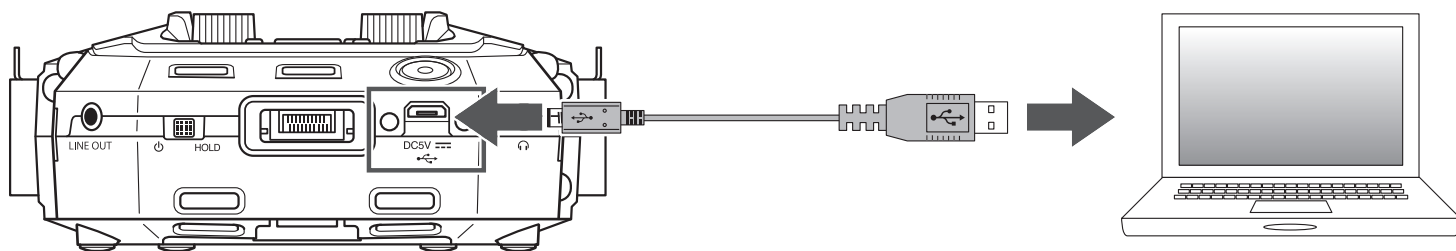
パソコンと接続して、SD カード内のデータの確認やコピーをすることができます。

H8 とパソコンを接続する

1. ホーム画面で  カードリーダー をタップする



2. H8 とパソコンを USB ケーブルで接続する



H8 からパソコンを取り外す

1. パソコン側で接続を解除する処理を行う

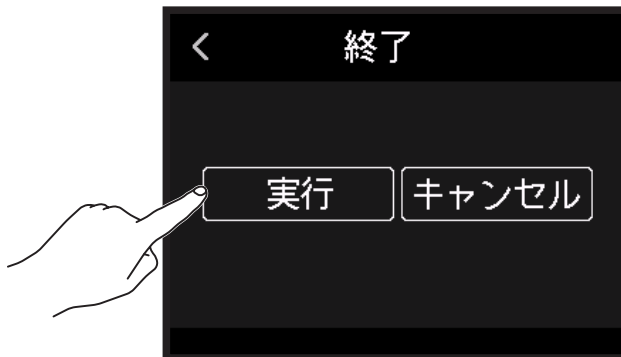
- Windows の場合：“ハードウェアの安全な取り外し”で H8 を選択する
- Mac OS の場合：H8 のアイコンをゴミ箱にドラッグ&ドロップする

NOTE

USB ケーブルを抜く前に、必ず解除操作を行ってください。

2. H8 とパソコンを接続している USB ケーブルを取り外し、 を押す

3. **実行** をタップする

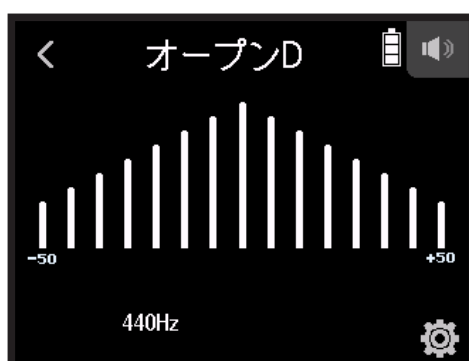


チューナーを使用する

チューナー機能を使用することにより、ギターなどのチューニングを行うことができます。

ギターをチューニングする

1. ホーム画面で **Ψ** チューナー をタップする



←低いピッチ 正確なピッチ 高いピッチ→

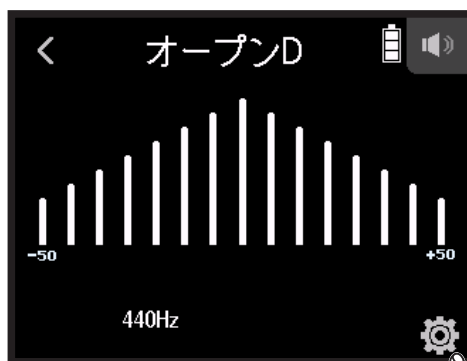
2. チューニングしたい弦を開放で弾き、ピッチを調整する 最寄りの音名または現番号とピッチのズレが表示されます。

チューナーのタイプを変更する

1. ホーム画面で **Ψ** チューナー をタップする



2. **⚙️** をタップする



3. **タイプ** をタップする



4. ギターのタイプを選んでタップする



設定できるチューナータイプ

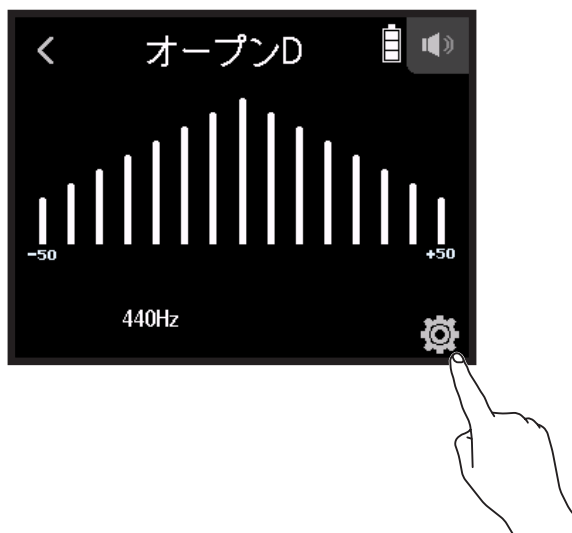
設定	説明	弦番号／音名						
		7	6	5	4	3	2	1
クロマチック	最寄りの音名（半音単位）と、その音名からどの程度ずれているかを表示します。	-	-	-	-	-	-	-
ギター	7弦ギターにも対応するギターの標準チューニング	B	E	A	D	G	B	E
ベース	5弦ベースにも対応するベースギターの標準チューニングです。	-	-	B	E	A	D	G
オープンA	開放弦を鳴らすとAのコードになるオープンAチューニング	-	E	A	E	A	C#	E
オープンD	開放弦を鳴らすとDのコードになるオープンDチューニング	-	D	A	D	F#	A	D
オープンE	開放弦を鳴らすとEのコードになるオープンEチューニング	-	E	B	E	G#	B	E
オープンG	開放弦を鳴らすとGのコードになるオープンGチューニング	-	D	G	D	G	B	D
DADGAD	タッピング奏法などでよく使われる変則チューニング	-	D	A	D	G	A	D

チューナーの基準ピッチを設定する

1. ホーム画面で チューナー をタップする



2. をタップする



3. をタップする



4. を上下にスライドして、基準ピッチを選んでタップする



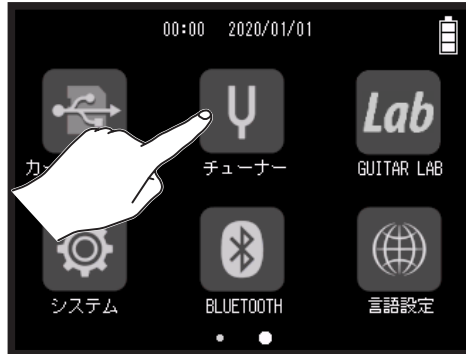
HINT

435 Hz ~ 445 Hz の範囲で設定できます。

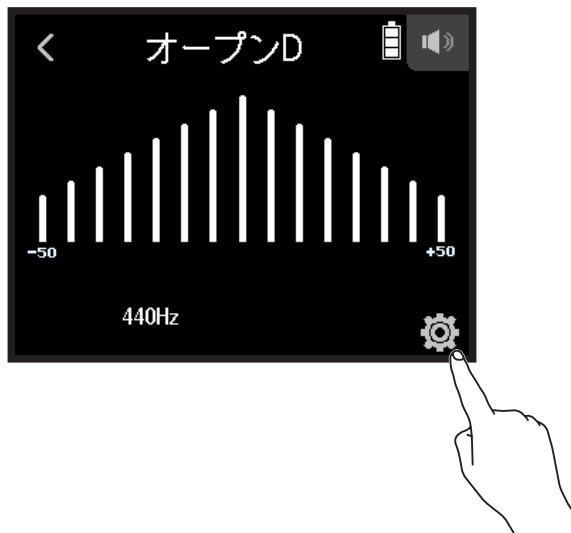
フラットチューニングを使用する

すべての弦を通常のチューニングよりも半音から1音半まで下げた状態にチューニングできます。

1. ホーム画面で **Ψ** チューナー をタップする



2. **⚙️** をタップする



3. **フラット** をタップする



4. 設定を選んでタップする



HINT

x0～x3 (1 半音下) の範囲で設定できます。

NOTE

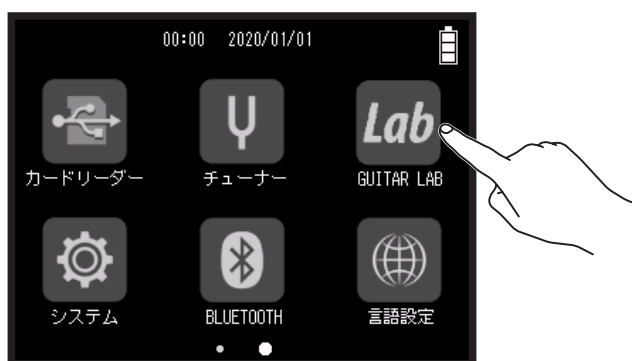
チューナータイプが“クロマチック”のときは、フラットチューニングはできません。

Guitar Lab を使用する

Guitar Lab を使用すると、オンラインで配信されるエフェクトの追加や、パッチメモリの編集/バックアップなどをパソコン（PC/Mac）で行うことができます。

Guitar Lab を接続する

1. ホーム画面で **Lab** GUITAR LAB をタップする



2. H8 とパソコンを USB ケーブルで接続する

3. パソコン上で Guitar Lab を起動する

Guitar Lab を切断する

1.  を押す

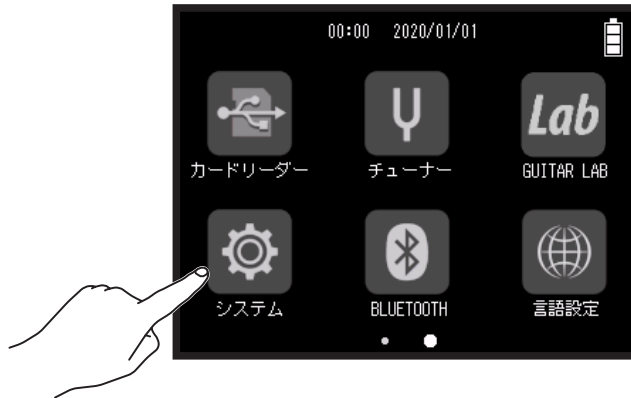
2. **実行** をタップする

日時を設定する

日時を設定する

録音ファイルに記録される日時を設定します。

1. ホーム画面で  システム をタップする



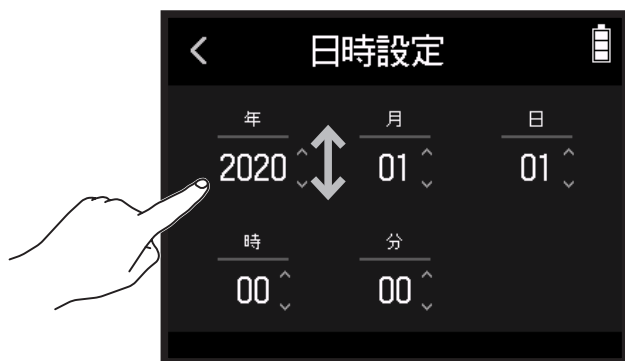
2. 日付 / 時刻 をタップする



3. 日時設定 をタップする

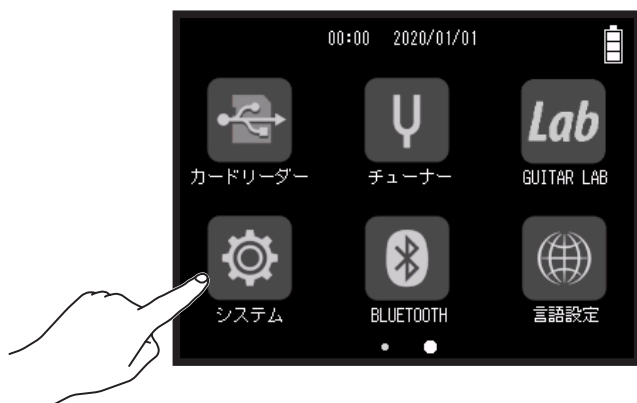


4. 日付と時刻をスワイプさせて設定する

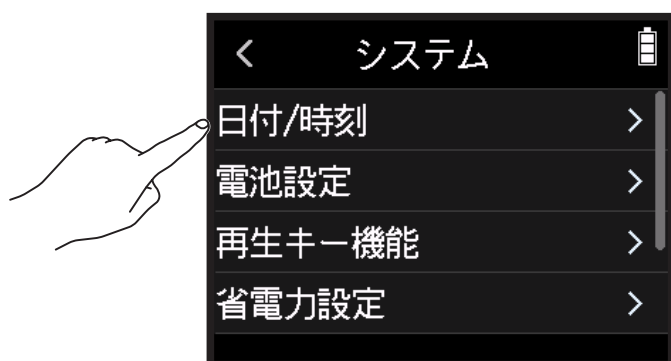


日付の形式を設定する

1. ホーム画面で システム をタップする



2. 日付/時刻 をタップする



3. 日付形式をタップする



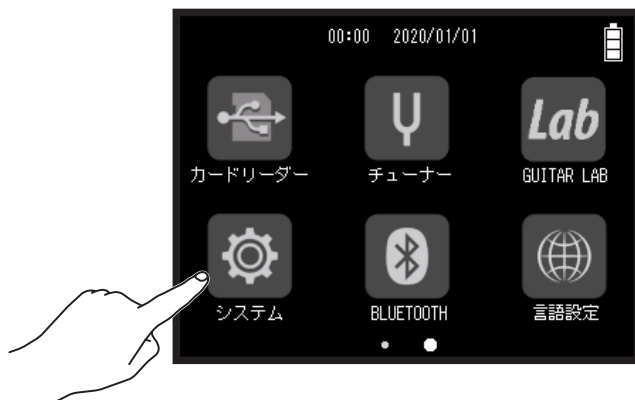
4. 日付形式を選び、タップする



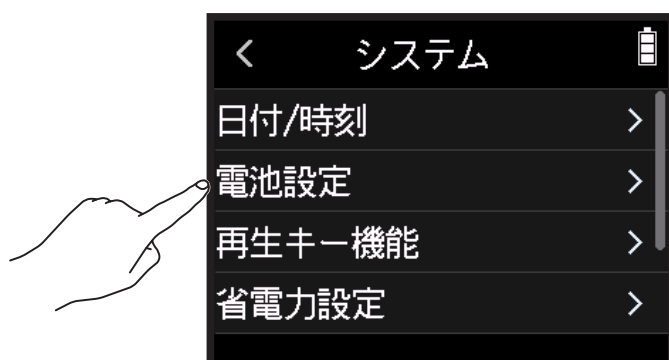
電池の種類を設定する

ディスプレイに電池残量を正確に表示するために、H8 で使用する電池の種類をアルカリ／ニッケル水素／リチウムから選択します。

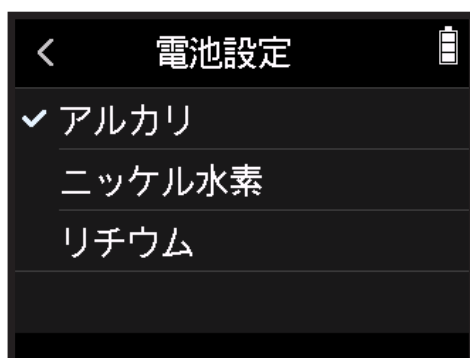
1. ホーム画面で システム をタップする



2. 電池設定 をタップする



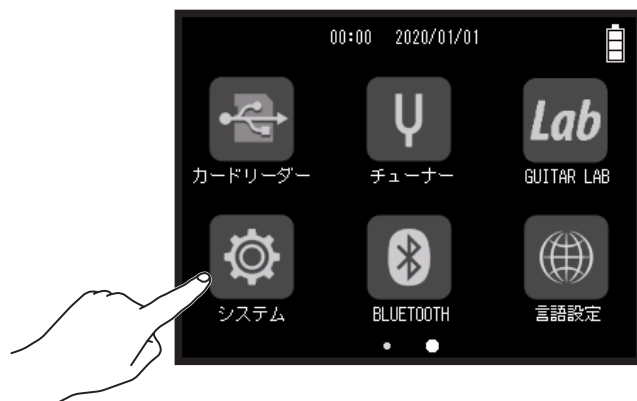
3. 電池の種類を選んでタップする



録音中／再生中のマークの付け方を設定する

WAV フォーマットでの録音中／再生中に  を押した場合のマークの付け方を設定することができます。

1. ホーム画面で システム をタップする






2. 再生キー機能 をタップする



3. 録音中 または 再生中 をタップする



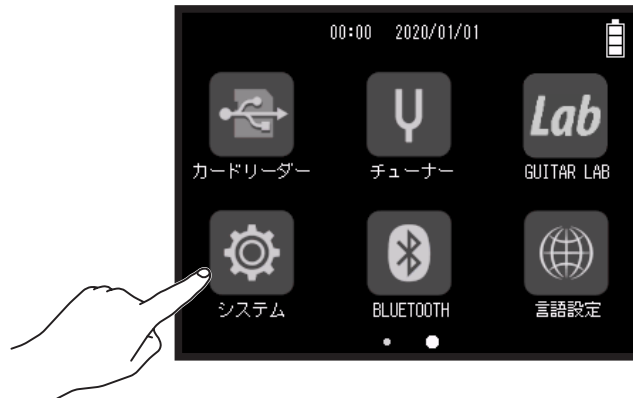
4. マークの付け方を選んでタップする

マークの付け方	説明
一時停止	 を押すと、マークが付かずに一時停止します。
一時停止とマーク	 を押すと、一時停止しマークが付きます。
マーク	 を押すと、一時停止せずにマークが付きます。

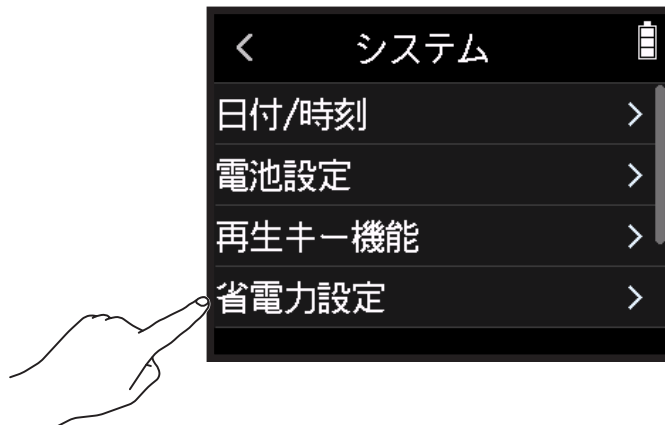
LCD を設定する

LCD の明るさを設定する

1. ホーム画面で  システム をタップする



2. 省電力設定 をタップする



3. LCD 輝度 をタップする



4. を上下にスライドして、明るさを調節する

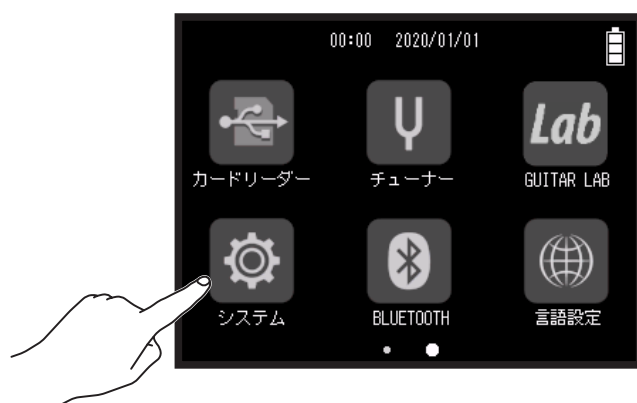


HINT

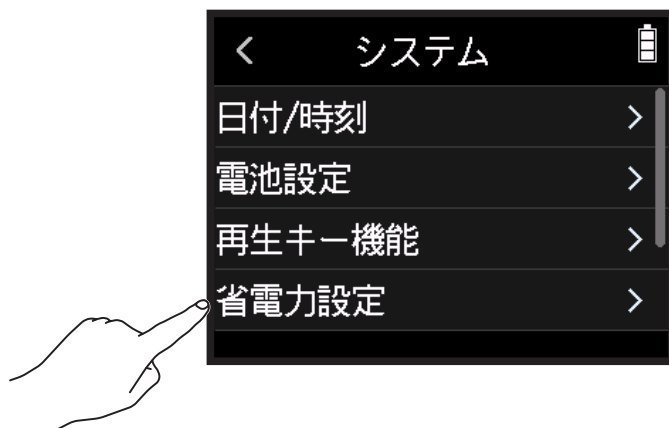
5 ~ 100 の範囲で設定できます。

LCD のバックライトを設定する

1. ホーム画面で システム をタップする



2. 省電力設定 をタップする



3. LCD バックライト をタップする



4. 設定を選んでタップする

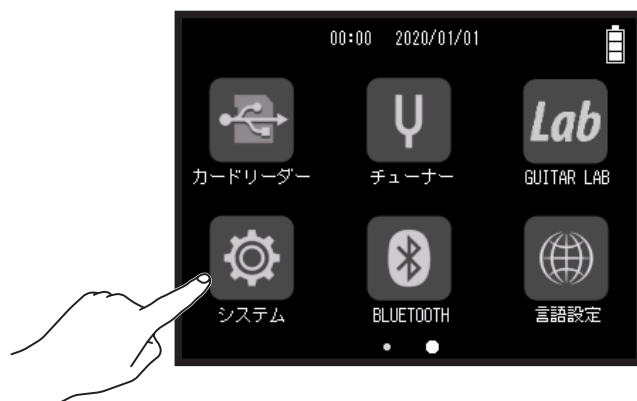


設定	説明
オン	LCD バックライトは常に明るく点灯します。 設定の時間が経過すると、LCD バックライトが暗くなります。
30 秒	
1 分	
2 分	
3 分	
4 分	
5 分	

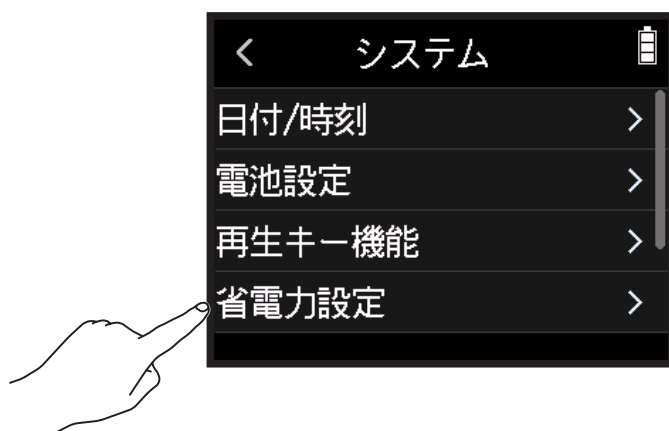
電源の自動 OFF 機能を設定する（オートパワーオフ）

H8 は操作をしない状態で 10 時間が経過すると、自動的に電源が切れます。
常に電源を ON にしたい場合は、電源の自動 OFF 機能の設定を無効にしてください。

1. ホーム画面で をタップする



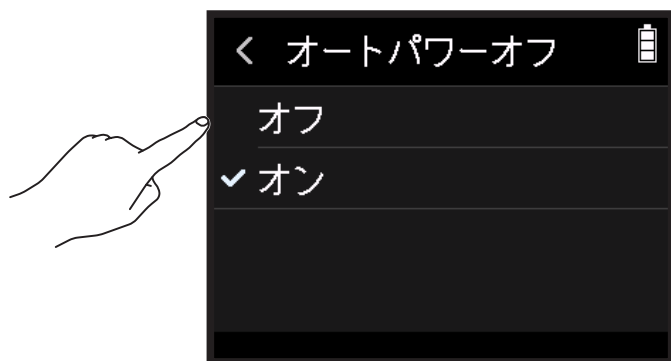
2. 省電力設定 をタップする



3. オートパワーオフ をタップする



4. オフをタップする



NOTE

この機能が働くのは、USB 端子から電源が供給されているときのみです。

iOS/iPad OS デバイスから操作する

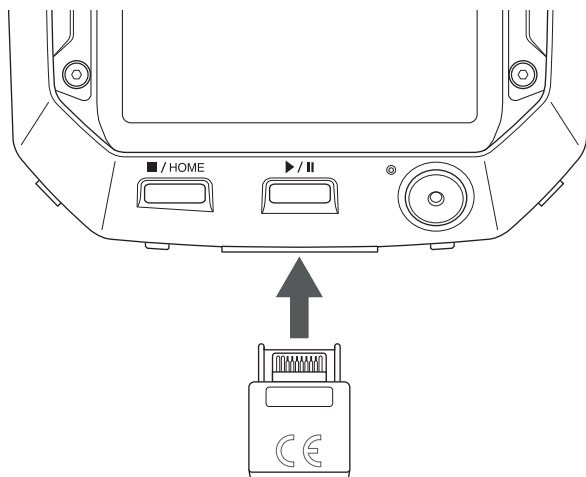
iOS/iPad OS デバイスと接続する

専用無線アダプター（BTA-1 など）を接続すると、専用のコントローラーアプリケーション「H8 Control」を使用して、iOS/iPad OS デバイスから操作できます。

NOTE

- あらかじめ専用アプリ「H8 Control」を iOS/iPad OS デバイスにインストールしておく必要があります。専用アプリ「H8 Control」は App Store からダウンロードできます。
- アプリでの設定や操作の方法については、専用アプリ「H8 Control」のマニュアルを参照してください。

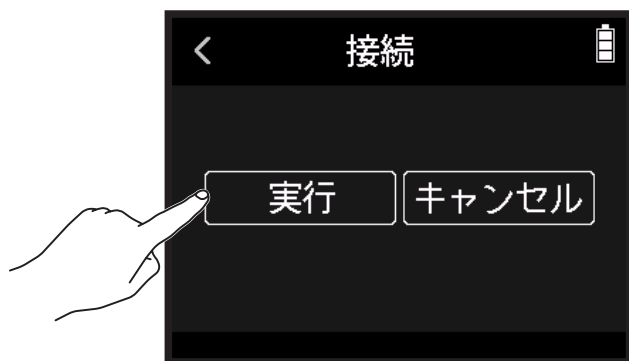
1. REMOTE 端子のカバーを外し、専用無線アダプター（BTA-1 など）を接続する



2. ホーム画面で BLUETOOTH をタップする



3. 実行 をタップする



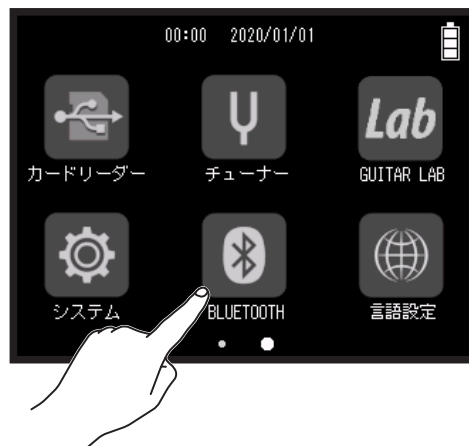
4. iOS/iPad OS デバイスで専用アプリ「H8 Control」を起動し、接続操作を行う

HINT

アプリでの設定や操作の方法については、専用アプリ「H8 Control」のマニュアルを参照してください。

iOS/iPad OS デバイスとの接続を解除する

1. ホーム画面で BLUETOOTH をタップする



2. 実行 をタップする

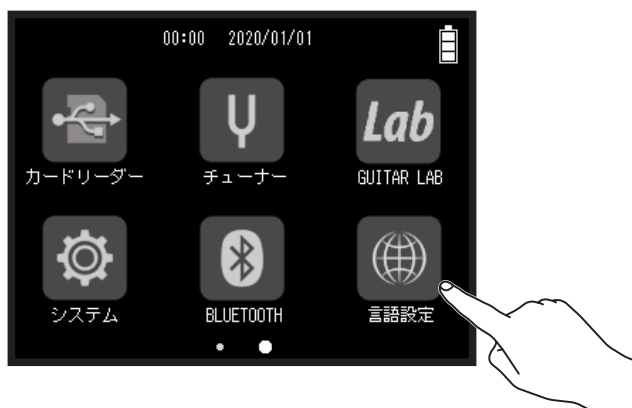


HINT

接続の解除後、再度 iOS/iPad OS デバイスで操作する場合は、ホーム画面 > BLUETOOTH > 接続をタップしてください。

表示言語を設定する

1. ホーム画面で 言語設定 をタップする



2. 言語を選んでタップする



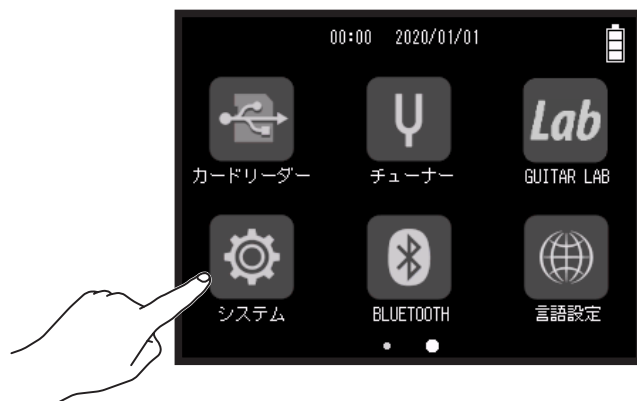
HINT

ご購入後、はじめて電源を ON にしたとき、この画面が自動的に表示されます。

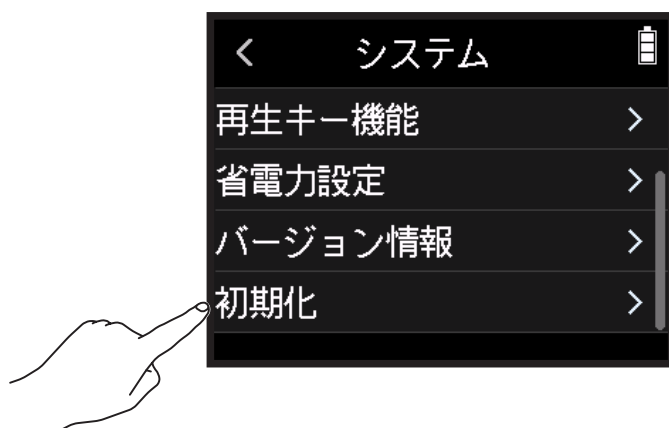
設定を初期値に戻す

工場出荷時の設定に戻すことができます。

1. ホーム画面で システム をタップする



2. 初期化 をタップする



3. 実行 をタップする

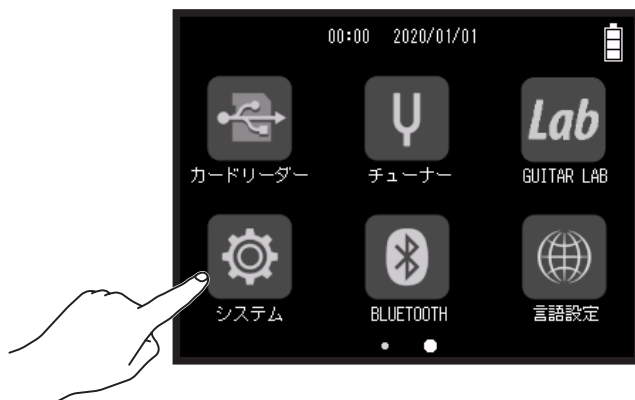


初期化が実行され、電源が自動的に OFF になります。

ファームウェアを管理する

ファームウェアのバージョンを確認する

1. ホーム画面で  システム をタップする



2. バージョン情報 をタップする



ファームウェアをアップデートする

H8 のファームウェアを、最新のバージョンにアップデートできます。

最新のファームウェアアップデート用ファイルは ZOOM の Web サイト (zoomcorp.com) からダウンロードできます。

H8 のダウンロードページにある「H8 ファームウェア・アップデートガイド」に従ってください。

オプションのマイクカプセルを使用する

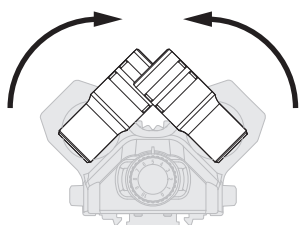
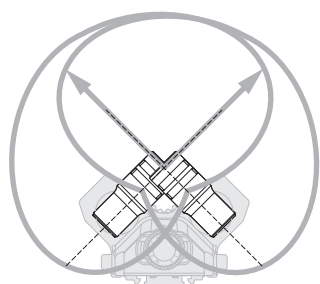
XAH-8 を使用する

特長と各部の役割

XAH-8 は2つのステレオ方式（「X-Y方式」および「A-B方式」）を使い分けることができる便利なマイクカプセルです。

■ X-Y方式

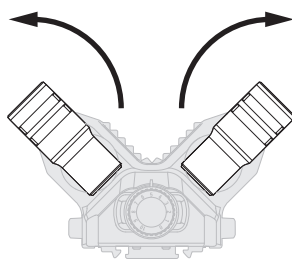
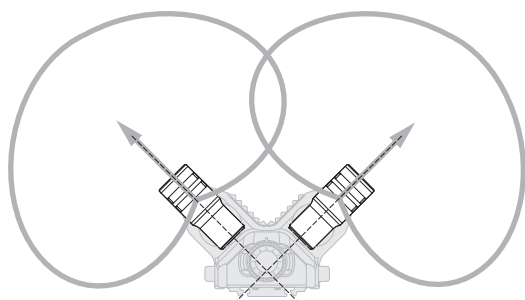
自然な奥行きと広がりを持った立体的なサウンドで特定の音源を狙った近～中距離の録音
例えばソロ演奏、室内楽、ライブリハーサル、フィールドレコーディングなどの録音に最適です。



カチッと音が鳴り固定されるまで
マイクを内側に交差させてください。

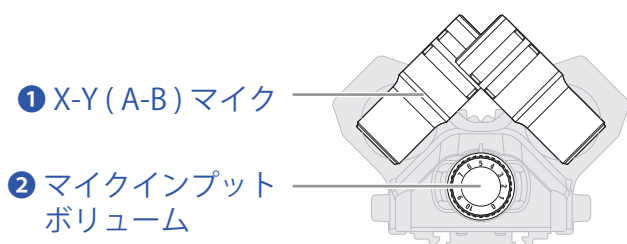
■ A-B方式

広がりがあるステレオ感が特徴で、特定の音源に加え周囲の環境音を含めた録音
例えばホールの残響も録音したい場合や会議などの録音に最適です。



カチッと音が鳴り固定されるまで
マイクを外側に交差させてください。

■ 各部の役割



① X-Y (A-B) マイク

X-Y (A-B) 方式のステレオマイクです。
マイクを回転させて集音角度を切り替えることが可能です。

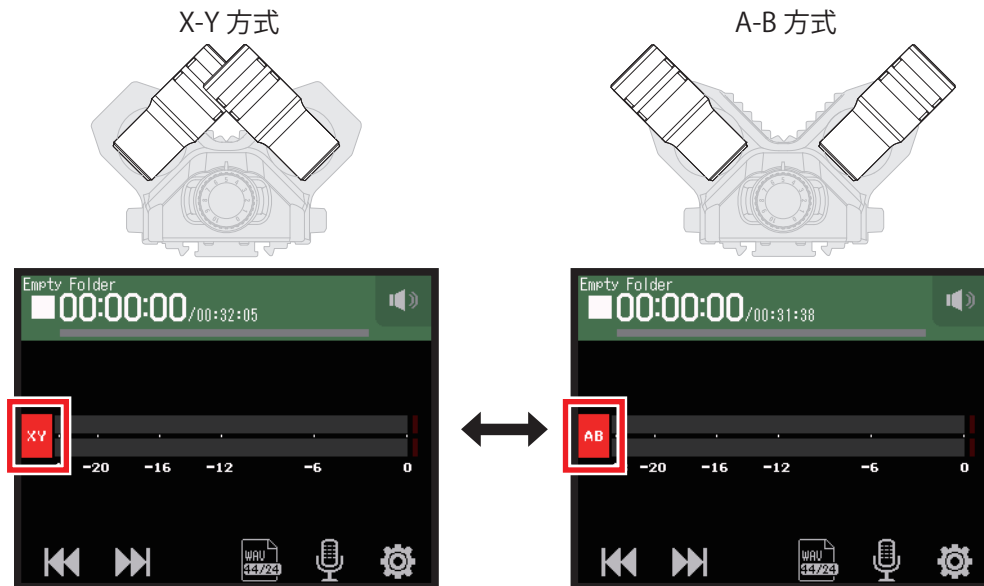
② マイクインプットボリューム

マイクのインプットボリュームを調節します。

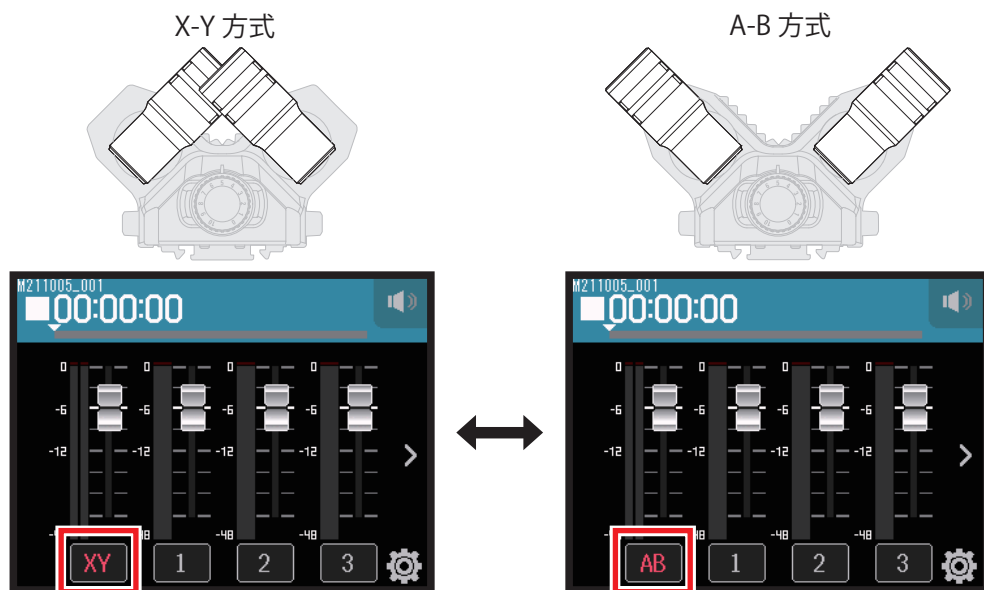
各アプリでの表示

XAH-8 を取り付けると、各アプリで以下のように表示されます。

■ フィールドアプリ



■ ミュージックアプリ






■ ポッドキャストアプリ



マイクカプセルによる表示の変化はありません。

トラックを設定する

















1. 各アプリからトラック設定画面を表示する

- ・フィールドアプリ画面 >  > XAH-8 を選択する
- ・ミュージックアプリ画面 > XY / AB を選択する > 
- ・ポッドキャストアプリ画面 >  > XAH-8 を選択する
の順にタップして選択する

2. 各項目をタップして設定する



設定できる項目は以下のとおりです。

項目	説明 / 参照	対応アプリ
トラック オン/オフ	トラックの録音をオン/オフできます。本体のマイクトラックキーでも設定できます。 → 25 ページ「録音するトラックを有効にする」	  
バックアップ	→ 27 ページ「バックアップ録音する（フィールドアプリ/ポッドキャストアプリのみ）」	 
低域カット	→ 33 ページ「ノイズを軽減する（低域カット）」	  
コンプ/リミッター/ゲート	→ 34 ページ「コンプ/リミッター/ゲート」	  
フェーダー/パン	→ 39 ページ「入力信号のモニターバランスをフェーダー/パンで調節する」	  
ファイル	→ 74 ページ「トラックに割り当てるファイルを変更する」	
エフェクト	→ 97 ページ「ポッドキャストアプリ画面からエフェクトを使用するトラックを設定する」	

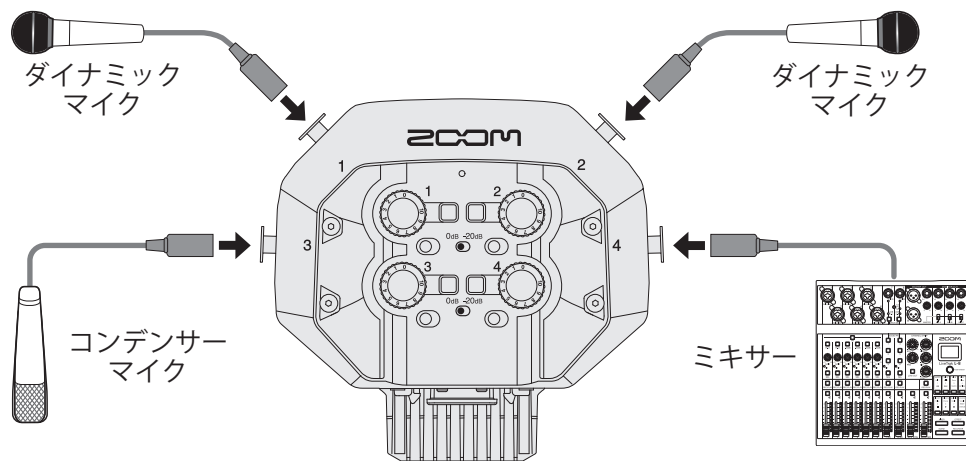
EXH-8 を使用する

特長と各部の役割

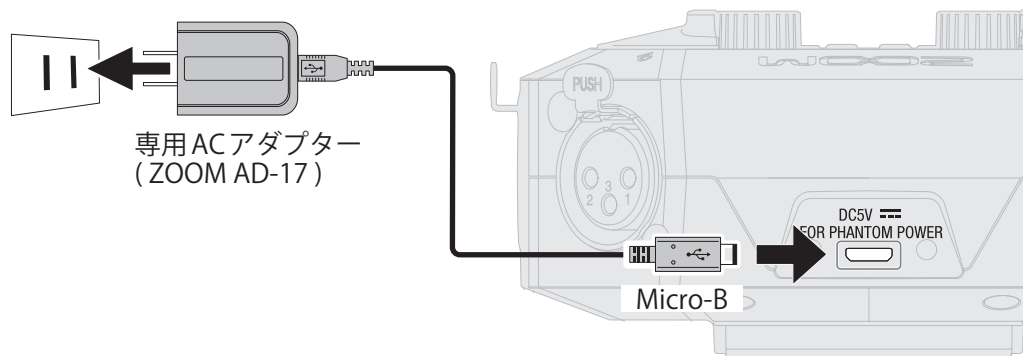
■ 特長

- 4チャンネル分の外部入力をプラスする XLR 対応のカプセル
- ダイナミック / コンデンサーマイクやミキサーなどの信号を入力可能
- 各インプットに個別のインプットボリュームを用意、録音現場で確実に素早いレベル合わせをサポート
- -20 dB の PAD スイッチにより、プロ機器が採用する +4 dB のラインレベルも歪みなく入力可能
- ファンタム電源の供給に対応

■ 接続例

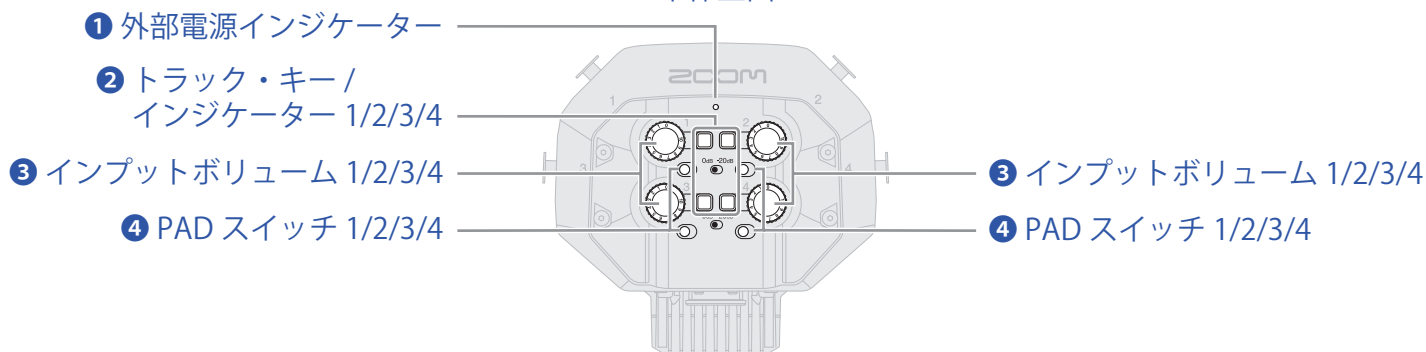


コンデンサーマイクなどファンタム電源を必要とする機器を接続する場合は、外部電源を使用してください。



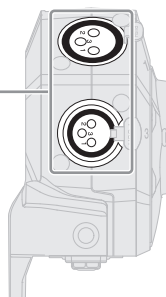
■ 各部の役割

本体正面



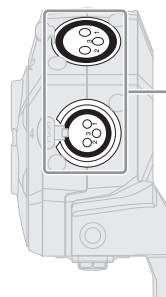
本体左側面

⑤ インプット 1/2/3/4



本体右側面

⑤ インプット 1/2/3/4



① 外部電源インジケータ

外部電源が接続されている時に点灯しファンタム電源が使用できます。

② トラック・キー / インジケータ 1/2/3/4

トラックのオン / オフをします。トラック・キーを押すと LED が赤色に点灯します。

③ インプットボリューム 1/2/3/4

インプットボリュームを調節します。

④ PAD スイッチ 1/2/3/4

インプット 1～4 に接続した機器の入力信号を 20 dB 減衰させます。

ミキサーなど出力基準レベルが +4 dBu の機器を接続するときに PAD スイッチを [-20dB] 側にします。

⑤ インプット 1/2/3/4

マイクやミキサーを接続します。

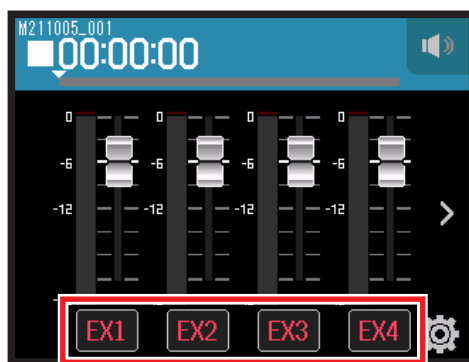
各アプリでの表示

EXH-8 を取り付けると、各アプリで以下のように表示されます。

■ フィールドアプリ



■ ミュージックアプリ






■ ポッドキャストアプリ



マイクカプセルによる表示の変化はありません。

トラックを設定する





















1. 各アプリからトラック設定画面を表示する

- ・フィールドアプリ画面 >  > EXH-8 1 ~ EXH-8 4 を選択する
- ・ミュージックアプリ画面 > EX1 ~ EX4 を選択する > 
- ・ポッドキャストアプリ画面 >  > EXH-8 1 ~ EXH-8 4 を選択するの順にタップして選択する

2. 各項目をタップして設定する



設定できる項目は以下のとおりです。

項目	説明 / 参照	対応アプリ
トラック オン/オフ	トラックの録音をオン/オフできます。本体のマイクトラックキーでも設定できます。 → 25 ページ「録音するトラックを有効にする」	  
ファンタム電源	→ 30 ページ「ファンタム電源を設定する」	  
低域カット	→ 33 ページ「ノイズを軽減する（低域カット）」	  
コンプ/リミッター/ゲート	→ 34 ページ「コンプ/リミッター/ゲート」	  
フェーダー/パン	→ 39 ページ「入力信号のモニターバランスをフェーダー/パンで調節する」	  
ステレオリンク	→ 41 ページ「ステレオリンクを設定する」	  
ファイル	→ 74 ページ「トラックに割り当てるファイルを変更する」	
エフェクト	→ 97 ページ「ポッドキャストアプリ画面からエフェクトを使用するトラックを設定する」	

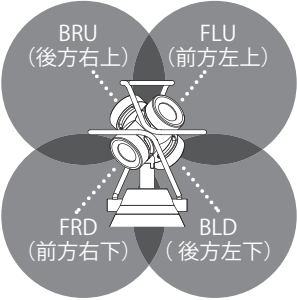
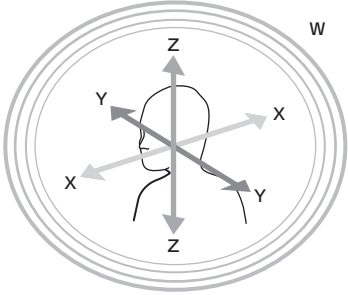
VRH-8 を使用する

特長と各部の役割

■ 特長

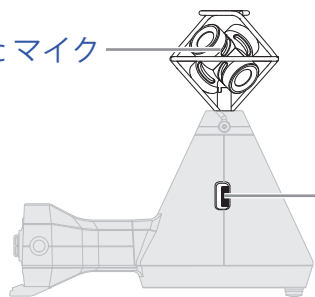
VRH-8 は 4 個のマイクを使用して上下の広がりや前後の奥行きを加えた 360° 録音が可能なアンビソニックマイクです。内蔵の位置センサーにより、マイクの向きによらず、適切なマイクポジションの設定で録音することができます。

■ 録音モード

Ambisonics A	Ambisonics B
<p>4 個の単一指向性コンデンサマイクで録音したままの音声ファイルです。</p> 	<p>A フォーマットを加工し、4 つのチャンネル (W / X / Y / Z) に振り分けた音声データです。チャンネルの振り分け方によって FuMa と AmbiX の 2 種類のモードがあります。</p> 

■ 各部の役割

① Ambisonic マイク



② マイク入力ボリューム

① Ambisonic マイク

単一指向性コンデンサマイク 4 個からなる Ambisonic マイクです。自然な奥行きと広がりをもった立体的なサウンドで録音できます。

② マイク入力ボリューム

マイクの入力ボリュームを調節します。

各アプリでの表示

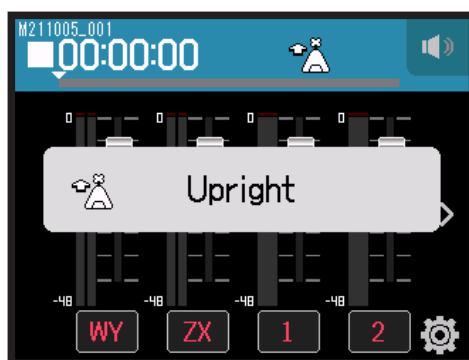
VRH-8 を取り付けると、各アプリで以下のように表示されます。

H8 の傾きは位置センサーで検知され、各アプリのトップ画面に表示されます。画面の表示に従って H8 の角度を調節してください。

■ フィールドアプリ



■ ミュージックアプリ






■ ポッドキャストアプリ



マイクカプセルによる表示の変化はありません。

トラックを設定する

















1. 各アプリからトラック設定画面を表示する

- ・フィールドアプリ画面 >  > VRH-8 を選択する
- ・ミュージックアプリ画面 > WY / ZX を選択する > 
- ・ポッドキャストアプリ画面 >  > VRH-8 を選択する
の順にタップして選択する

2. 各項目をタップして設定する



設定できる項目は以下のとおりです。




項目	説明 / 参照	対応アプリ
トラック オン/オフ	トラックの録音をオン/オフできます。本体のマイクトラックキーでも設定できます。 → 25 ページ「録音するトラックを有効にする」	  
アンビソニック	→ 157 ページ「アンビソニックの設定をする」	  
低域カット	→ 33 ページ「ノイズを軽減する（低域カット）」	  
コンプ / リミッター / ゲート	→ 34 ページ「コンプ / リミッター / ゲート」	  
フェーダー / パン	→ 39 ページ「入力信号のモニターバランスをフェーダー / パンで調節する」	  
ファイル	→ 74 ページ「トラックに割り当てるファイルを変更する」	

NOTE

エフェクトとフェーダー / パンのパンは使用できません。

アンビソニックの設定をする

1. 各アプリからトラック設定画面を表示する

- フィールドアプリ画面 >  > VRH-8 > アンビソニック を選択する
- ミュージックアプリ画面 > WY/ZX >  > アンビソニック を選択する
- ポッドキャストアプリ画面 >  > VRH-8 > アンビソニック を選択するの順にタップして選択する

2. 各項目をタップして設定する



■ フォーマット

録音するファイルの形式を設定します。



設定	説明
FuMa	Ambisonic B フォーマットの FuMa (4 ch) として記録します。
AmbiX	Ambisonic B フォーマットの AmbiX (4 ch) として記録します。
Ambisonics A	Ambisonic A フォーマット (4 ch) として記録します。
ステレオ	通常のステレオ (2 ch) ファイルとして記録します。
バイノーラル	バイノーラルに変換したステレオ (2 ch) ファイルとして記録します。

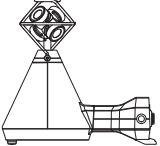
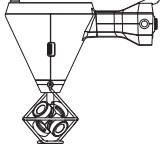
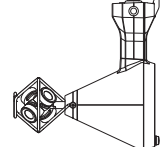
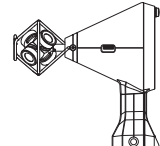
NOTE

録音フォーマットが 96k/16bit または 96k/24bit の場合、バイノーラルは使用できません。

■ マイクポジション

録音する際のマイクポジションを設定します。どのマイクポジションを選択しても、正面を向いた時と同じ定位で録音されます。



設定	説明
自動	録音を開始する時に、自動でマイクポジションを下記4つの中から設定します。
Upright	正面 ← 
Upside Down	正面 ← 
Endfire	正面 ← 
Endfire Invert	正面 ← 

NOTE

- マイクポジションの設定と録音時のマイクの向きが合っていないと、正しい向きの録音ファイルが作成されず、再生時の正面方向がずれてしまいます。
- マイクポジションの設定が自動の場合、4つのマイクポジション設定の中の最も近い向きに誘導するアニメーションが表示されます。
- マイクポジションの設定は録音を開始すると固定されます。録音中にマイクの向きを変更しても、マイクポジションの設定は変更されません。

HINT

反射を最小限に抑えられるように、VRH-8を壁や地面からできるだけ離れた場所に設置して録音することを推奨します。

■ Ambisonic モニター

入力信号を PHONE OUT 端子や LINE OUT 端子に出力する際の変換方式を設定します。



設定	説明
ステレオ	入力音を通常のステレオに変換してモニターします。
バイノーラル	入力音をバイノーラルに変換してモニターします。

NOTE

録音フォーマットが 96k/16bit または 96k/24bit の場合、バイノーラルは使用できません。

付録

故障かな？と思われる前に

H8 の動作がおかしいと感じられたときは、まず次の項目を確認してください。

録音／再生のトラブル

■ 音が出ない、もしくは非常に小さい

- モニターシステムの接続、およびモニターシステムの音量を確認してください。
- H8 の音量が下がっていないか確認してください。(→ [42 ページ「ヘッドフォン出力レベルを設定する」](#))

■ 接続した機器や入力からの音が聞こえない、もしくは非常に小さい

- マイクカプセルを使用している場合は、マイクを向ける方向が適切かどうか確認してください。
- 入力レベルの設定を確認してください。(→ [26 ページ「録音（入力）レベルを設定する」](#))
- 入力端子に CD プレーヤーなどを接続しているときは、接続した機器の出力レベルを上げてみてください。
- 入力信号のモニター設定を確認してください。(→ [39 ページ「入力信号のモニターバランスをフェーダー／パンで調節する」](#))
- ファンタム電源や、プラグインパワーの設定を確認してください。(→ [30 ページ「ファンタム電源を設定する」](#))
(→ [28 ページ「プラグインパワーを使用する」](#))

■ 録音できない

- トラックキーのインジケーターが赤く点灯していることを確認してください。
- SD カードに空き容量があることを確認してください。(→ [117 ページ「SD カードの情報を確認する」](#))
- カードスロットに SD カードが正しくセットされていることを確認してください。
- 「SD カードが書き込み禁止です!」と表示されたら、SD カードに書き換え保護がかけられています。ロックスイッチをスライドさせてライトプロテクトを解除してください。

■ 録音した音が聞こえない、もしくは非常に小さい

- 各トラックの音量レベルが下がっていないか確認してください。(→ [26 ページ「録音（入力）レベルを設定する」](#))
- 再生時にトラックキーのインジケーターが緑色に点灯していることを確認してください。

その他のトラブル

■ USB 端子をパソコンに接続しても認識されない

- ZOOM の WEB サイト (zoomcorp.com) で対応 OS を確認してください。
- H8 をパソコンに認識させるためには、H8 側で動作モードを選択する必要があります。(→ [112 ページ「オーディオインターフェースとして使用する」](#)) (→ [122 ページ「カードリーダーとして使用する」](#))

■ 電池の持続時間が短い

以下の設定を行うことで、電池持続時間を長くできる場合があります。

- 電池の種類を正しく設定する。(→ [134 ページの「電池の種類を設定する」](#))
- 不要なトラックをオフにする。(→ [25 ページ「録音するトラックを有効にする」](#))
- ファンタム電源の電圧設定を 24 V にする。(→ [32 ページ「ファンタム電源の電圧を設定する」](#))
- LCD の明るさを暗くする。(→ [136 ページ「LCD の明るさを設定する」](#))
- しばらくの間操作をしないと LCD が暗くなるように設定する。(→ [137 ページ「LCD のバックライトを設定する」](#))
- 録音ファイルのサンプルレートを下げる。(→ [47 ページ](#)、[91 ページ「録音フォーマットを設定する」](#))
- 一般的な特性として、消費電力が大きい設定の場合、ニッケル水素充電池 (大容量を推奨)、リチウム乾電池の方がアルカリ電池よりも長時間使用できます。

仕様

記録メディア	SD/SDHC/SDXC 規格対応カード			
XY マイク：XYH-6	マイク	単一指向性マイク		
	感度	-41 dB/1Pa 1 kHz		
	入力ゲイン	-∞ ~ 46.5 dB		
	最大入力音圧	136 dB SPL		
	MIC/LINE IN (ステレオミニジャック)	入力ゲイン：-∞ ~ 46.5 dB	入力インピーダンス：2 kΩ	プラグインパワー 2.5 V 対応
入力	MIC IN	<バックアップ録音>	入力ゲインから -12 dB	
		INPUT1 ~ 4	コネクタ	XLR ジャック (2 番 HOT)
	INPUT1 ~ 4	入力ゲイン	-30 ~ 55.5 dB ※ PAD は -20 dB	
		入力インピーダンス	2 kΩ 以上	
		最大許容入力レベル	+24.0 dBu (PAD ON)	
		ファンタム電源	+24/+48 V INPUT1 ~ 4 個別に ON/OFF	
		入力換算雑音	-123.5 dBu 以下 (A-wt)	
		INPUT A、B	コネクタ	XLR/TRS コンボジャック (XLR：2 番ホット TRS：TIP ホット)
	入力ゲイン		-30 ~ 55.5 dB	
	入力インピーダンス		7 kΩ 以上 ※ Hi-Z(TS) は 300 kΩ 以上	
	最大許容入力レベル		+4.0 dBu ※ Hi-Z(TS) は -2.0 dBu	
	ファンタム電源		+24/+48 V INPUT A、B 個別に ON/OFF	
	入力換算雑音		-123.5 dBu 以下 (A-wt)	
	出力	出力端子	LINE OUT (ステレオミニジャック)	定格出力レベル：-10 dBu (出力負荷インピーダンス 10 kΩ 以上時)
PHONE OUT (ステレオミニジャック)			最大出力レベル：20 m W+20 m W (32 Ω 負荷時)	
内蔵スピーカー		400 mW 8 Ω モノラルスピーカー		
記録フォーマット	フィールド	< WAV 選択時 >		
		対応フォーマット	44.1/48/96 kHz 16/24-bit モノ/ステレオ BWF フォーマット対応	
		最大同時録音トラック	12 トラック (MIC IN、バックアップ録音、1-4、A、B、LR)	
		< MP3 選択時 >		
	ミュージック	対応フォーマット	128、192、320 kbps	
		最大同時録音トラック	2 トラック	
	ポッドキャスト	< WAV 選択時 >		
		対応フォーマット	44.1/48 kHz 16/24-bit モノ/ステレオ BWF フォーマット対応	
		最大同時録音トラック	8 トラック (MIC IN、1-4、A、B)	
		< MP3 選択時 >		
対応フォーマット		128、192、320 kbps		
最大同時録音トラック		2 トラック		
録音時間	< 32 GB カードの場合 >			
	50 時間 8 分 (WAV 44.1 kHz/16-bit/ステレオファイル)			
	555 時間 28 分 (MP3 128 kbps/ステレオファイル)			
チューナー	Chromatic/Guitar/Bass/Open A/Open D/Open E/Open G/DADGAD			
表示	2.4" フルカラー—LCD (320 × 240)、タッチスクリーン			

USB	<p>USB Micro-B</p> <p><マスタストレージクラス動作></p> <p>USB2.0 High Speed</p> <p>< Guitar Lab 接続機能></p> <p>USB1.1 Full Speed</p> <p><オーディオインターフェース動作：マルチトラックモード (※ Windows にはドライバが必要。Mac は不要。) ></p> <p>USB2.0 High Speed</p> <p>44.1/48/96 kHz、16/24-bit、12in2out</p> <p><オーディオインターフェース動作：ステレオモード></p> <p>USB2.0 Full Speed</p> <p>44.1/48 kHz、24-bit、2in2out</p> <p>※ iPad 用オーディオインターフェース動作サポート (ステレオモードのみ)</p> <p>※ データ転送に対応した USB ケーブルを使用してください。USB バスパワー対応。</p>
REMOTE	専用無線アダプター (ZOOM BTA-1)
連続録音中の電池持続時間の目安	<p>アルカリ乾電池使用時</p> <p>XY マイク使用、44.1 kHz/24-bit (ステレオ x1) 約 10 時間</p> <p>※ 上記の値はあくまで目安です。</p> <p>※ 電池持続時間は当社試験法によるものです。使用条件により大きく変わります。</p>
電源	<p>単三電池 × 4 (アルカリ乾電池、ニッケル水素蓄電池、リチウム乾電池)</p> <p>AC アダプター (ZOOM AD-17) : DC 5 V/1 A</p> <p>※ USB バスパワー対応</p>
外形寸法	<p>本体 : 116.4 mm (W) × 163.3 mm (D) × 48.6 mm (H)</p> <p>XYH-6 : 78.9 mm (W) × 60.2 mm (D) × 45.2 mm (H)</p>
質量	<p>本体 : 354 g</p> <p>XYH-6 : 130 g</p>

zoom[®]

株式会社ズーム

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 4-4-3
zoomcorp.com

Z2I-4104-04